岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第350集

市部内遺跡発掘調査報告書

主要地方道一戸葛巻線市部内地区県単道路改良事業遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第350集

市部内遺跡発掘調査報告書　　正　誤　表

ページ	行・図・表	誤	正
目次	28行目	RD20, 21, 25, 26	RD21, 25, 26
P 2	28行目	(図版6～7図)	(図版5～7図)
P 7	図中	33	●
P 21	1行目	3．Ⅳ、層上面	3．Ⅳ層上面
P 29	12行目	Z字状やの	Z字状の
P 55	図スケール	1：20	1：2
P 59	図スケール	1：5　20cm	1：5　25cm
P 59	図スケール	1：4　10cm	1：4　20cm
P 61	図スケール	1：20	1：2
P 68	図スケール	1：20	1：2
P 81	表13行目	突起 R1	突起 RL
P 83	表20行目	突起 C字御	突起 C字文

いち べ ない
市部内遺跡発掘調査報告書

主要地方道一戸葛巻線市部内地区県単道路改良事業遺跡発掘調査

序

岩手県は、埋蔵文化財の宝庫だと言われております。この先人達が遺した貴重な文化遺産を保護し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。また、一方では幹線道路網の整備など、社会資本を充実させていくことも行政上重要な施策であります。このため、埋蔵文化財の保護と地域開発の調和ということも、今日的課題であります。こうした見地から、財団法人岩手県文化振興事業団では埋蔵文化財センターを創設以来、岩手県教育委員会文化課による発掘調査事業の調整と指導のもとに、道路建設などに関連してやむを得ず消滅してゆく遺跡についての発掘調査を実施し、発掘調査報告書として記録保存する措置を取ってまいりました。

本報告書は、「主要地方道一戸葛巻線市部内地区県単道路改良事業」に関連して、平成１１年度に実施した市部内遺跡の発掘調査結果をまとめたものであります。

今回の調査によって、縄文時代晩期とおもわれる貴重な住居跡・土坑などの遺構や、土器などの遺物が検出され、縄文時代の集落跡であることが確認され、貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、考古学の研究に寄与するとともに、埋蔵文化財にたいする理解をいっそう深めることに役立つことになれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご協力とご援助を賜りました盛岡地方振興局・葛巻町教育委員会はじめ、関係機関・関係各位に深く感謝申し上げます。

平成13年３月

財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　千　葉　　浩　一

例　言

1．本報告書は岩手県岩手郡葛巻町田部字市部内30番地－１ほかに所在する市部内遺跡の調査結果を収録したものである。

2．本調査は県道一戸葛巻線道路改良工事にともない遺跡の一部が消滅するため、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。調査は岩手県盛岡地方振興局土木部と岩手県教育委員会文化課との協議をへて、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

3．岩手県遺跡台帳に登録されている遺跡番号は、ＪＦ５２－１２１３、遺跡略号はＩＢＮ－９９である。

4．調査面積は2,500㎡で野外調査期間は平成11年６月１日～平成11年８月15日である。

5．室内整理期間は、平成11年11月１日～平成12年３月31日である。

6．野外調査は、中田迪・鳥居達人が担当した。

7．本書の原稿執筆・編集は中田迪が担当した。

8．出土品の分析・鑑定は次の機関に依頼した。

　石材鑑定　　花崗岩研究会

　火山灰分析鑑定　　（株）古環境研究所

9．本報告書では、国土地理院発行の50,000分の１の地形図、岩手県盛岡地方振興局作成の500分の１の地形図を1,000分の１に縮小したものを使用した。

10．土層の色調観察には、農林水産技術協会事務局監修の「新版標準土色張」を用いた。

11．基準点測量は岩手開発測量設計株式会社に依頼した。

12．空中写真撮影は東邦航空株式会社に依頼した。

13．野外調査では市部内地区、葛巻町をはじめとする地元の方々の協力をいただいた。

14．室内整理では青森県立郷土館鈴木克彦氏のご教示とご助言を賜った。

15．調査にかかわる諸記録及び遺物等の資料は、岩手県埋蔵文化財センターに保管してある。

本文目次

Ⅰ．調査に至る経過 …… 1
Ⅱ．遺跡の立地と環境 …… 2
　1．遺跡の位置及び地理的環境 …… 2
　2．周辺の遺跡 …… 2
Ⅲ．調査の方法と室内整理の方法 …… 12
　1．調査方法 …… 12
　2．室内整理方法 …… 12
Ⅳ．検出された遺構と遺物 …… 16
　1．基本土層 …… 16
　2．Ⅲ層上面の検出遺構 …… 16
　　(1) 焼土遺構 …… 16
　　ＲＦ０１，ＲＦ０２，ＲＦ０３，…… 16
　　ＲＦ０４，ＲＦ０５，ＲＦ０６，…… 17
　　ＲＦ７ …… 17
　　(2) 柱穴状土坑群 …… 17
　　(3) 畝間状遺構 …… 17
　3．Ⅳ層上面の検出遺構(縄文時代) …… 21
　　(1) 竪穴住居跡 …… 21
　　ＲＡ０１，ＲＡ０２，…… 21
　　ＲＡ０３ …… 23
　　ＲＡ０４，ＲＡ０５，ＲＡ０６，…… 27
　　ＲＡ１２，ＲＡ１３ …… 29
　　(2) 土坑 …… 32
　　ＲＤ０５，０６，０７ …… 32
　　ＲＤ０８，１０，１１ …… 34
　　ＲＤ１３，１４，１５，…… 36
　　ＲＤ１６，１７，１９，２０ …… 37
　　ＲＤ２０，２１，２５，２６ …… 39
　　ＲＤ２７，２８，２９，３０ …… 41
　　ＲＤ３１，３２ …… 43
　　(3) 墓 壙 …… 43
　　ＲＴ０１ …… 43
　　ＲＴ０２，０３，０４，０５ …… 45
　　(4) 埋設土器 …… 47
　　ＲＺ０１，０２，０３ …… 47
　　ＲＺ０４ …… 47
　　(5) 溝跡 …… 49
　　(6) 配石遺構 …… 49
　　(7) 掘立柱建物跡 …… 49
　　ＲＢ …… 49
Ⅴ．遺構外出土遺物 …… 52
　1．土器 …… 52
　2．土製品 …… 52
　3．石器 …… 52
Ⅵ．まとめ …… 74
　1．遺構 …… 74
　2．遺物 …… 74
Ⅶ．火山灰分析 …… 75
　1．はじめに …… 75
　2．分析試料 …… 75
　3．分析・測定方法 …… 75
　4．分析結果 …… 75
　5．まとめ …… 76
　　表１・２・３
　　図１

　引用参考文献 …… 86

図版目次

第１図　岩手県全図 …… 2
第２図　遺跡位置図 …… 3
第３図　地形区分図 …… 4
第４図　周辺の地形と調査区 …… 5
第５図　周辺の遺跡図①　馬淵川中流域・田部・葛巻地区 …… 6
第６図　周辺の遺跡図②　馬淵川上中流域・葛巻・江刈地区 …… 7
第７図　周辺の遺跡図③　馬淵川上流域・江刈地区 …… 8
第８図　グリッド設定図 …… 13
第９図　Ⅱ区遺構配置図 …… 14
第10図　Ⅲ区遺構配置図 …… 15
第11図　基本土層 …… 16
第12図　1～4号焼土・柱穴状小土坑群 …… 18
第13図　5～7号焼土 …… 19
第14図　畝間状遺構 …… 20
第15図　1号竪穴住居跡　ＲＡ01 …… 22
第16図　2号竪穴住居跡　ＲＡ02 …… 24
第17図　3号竪穴住居跡　ＲＡ03 …… 25
第18図　4号竪穴住居跡　ＲＡ04 …… 26
第19図　5･6号竪穴住居跡　ＲＡ05･06 …… 28
第20図　12号竪穴住居跡　ＲＡ12 …… 30
第21図　13号竪穴住居跡　ＲＡ13 …… 31
第22図　5～8号土坑　ＲＤ5～8 …… 33
第23図　10･11･13･14号土坑　ＲＤ10･11･13･14 …… 35
第24図　15～17･19号土坑　ＲＤ15～17･19 …… 38
第25図　20･21･25･26号土坑　ＲＤ20･21･25･26 …… 40
第26図　27～30号土坑　ＲＤ27～30 …… 42
第27図　31～32号土坑　ＲＤ31･32 …… 44
第28図　1～5号墓壙　ＲＴ01～05 …… 46
第29図　1～4号埋設土器　ＲＺ01～04 …… 48
第30図　溝跡　ＲＧ01 …… 50
第31図　配石遺構･掘立柱建物跡　ＲＢ …… 51
第32図　ＲＦ01･ＲＡ01･02(1)出土遺物 …… 54
第33図　ＲＡ02(2)出土遺物 …… 55
第34図　ＲＡ03(1)出土遺物 …… 56
第35図　ＲＡ03(2)･04(1)出土遺物 …… 57
第36図　ＲＡ04(3)･05･06出土遺物 …… 58
第37図　ＲＡ12出土遺物 …… 59
第38図　ＲＡ13出土遺物 …… 60
第39図　ＲＤ05･06出土遺物 …… 61
第40図　ＲＤ07･08出土遺物 …… 62
第41図　ＲＤ11出土遺物 …… 63
第42図　ＲＤ13･14･16･20･ＲＤ21･25･26出土遺物 …… 64
第43図　ＲＤ27･28･29出土遺物　ＲＴ01～04号墓壙出土遺物 …… 65
第44図　1･2号埋設土器 …… 66
第45図　3･4号埋設土器　溝状遺構出土遺物 …… 67
第46図　遺構外出土遺物(土器1) …… 68
第47図　遺構外出土遺物(土器2) …… 69
第48図　遺構外出土遺物（土器3） …… 70
第49図　遺構外出土遺物（土器4・土製品） …… 71
第50図　遺構外出土遺物（石器1） …… 72
第51図　遺構外出土遺物（石器2・石製品） …… 73

写真図版目次

写真図版１　遺跡遠景・近景・遺跡Ⅱ区全景 … 89
写真図版２　各地域完堀 …… 90
写真図版３　1～5号焼土　ＲＦ01~05… 91
写真図版４　6号焼土・柱穴状小土坑　ＲＦ06 …… 92
写真図版５　畝間状遺構・遺物出土状況他 …… 93
写真図版６　1号竪穴住居跡　ＲＡ01 …… 94
写真図版７　2号竪穴住居跡　ＲＡ02 …… 95
写真図版８　3号竪穴住居跡　ＲＡ03 …… 96
写真図版９　4号竪穴住居跡　ＲＡ04 …… 97
写真図版10　5・6号竪穴住居跡　ＲＡ5･6 …… 98
写真図版11　12･13号竪穴住居跡 ＲＡ12･13… 99
写真図版12　5～8号土坑　ＲＤ5･6　ＲＤ7･8 ……100
写真図版13　8･10･11号土坑　ＲＤ8･10　ＲＤ11 ……101
写真図版14　13～16号土坑　ＲＤ13~16…102
写真図版15　17･19～21号土坑　ＲＤ17･19　ＲＤ20･21…103
写真図版16　25～29号土坑　ＲＤ25~29…104
写真図版17　30～32号土坑　ＲＤ30~32…105
写真図版18　1～4号墓壙　ＲＴ1～4 …106
写真図版19　5号墓壙・1～3号埋設土器　ＲＺ1～3 …107
写真図版20　4号埋設土器・埋設土器列　ＲＺ4 ……108
写真図版21　掘立柱建物跡・柱穴・配石遺構・溝跡　ＲＢ　ＲＧ……109
写真図版22　遺構内出土遺物(1) ……110
写真図版23　遺構内出土遺物(2) ……111
写真図版24　遺構内出土遺物(3) ……112
写真図版25　遺構内出土遺物(4) ……113
写真図版26　遺構内出土遺物(5) ……114
写真図版27　遺構内出土遺物(6) ……115
写真図版28　遺構内出土遺物(7) ……116
写真図版29　遺構内出土遺物(8) ……117
写真図版30　遺構内出土遺物(9) ……118
写真図版31　遺構内出土遺物(10) ……119
写真図版32　遺構内出土遺物(11) ……120
写真図版33　遺構外出土遺物(土器1)……121
写真図版34　遺構外出土遺物(土器2)……122
写真図版35　遺構外出土遺物(土器3)……123
写真図版36　遺構外出土遺物(土製品・石器1)…124
写真図版37　遺構外出土遺物(石器2・石製品)…125

Ⅰ．　調査に至る経過

市部内遺跡は、「主要地方道一戸葛巻線市部内地区県単道路改良事業」の施工に伴って、その事業地域内に位置することから発掘調査することとしたものである。

当事業は主要地方道一戸葛巻線のうち、葛巻町内で唯一の未改良区間となっている市部内地区の道路改良事業である。

事業実施に伴って、周知の埋蔵文化財包蔵地である市部内遺跡（ＪＦ５２－１２１３）の存在が明らかとなり、これに係わる取り扱いについて、岩手県盛岡地方振興局と岩手県教育委員会の間で協議を重ね平成10年７月22日には埋蔵文化財の内容把握のために試掘調査を実施した。その結果、縄文時代後期と考えられる土器の他、住居跡と考えられる遺構が発見されたことにより、工事施工に伴って事前に発掘調査が必要である旨を盛岡地方振興局に回答した。

回答を受けた盛岡地方振興局では、教育委員会からの「平成11年度における埋蔵文化財関連開発事業計画について」の事業照会にたいして、平成11年度事業として取り上げるよう依頼した。事業集約をした教育委員会では、盛岡地方振興局に対して平成11年度の財団法人岩手県文化振興事業団の受託事業として発掘調査を実施する旨を通知し、併せて財団法人岩手県文化振興事業団にも同様の通知をした。

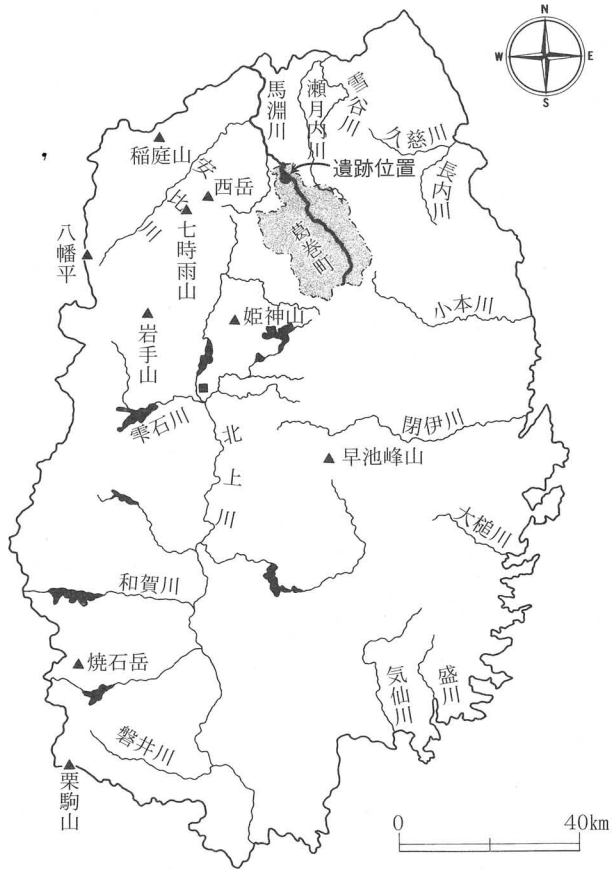
（盛岡地方振興局土木部）

Ⅱ.　遺跡の立地と環境

1．遺跡の位置及び地理的環境(第2図)

市部内遺跡の所在する葛巻町は、岩手県内陸北西寄りに位置し、東は山形村と岩泉町、南は玉山村西は岩手町、北は一戸町と九戸村と接する。面積約433.87㎢，人口は平成11年現在約１万人強である。年平均気温は８～９℃と低く、特に冬季は厳寒の地の一つとされている。降水量も年間1,200㎜以下と県内でも少ない方である。

葛巻町は北上山地の北部に当たり、標高1,000mを越す峰もいくつかあり、準平原とはいえ急峻な地形も多い。町の中央を流れる馬淵川は、東部の袖山に源を発し、外山川や山形川と町域中央付近で合流して北流し、さらに星野川など大小の河川と合流し、一戸町に入り二戸市で安比川と合流し、八戸市で太平洋に注ぐ。馬淵川の上流域にあたる当地は谷底平野や山麓緩斜面の発達も狭いが、川沿いには耕地が開け、稲作・たばこ・飼料作物などが栽培されている。



第１図　岩手県全図

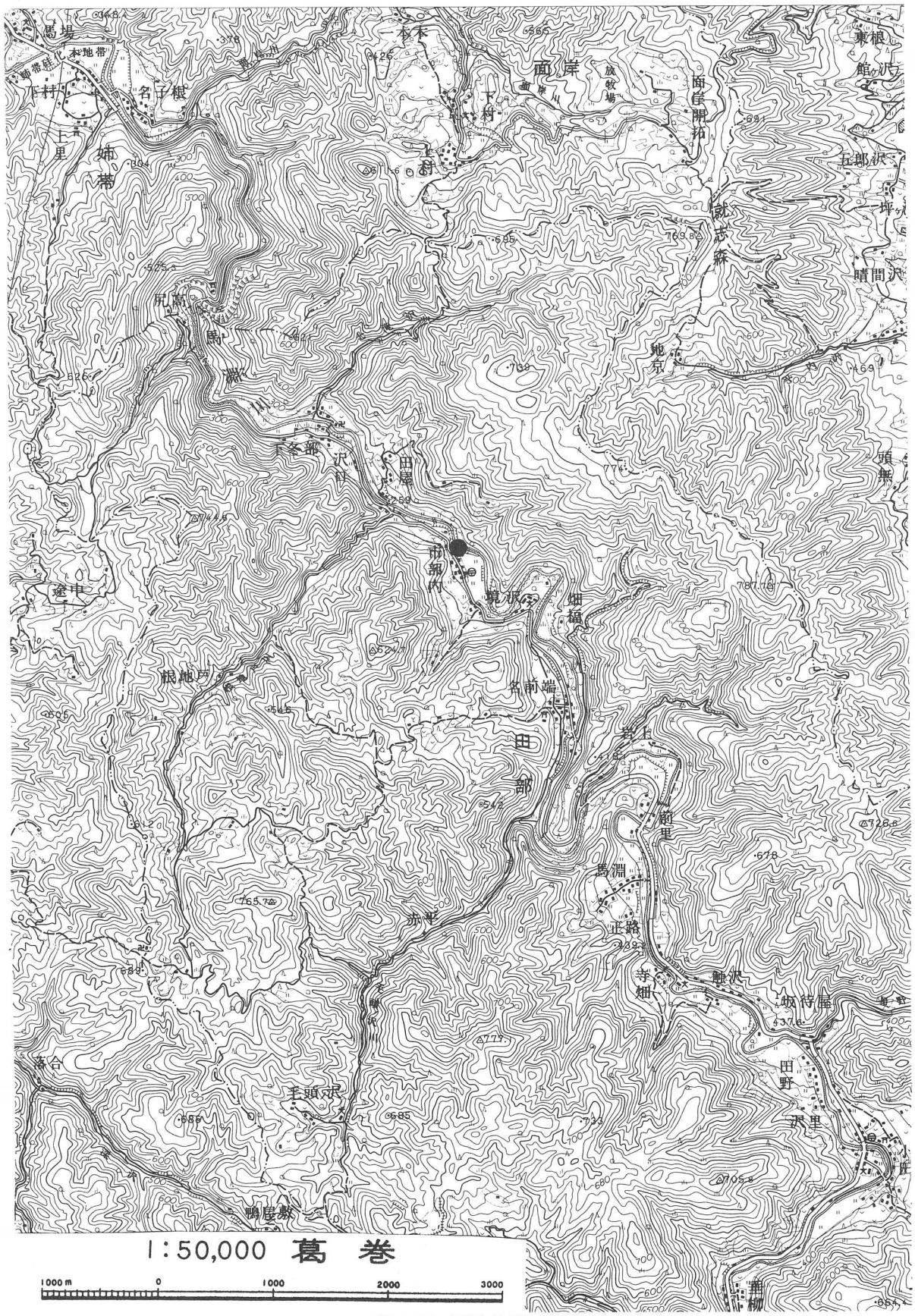
町域の７割以上が標高400～800mの高地にあり、森林面積も84％を占めており、林業と酪農を経済基盤としている。本県酪農の先進地区の一つとして発展し、北上山系大規模畜産開発事業が進められ、袖山高原や塚森高原、土谷川高原などに草地造成が行われ、畜産公社による粗飼料生産が行われている。乳牛頭数は8,300頭を越している。

市部内遺跡は、葛巻町北部の田部地区の北西寄りに位置する。馬淵川に沿って造られた県道一戸葛巻線のほぼ中央付近に当たるが、一戸町にかなり近い位置にある。川の両岸は山並みが迫り、段丘の発達規模が小さく、谷底平野や山嶺緩斜面の発達も狭い地域である。遺跡はこの馬淵川左岸に作られた段丘上に立地し、標高273m～276m、現河床からの比高約10～15mである。北緯40°7′21"、東経141°22′34"付近に位置する。遺跡西側には湧水量豊富な泉があり、周辺住民の憩いの場となっている。

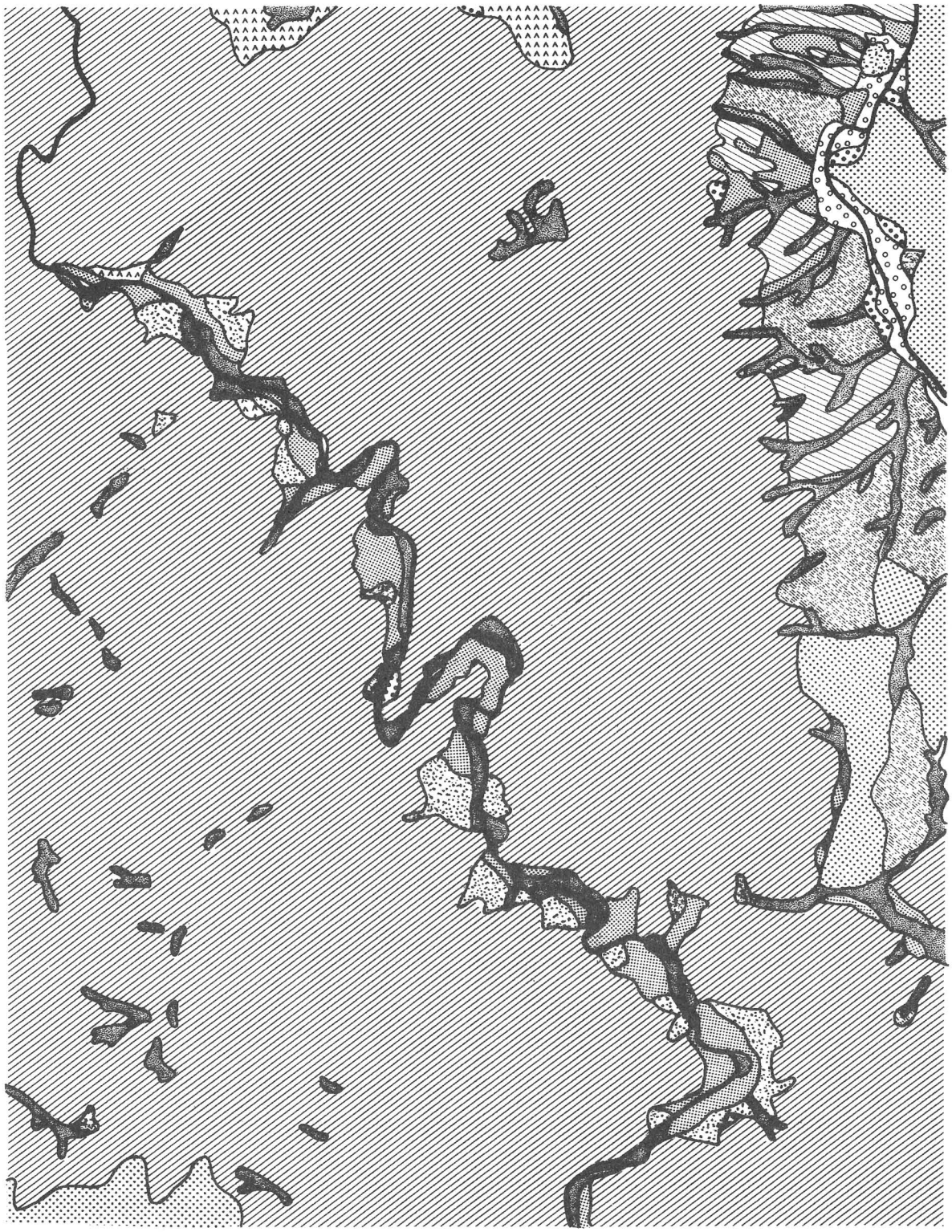
2．周辺の遺跡（図版6～8図）

岩手県遺跡台帳によると、平成11年３月現在葛巻町内には、117の遺跡が登録されている。その内訳は縄文時代83カ所、中世城館32カ所、弥生時代遺跡、旧石器時代遺跡１カ所で、複合遺跡もある。このほかにも近世鉄山跡・洞穴遺跡など未登録の遺跡もある.

これまでに発掘調査された遺跡は、約３千年前の後期旧石器時代にあたる「泥這遺跡」が唯一で、ここからは平地住居跡と石斧・尖頭器等の石器が出土している。市部内遺跡の調査は、縄文時代遺跡として初めてであるが、本格的な発掘調査として町民の関心を集めた。この市部内遺跡の調査に少し遅れて、岩手県教育委員会文化課と葛巻町教育委員会による品井沢遺跡の調査も行われている。


1:50,000 葛 巻
1000 m
0
1000
2000
3000
一本木
面岸
下村
上村
名子根
姉帯
面岸開拓
就志森
東根
館沢
五郎沢
晴間沢
頭無
尻高
馬計
沢内
田屋
市部内
焼沢
畑橋
名前端
田部
岩上
前里
馬淵
正路
寺畑
蝋沢
坂待屋
田野
沢里
赤平
根地内
途中
落合
手頭沢
鴉屋敷
荒柳

第２図　遺跡位置図

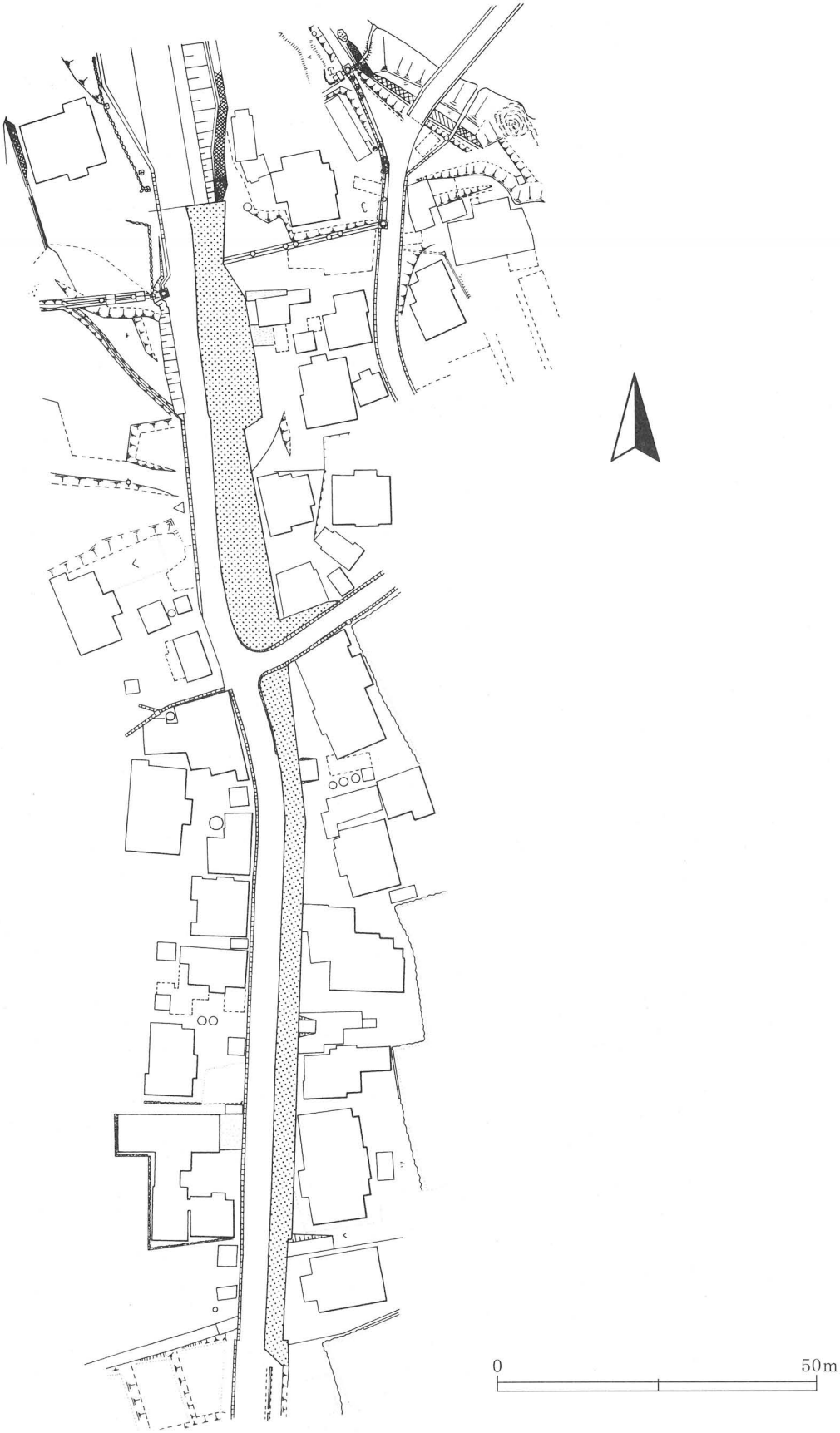


0　200m

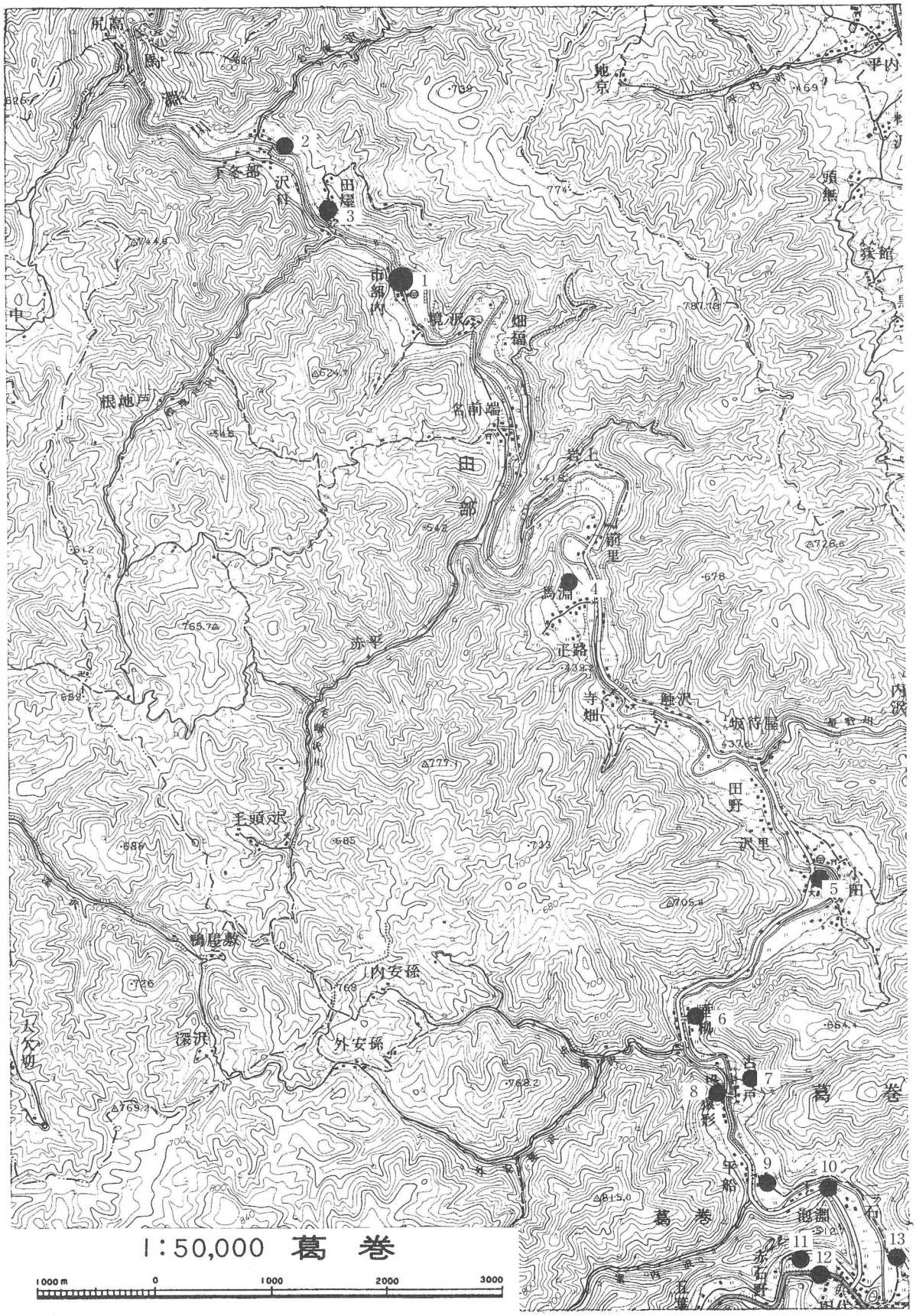
大・中起状山地　小起状山地　山麓地及び他の緩斜面　岩石段丘　谷地平野　氾濫平野

丘陵地Ⅰ　丘陵地Ⅱ　砂礫段丘　扇状地　崖錐性扇状地及び沖積錐

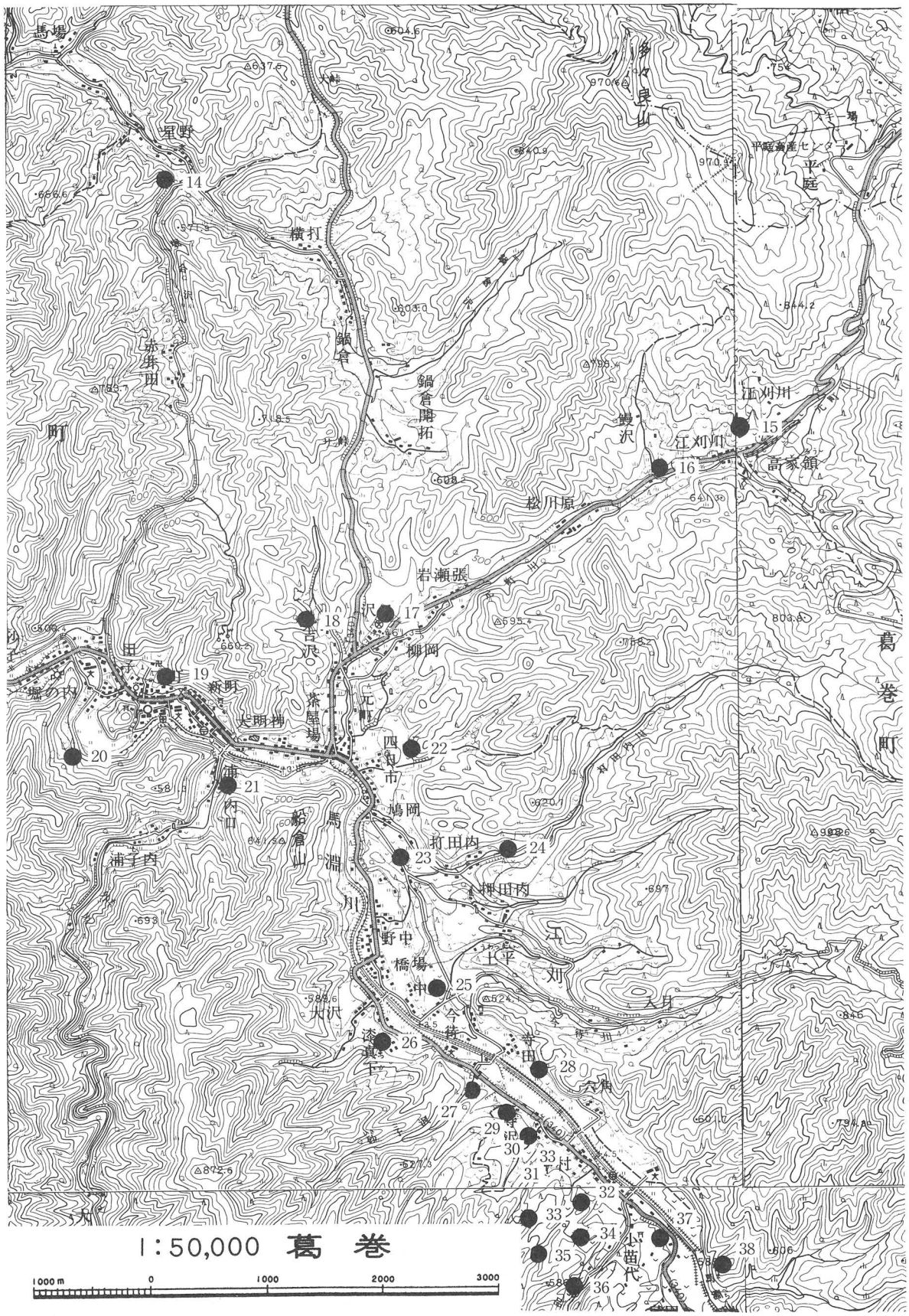
第３図　地形区分図



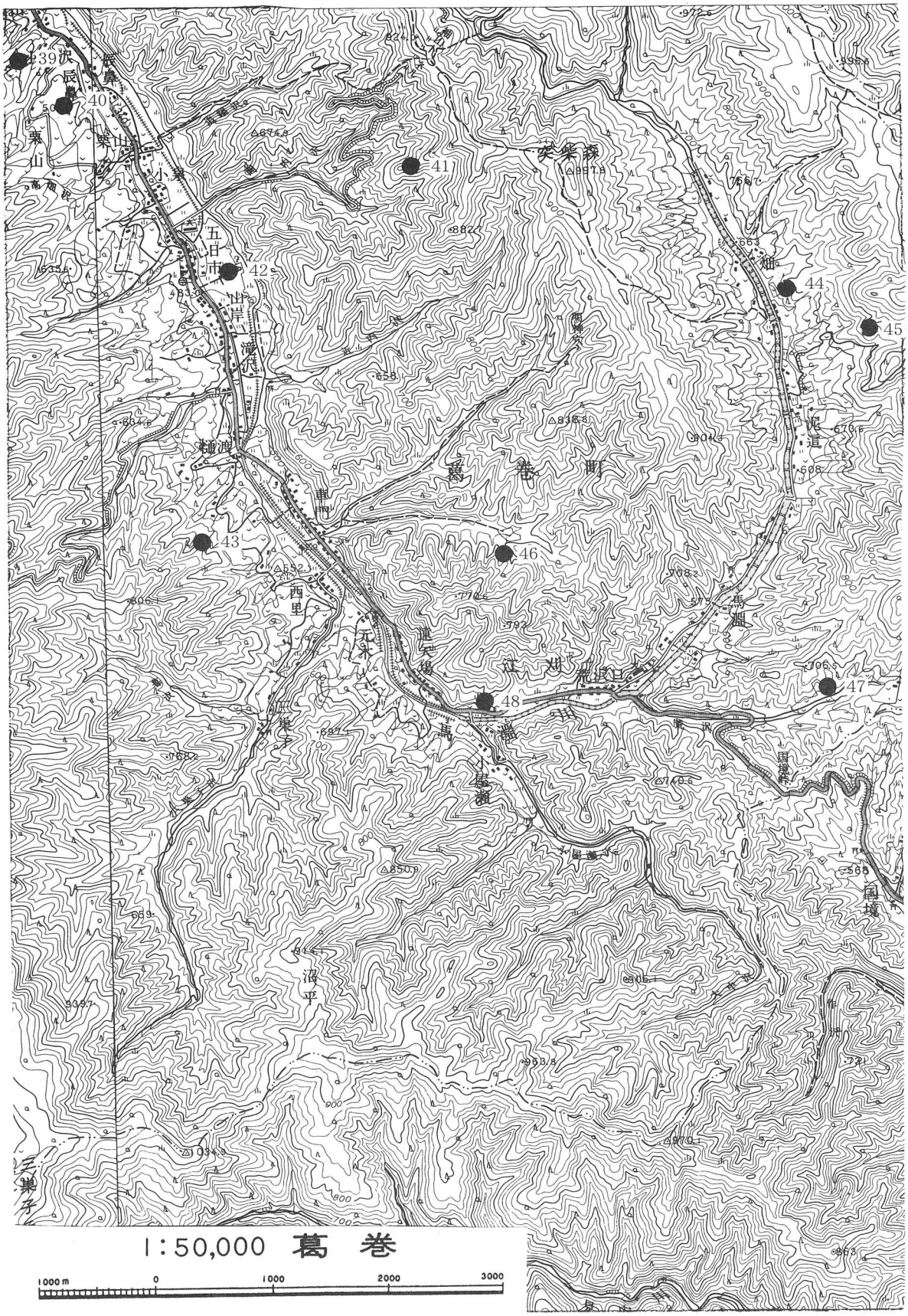
第４図　周辺の地形と調査区



第５図　周辺の遺跡①　馬淵川中流域・田部・葛巻地区



第６図　周辺の遺跡②　馬淵川上中流域・葛巻・江刈地区



第７図　周辺の遺跡③　馬淵川上流域・江刈地区

市部内遺跡　周辺の遺跡一覧表（葛巻町）　その１

No.	遺跡名	種別	時代	遺構　遺物	所在地
1	市部内	散布地	縄文	縄文土器、石器	田部字市部内
2	正福寺	散布地	縄文	縄文土器	田部字冬部
3	冬部田屋	散布地	縄文	縄文土器	田部字冬部
4	下馬淵	散布地	縄文	土器	田部字下馬淵
5	ウシロ	散布地	縄文	縄文土器（晩期）	葛巻字小田
6	垂柳	散布地	縄文	縄文土器（晩期）	葛巻垂柳
7	古川戸	散布地	縄文	縄文土器	葛巻古川戸
8	猿方	散布地	縄文	縄文土器（晩期）	葛巻猿方
9	平船	散布地	縄文	縄文土器	葛巻平船
10	泡淵	散布地	縄文	縄文土器	葛巻泡淵
11	赤平野	散布地	縄文	縄文土器	葛巻赤平野
12	野里	散布地	縄文	縄文土器、石器	葛巻字田代
13	二ツ石	散布地	縄文	縄文土器	葛巻二ツ石
14	堀田	散布地	縄文	縄文土器（後期）	田部字堀田
15	江刈川	散布地	縄文	縄文土器	江刈内字江刈川
16	鰻沢	散布地	縄文	縄文土器	江刈内字江刈川
17	上平館	城館跡	縄文～中世	土塁	葛巻字元町
18	乱吉沢	散布地	縄文	縄文土器、石器	葛巻字元町
19	葛巻館	城館跡	縄文～中世	縄文土器、空掘、礎石	葛巻字下町
20	更の沢	散布地	縄文	縄文土器（晩期）	葛巻字更の沢
21	蔵船	散布地	縄文	縄文土器（晩期）、フレーク	葛巻字浦子内
22	小森	散布地	縄文	石器	江刈字四日市
23	鳩岡館	城館跡	縄文～中世	縄文土器、郭、土塁、竪穴、二重空掘	江刈字鳩岡
24	打田内	散布地	縄文	縄文土器	江刈字打田内
25	入月	散布地	縄文	縄文土器、石器	江刈字入月
26	戸花館	散布地、城館跡	縄文～中世	土器、石器、平場、空掘	江刈字大沢
27	高屋敷	散布地	縄文	土師器、須恵器	江刈字寺田向
28	寺田	散布地	縄文	土器	江刈字寺田
29	八森	散布地	縄文	縄文土器	江刈字寺沢
30	中里	散布地	縄文	土器	江刈字寺沢
31	御堂寺沢	散布地	縄文	縄文土器、土師器、須恵器	江刈字中村
32	滝畑	散布地	縄文	縄文土器、須恵器	江刈字小苗代
33	天満	散布地	縄文	縄文土器	江刈字小沢口
34	駒沢	散布地	縄文	土師器、須恵器	江刈字小苗代
35	中平	散布地	縄文	縄文土器	江刈字中村
36	品井沢	散布地	縄文	縄文土器	江刈字小苗代
37	小苗代	集落跡	縄文	縄文土器、石器	江刈字小苗代
38	泉田	散布地	縄文	縄文土器（晩期）	江刈字泉田
39	小平沢	散布地	縄文	縄文土器	江刈字小平沢
40	栗山	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）、石器	江刈字栗山

No.	遺跡名	種別	時代	遺構 遺物	所在地
41	さる穴	洞穴遺跡	縄文	縄文土器、石鏃	江刈字五日市
42	五日市	散布地	縄文	縄文土器（晩期）、土墨、石器	江刈字五日市
43	車門向	散布地	縄文	縄文土器	江刈字車門
44	畑	散布地	縄文	縄文土器、土偶	江刈字畑
45	泥這	散布地	後期旧石器	石斧、尖頭器、石器、柱穴(13)	江刈字泥這
46	明神穴	洞穴遺跡	縄文		江刈字車門
47	荒沢	散布地	縄文	縄文土器（中期）	江刈字
48	遠矢場	散布地	縄文	縄文土器、石斧	江刈字遠矢場
49	中沢・山の神	散布地	縄文	縄文土器（後期）、石器	葛巻字中沢
50	宇別		縄文	縄文土器	葛巻字宇別
51	宇別上平		縄文	縄文土器	葛巻字宇別
52	宇別盲神		縄文	縄文土器	葛巻字宇別
53	星野	散布地	縄文	縄文土器	葛巻字星野
54	小屋敷	散布地	縄文	縄文土器	葛巻字中屋敷
55	樺ノ木		縄文	縄文土器	葛巻字椛ノ木
56	中館	城館跡	縄文～中世	縄文土器	葛巻字田子向
57	九蔵坂	散布地	縄文	縄文土器（後期・晩期）、石器	葛巻字九蔵坂
58	高宮寺	散布地	縄文	土器、須恵器、社堂跡、窯跡	江刈字中村
59	土谷川	散布地	縄文		葛巻字土谷川
60	志民沢	散布地	縄文	縄文土器片	元木志民沢
61	畑沢	散布地	縄文	縄文土器（前・晩期）	葛巻字只見
62	大石	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）石器、土偶	葛巻字大石
63	高畑	散布地	縄文	縄文土器	江刈字栗山
64		散布地	縄文	縄文土器	江刈字栗山
65	キツネ窪	散布地	縄文	縄文土器	江刈字小泉
66	丹内沢	散布地	縄文	縄文土器	江刈字栗山
67	相野	散布地	縄文	縄文土器、石器	葛巻字尻喰
68	愛羅瀬	散布地	縄文	縄文土器	葛巻字愛羅瀬
69	シッペナイ	散布地	縄文	縄文土器	江刈字五日市
70	日影平	散布地	縄文	縄文土器	江刈字山岸
71	和山石沢	散布地	縄文	縄文土器	江刈字山岸
72	焼野	散布地	縄文	縄文土器	江刈字山岸
73	宇堂水	散布地	縄文	縄文土器	江刈字滝沢
74	平	散布地	縄文	縄文土器	江刈字日渡
75	中窪	散布地	縄文	縄文土器	江刈字日渡
76	横道	散布地	縄文	縄文土器	江刈字日渡
77	館窪	散布地	縄文	縄文土器	江刈字滝沢
78	近内沢	散布地	縄文	縄文土器	江刈字滝沢
79	向山	散布地	縄文	縄文土器	江刈字車門
80	車門向	散布地	縄文	縄文土器（晩期）	江刈字車門

No.	遺跡名	種別	時代	遺構 遺物	所在地
81	コイド	散布地	縄文	縄文土器	江刈字西里
82	戸草沢	散布地	縄文	縄文土器	葛巻字戸草沢
83	鳩岡	散布地	縄文	縄文土器	江刈字鳩岡
84	荒谷	散布地	縄文	縄文土器（晩期）、石器	葛巻字荒谷
85	宇別東館	城館跡	中世		大字字別
86	田屋館	城館跡	中世	空堀	田屋字田屋
87	冬部館	城館跡	中世	石器、堀切、竪穴、(3～4)、平場、腰郭	田部字市部内
88	寺畑館	城館跡	中世	堀、平場	田部字寺畑
89	扇ノ沢館	城館跡	中世	堀、平場（3段）	葛巻字小田
90	星野館	城館跡	中世	堀、土塁	葛巻字星野
91	耕雲寺	経塚	中世		葛巻字小田
92	小田館	城館跡	中世	堀、平場	葛巻字小田
93	猿方館	城館跡	中世		葛巻字猿方
94	高家領館	城館跡	中世		江刈内字高家領
95	椛ノ木館	城館跡	中世	堀、平場	葛巻字椛ノ木
96	中沢館	城館跡	中世	堀、平場	葛巻字中沢
97	上野沢館	城館跡	中世	堀切、平場	葛巻字田代
98	鏡沢館	城館跡	中世		葛巻字田子
99	八幡館	城館跡	中世		葛巻字田子
100	長者久保	城館跡	中世		葛巻字新町
101	元町館	城館跡	中世	三重空堀、平場、堀切、土塁	葛巻字元町
102	大石館	城館跡	中世	平場	葛巻字大石
103	真下館(大沢館)	城館跡		二郭、空堀	
104	宗光館(江刈城)	城館跡	中世	堀切、平場、土塁	江刈字寺田
105	小屋瀬館	城館跡	中世	平場（4～9段）竪穴（31）	葛巻字小瀬屋
106	くれ坪館	城館跡	中世	堀	江刈字小苗代
107	泉田館(高館)	城館跡	中世	不明	江刈字泉田
108	栗山向館	城館跡	中世		江刈字栗山
109	昼沢館	城館跡	中世	空堀、土塁、三重堀、平場	葛巻字昼沢
110	荒谷館	城館跡	中世	腰郭、堀切、住居跡	葛巻字荒谷
111	山王館	城館跡	中世	平場、腰郭	江刈字滝沢
112	車門向館	城館跡	中世	堀、腰郭	江刈字車門
113	車門五輪塔	五輪塔	中世	五輪塔	江刈字車門
114	泥這館	城館跡	中世	空堀、平場（6段）、竪穴	江刈字泥這
115	西里館	城館跡	中世	堀	江刈字西里
116	本木館	城館跡	中世	空堀、虎口、平場	江刈字本木
117	向田代	散布地	弥生	弥生土器	葛巻字田代

Ⅲ　調査の方法と室内整理の方法

１．調査方法

〈グリッド〉の設定（図版8図）

調査地は県道に沿って南北に細長く続いているので、第Ｘ系に沿ったグリッドを設定した。北から南に向け50mごとにＩ～Ｖ区に大別し、さらに各区の中を細分し５ｍごとに北から南に１～10、東から西にa～jとし、それらの組み合わせでⅡ７ｅグリッドとかⅢ６ｆグリッドなどと呼ぶことにした。基準とした杭の座標位置は、基準点１がＸ＝13,765.000m、Ｙ＝46,270.000m、標高273.512m、基準点２がＸ＝13,635.000m、Ｙ＝46,285.000m、標高276.512mである。

〈発掘の手順〉

粗掘の前にＩ～Ｖの各区に試掘トレンチを入れ、基本土層を確認した。炭化物や焼土が混入するⅢ層までバックホーで除去し、遺構検出・精査後人力で、掘り下げて、さらに遺構検出・精査を行った。精査は住居跡を4分法、それ以外は２分法を基本とし、遺構状況に応じて行った。

〈実測の方法〉

実測は基本的に埋土の断面、及び平面、炉の断面、遺物出土状況などについて行った。平面実測は直角座標系に合わせたグリッド杭を基準にして、簡易遣り方で行った。縮尺は20分の１を原則とし、遺構状況によっては10分の1の図面も作成した。

〈写真撮影〉

写真撮影は35㎜カメラでモノクロと、カラーリバーサルで記録することを原則としたが、場合によっては６×７版も使用した。また、ポラロイドカメラを補助的に使用し、フィールドカードの観察記録も作成した。調査終了後にセスナ機による航空写真撮影も行った。

〈遺構の名称〉

遺構の名称は検出順に１号・２号…としたが、精査中に状況が変わり、名称が変更になったり、欠番になったものもある。また、遺構の種類ごとに、住居跡はＲＡ，建物跡はＲＢ、土坑はＲＤ，焼土遺構はＲＦ、墓壙はＲＴ、埋設土器はＲＺ，溝跡はＲＧ，を頭に付した。

〈遺物の取り上げ〉

遺物の取り上げは遺構ごとに、また、層位ごとに行った。遺構外の遺物についてはグリッドごとに層位を分けて行った。

２．室内整理方法

〈遺構図面〉

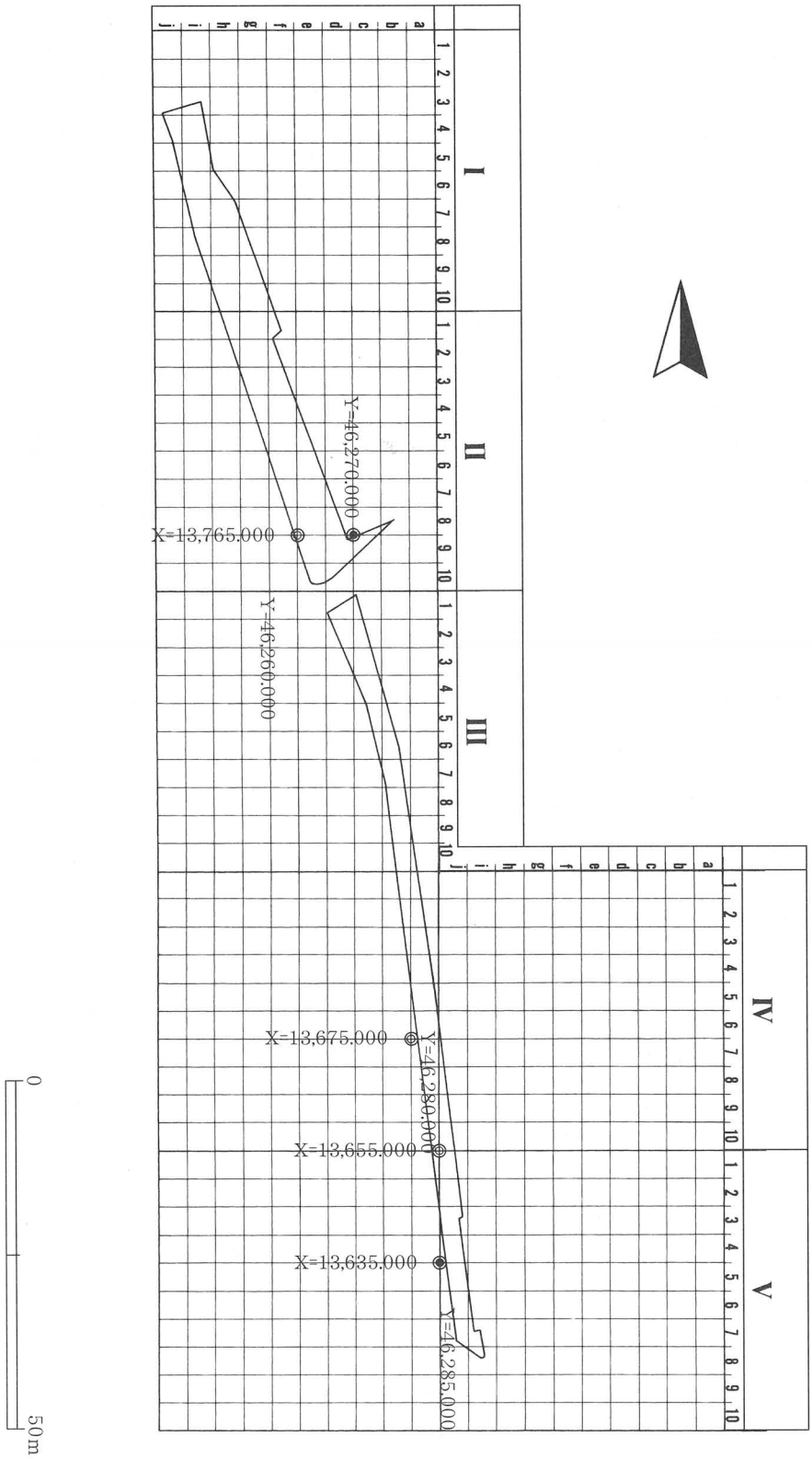
遺構実測図は点検後、分解あるいは接合を行い、遺構ごとにトレースした。また併せて遺構配置図も作成した。トレース終了後の図面は点検後図版作成を行った。

〈遺物の処理〉

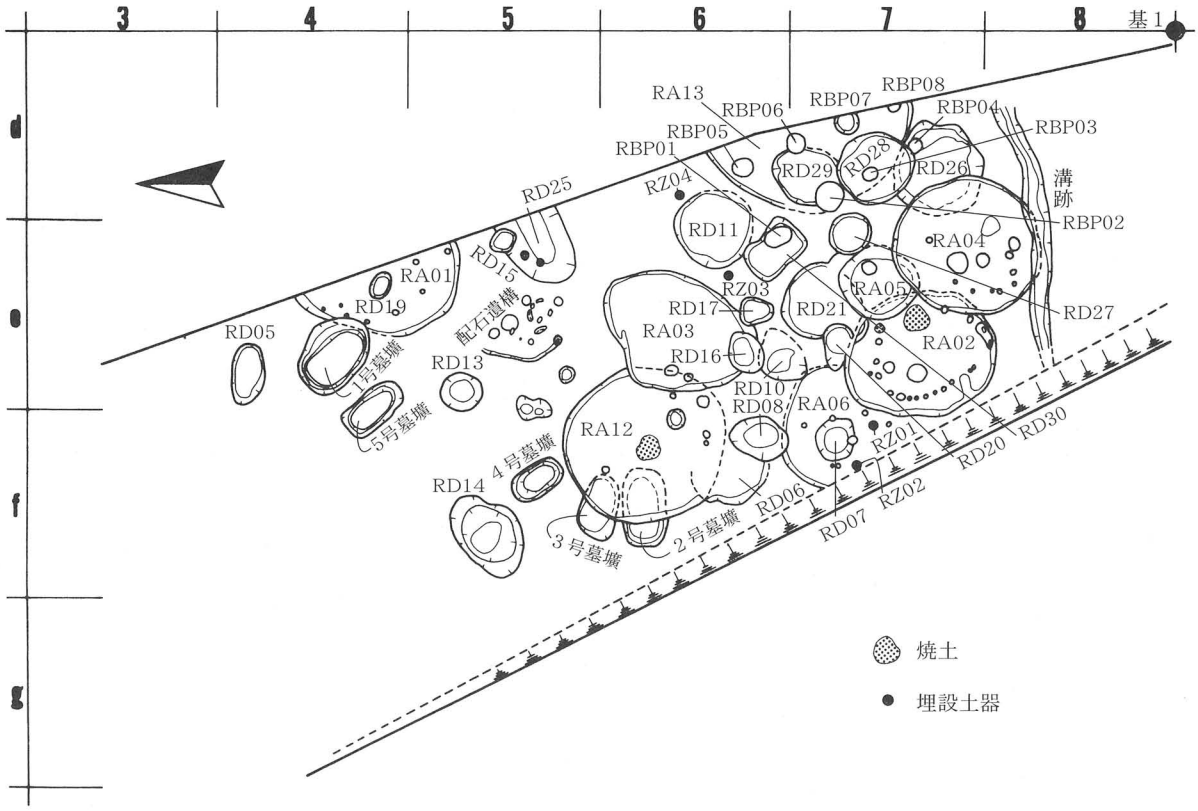
遺物は水洗い後、遺跡略号・出土地等を注記し、可能な限り接合復元をした。その後器種ごとに分けて登録し、写真撮影と実測を行った。実測図は点検後トレースし遺構ごとに図版を作成した。

〈図版の縮尺〉

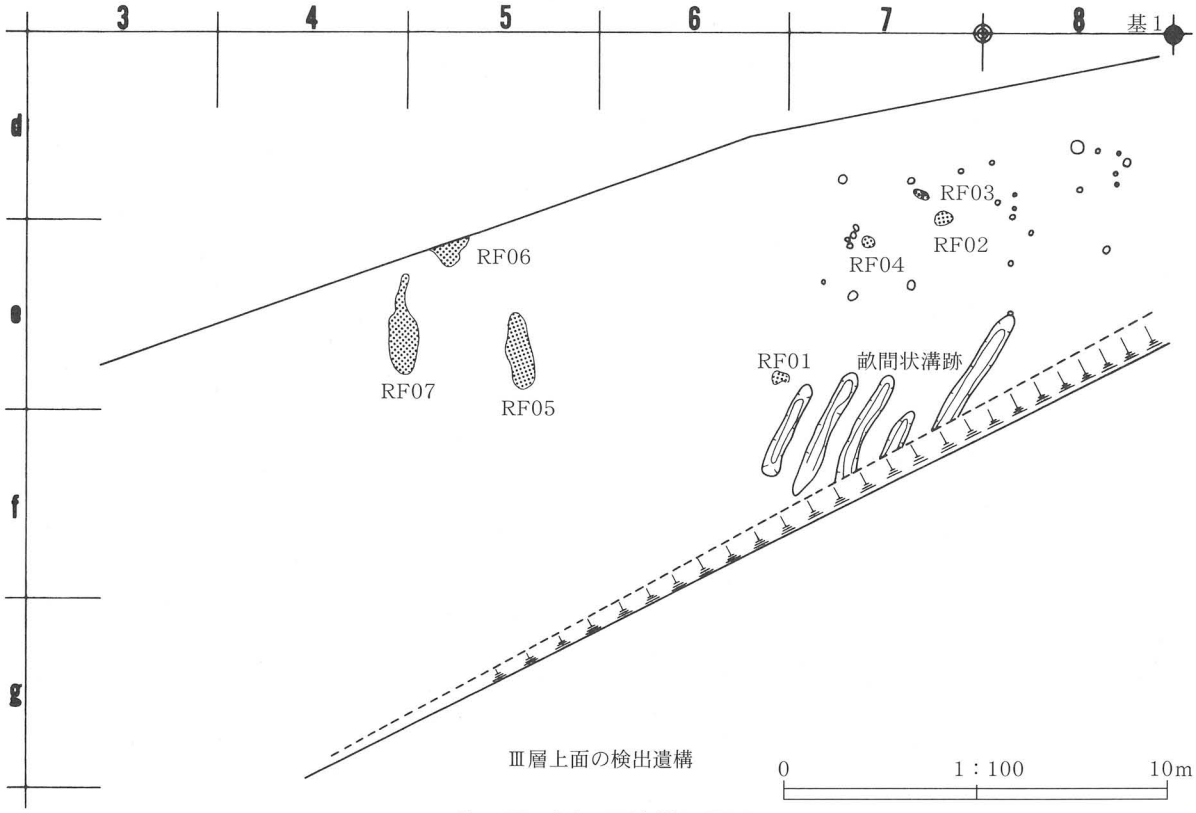
図版作成は遺構番号順に行い、仕上がり寸法は原則として40分の１とした。任意縮尺のものにはスケールを付した。遺物図版の縮尺は土器土製品が３分の１、石器は２分の１を基本とし、スケールを付した。写真図版については、遺構は任意縮尺、遺物はすべて３分の２で掲載した。


I
II
III
IV
V
Y=46,270.000
X=13,765.000
Y=46,260.000
X=13,675.000
Y=46,280.000
X=13,655.000
X=13,635.000
Y=46,285.000
0
50m

第8図　グリット設定図

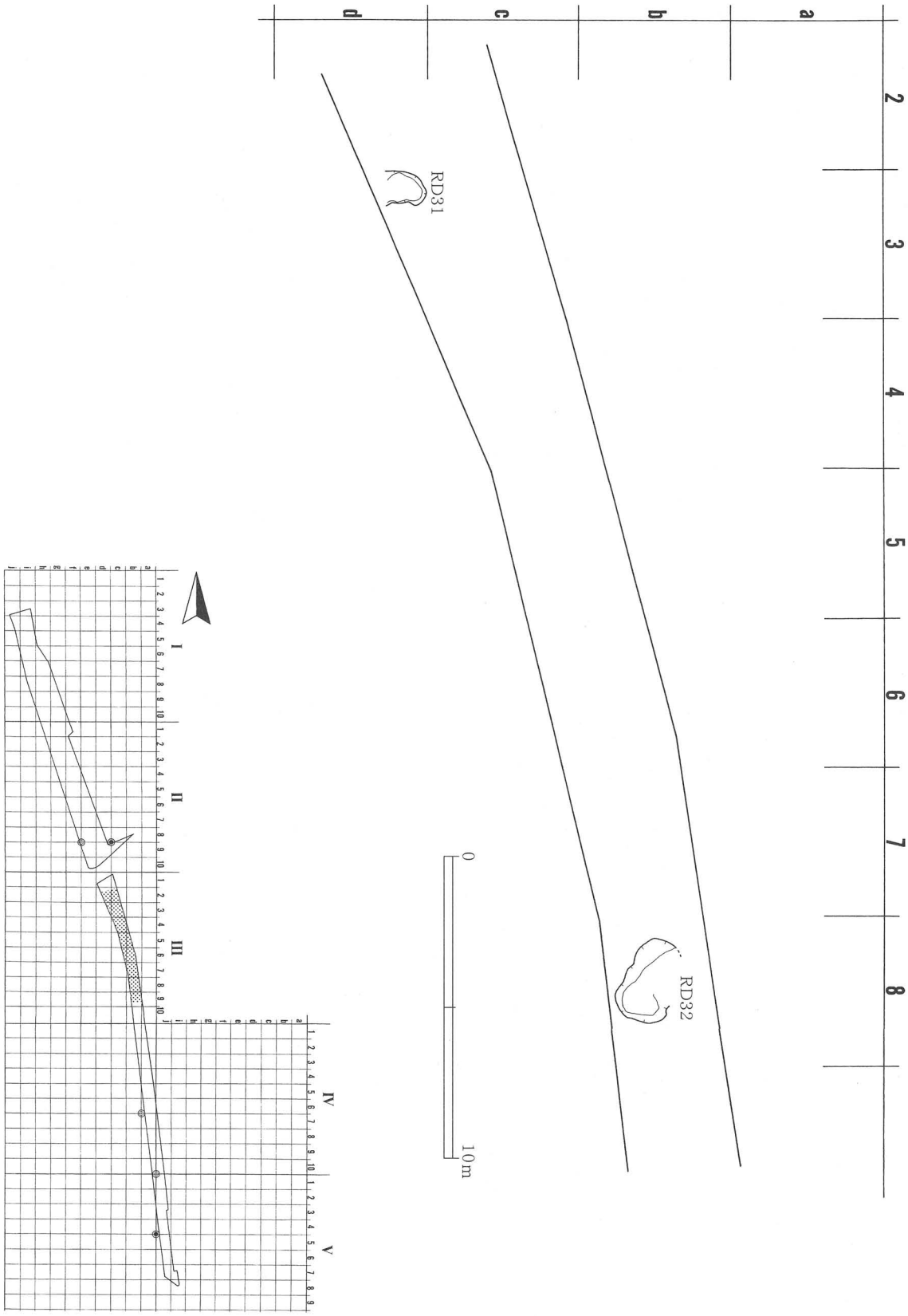


Ⅳ層上面の検出遺構



Ⅲ層上面の検出遺構

第９図　(1)Ⅱ区遺構配置図



第10図　(2)Ⅲ区遺構配置図

Ⅳ　検出された遺構と遺物

1．基本土層

Ⅰ区からⅤ区までだいぶ様相が異なるが、遺構が多く検出されたⅡ区付近の土層は図のようになる。

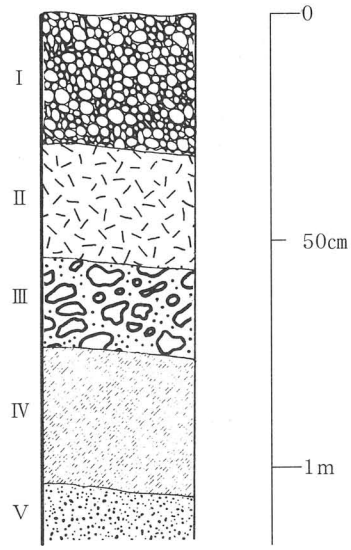
Ⅰ層　１０ＹＲ　2／3　黒褐色土　表土で砕石等の盛土層である。
　　層厚約30cm

Ⅱ層　１０ＹＲ　2／1　黒色土　　炭化物や焼土が含まれている。
　　層厚20～30cm

Ⅲ層　１０ＹＲ　2／2　黒褐色土　礫や縄文時代の遺物を多く含む。
　　層厚約20cm

Ⅳ層　１０ＹＲ　4／2　黄褐色土　砂質土で上面が縄文時代の遺構検出面である。縄文土器片や礫を含む。
　　層厚は約30cm

Ⅴ層　礫層　　段丘礫層　　層厚不明



第11図　基本土層

2．Ⅲ層上面の検出遺構

Ⅲ層上面で検出されたのは焼土遺構７、柱穴状土坑群１、畝間状遺構群１である。

(1)　焼土遺構

ＲＦ０１　焼土遺構（第12図、写真図版３）

〈位置・検出面〉　Ⅱ区６ｅグリッドに位置し、Ⅲ層上面で検出した。

〈規模〉　43cm×30cmの範囲に不整形に広がる。厚さは最大16cmである。

〈伴出遺物〉（図版32-1、写真図版22-1）
　焼土上位の埋土から出土している。32-1は深鉢口縁部で口唇押圧・口縁部に横平行沈線・内面沈線の施文が、施されている。

〈時期〉　検出層位から縄文時代より新しい。

ＲＦ０２　焼土遺構（第12図、写真図版３）

〈位置・検出面〉　Ⅱ区７ｄグリッドに位置し、Ⅲ層上面で検出した。

〈規模〉　42cm×36cmの範囲に不整形に広がる。厚さは最大20cmである。

〈伴出遺物〉　出土遺物なし

〈時期〉　検出層位から縄文時代より新しい。

ＲＦ０３　焼土遺構（第12図、写真図版３）

〈位置・検出面〉　Ⅱ区７ｅグリッドに位置し、Ⅲ層上面で検出した。

〈規模〉　20cm×31cmの範囲にいびつな三角形状に広がる。厚さは最大24cmである。

〈伴出遺物〉　出土遺物なし

〈時期〉　検出層位から縄文時代より新しい。

ＲＦ０４　焼土遺構（第12図、写真図版３）

〈位置・検出面〉　Ⅱ区７ｅグリッドに位置し、Ⅲ層上面で検出した。

〈規模〉　36cm×26cmの範囲に不整形に広がる。厚さは最大10cmである。

〈伴出遺物〉　出土遺物なし

〈時期〉　検出層位から縄文時代より新しい。

ＲＦ０５　焼土遺構（第13図、写真図版３）

〈位置・検出面〉　Ⅱ区５ｅグリッドに位置し、Ⅲ層上面で検出した。

〈規模〉　50cm×13cmの範囲に不整形に広がる。厚さは最大20cmである。

〈伴出遺物〉　出土遺物なし

〈時期〉　検出層位から縄文時代より新しい。

ＲＦ０６　焼土遺構（第13図、写真図版４）

〈位置・検出面〉　Ⅱ区５ｅグリッドに位置し、Ⅲ層上面で検出した。

〈規模〉　東側は調査区外に続くが、24cm×15.5cmの範囲に不整形に広がる。厚さは最大11cmである。

〈伴出遺物〉　出土遺物なし

〈時期〉　検出層位から縄文時代より新しい。

ＲＦ０７　焼土遺構　（第13図、写真図版なし）

〈位置・検出面〉　Ⅱ区５ｅグリッドに位置し、Ⅲ層上面で検出した。

〈規模〉　不整形で67cm×30cmである。

〈伴出遺物〉　出土遺物なし

〈時期〉　検出層位から縄文時代より新しい。

(2)　柱穴状小土坑群　（第12図、写真図版なし）

位置はⅡ７ｄ～Ⅱ８ｄグリッドで検出した。柱穴状小土坑群２１基を登録した。いずれもⅡ層面で検出した。直径は10～44cm、深さは10.7cm～52.9cmである。平均すると径は16cm、深さは14.9cmである。配置に明確なものは見いだせなかった。断面や底面に柱痕跡を確認できるものはなかった。出土遺物はない。検出面の層位から縄文時代よりは新しいと思われる。

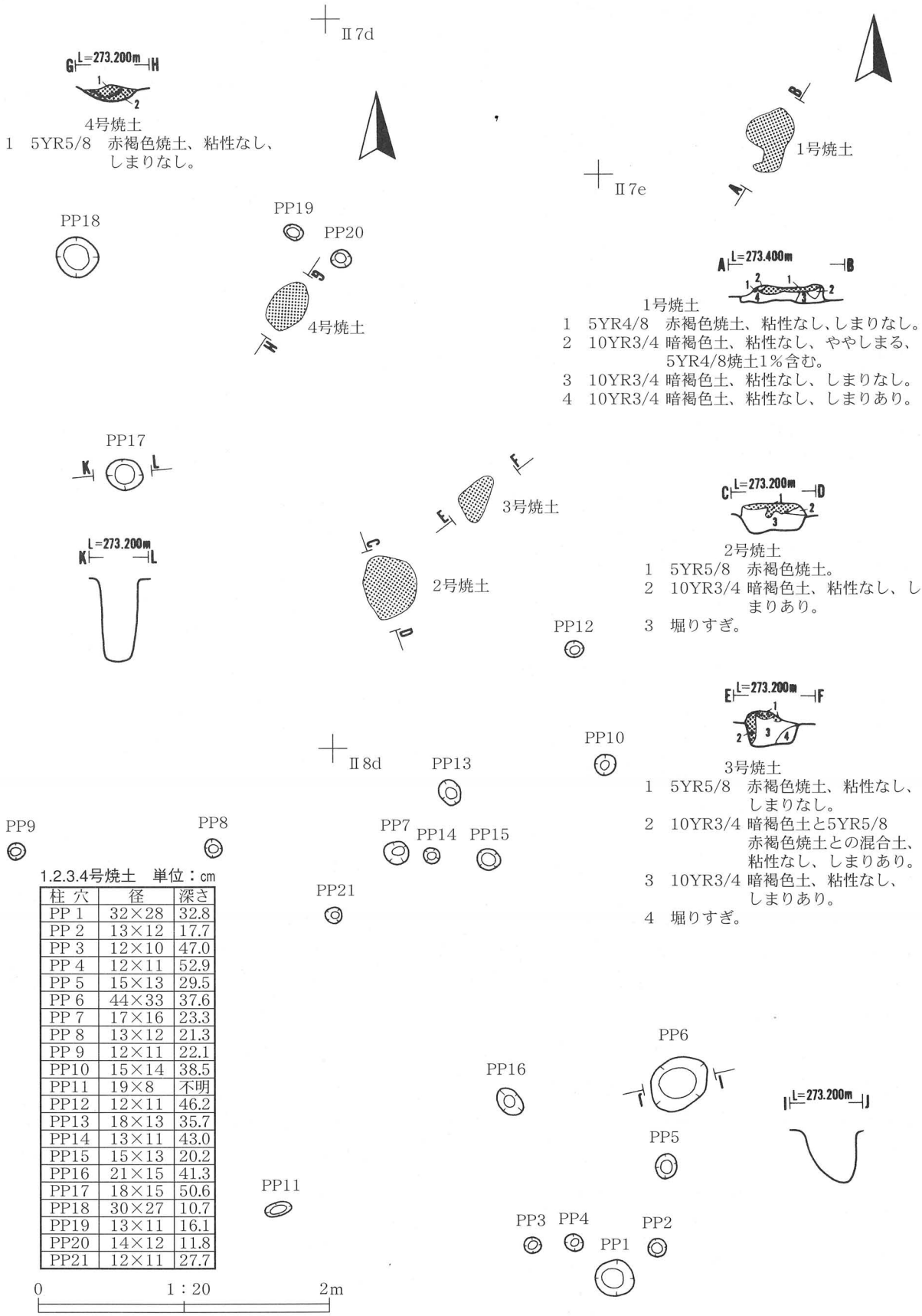
(3)　畝間状遺構　（第14図、写真図版５）

〈位置・検出面〉　Ⅱ区の南西側７ｅ～７ｆグリッド内に位置し、Ⅲ層上面で5条検出された。

〈規模〉　５条ともほぼ同方向で、西～東に傾斜する溝状のくぼみで、砂に覆われていた。溝の長さは250～400cm、幅34～48cm、検出面からの深さは6～10cmである。

〈伴出遺物〉　出土遺物なし

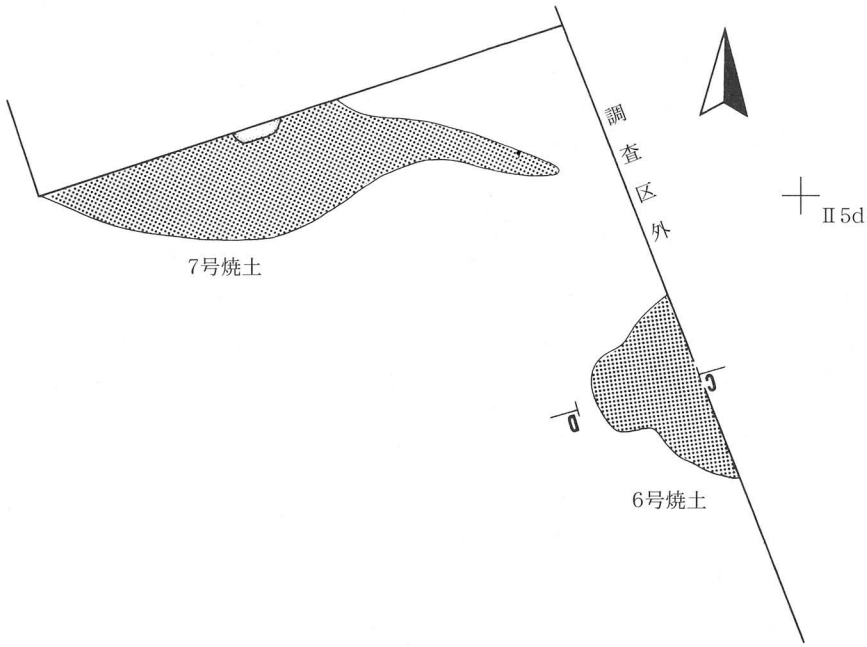
〈時期〉　検出層位から縄文時代より新しい。

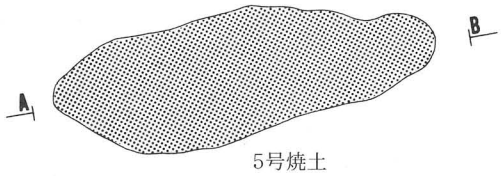


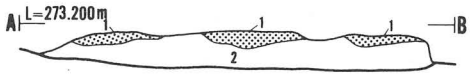
1.2.3.4号焼土　単位：cm

柱穴	径	深さ
PP 1	32×28	32.8
PP 2	13×12	17.7
PP 3	12×10	47.0
PP 4	12×11	52.9
PP 5	15×13	29.5
PP 6	44×33	37.6
PP 7	17×16	23.3
PP 8	13×12	21.3
PP 9	12×11	22.1
PP10	15×14	38.5
PP11	19×8	不明
PP12	12×11	46.2
PP13	18×13	35.7
PP14	13×11	43.0
PP15	15×13	20.2
PP16	21×15	41.3
PP17	18×15	50.6
PP18	30×27	10.7
PP19	13×11	16.1
PP20	14×12	11.8
PP21	12×11	27.7

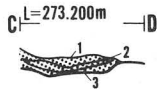
第12図　1～4号焼土・柱穴状小土坑群







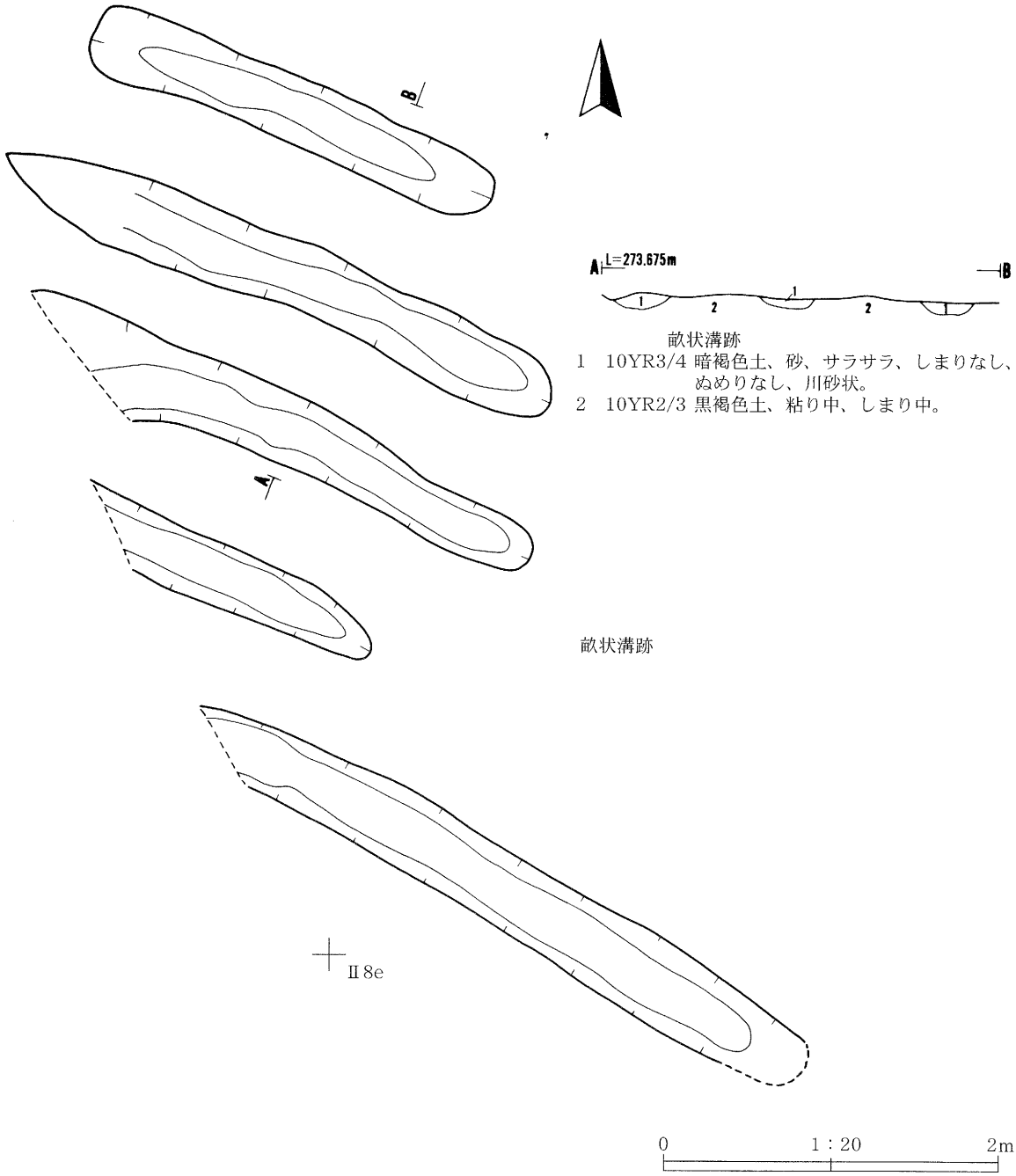
5号焼土
1　5YR5/8　赤褐色焼土、粘性なし、しまりなし、礫多く含む。
2　山礫層。



6号焼土
1　5YR5/8　明赤褐色焼土、ねばりなし、サラサラ、しまりなし。
2　5YR2/4　極暗赤褐色焼土、ねばり中、サラサラ。
3　5YR2/2　黒褐色土、ねばり中、しまり中。

0　1：20　2m

第13図　5～7号焼土


B
A
A L=273.675m B
1
2
1
2
1
畝状溝跡
1　10YR3/4 暗褐色土、砂、サラサラ、しまりなし、
ぬめりなし、川砂状。
2　10YR2/3 黒褐色土、粘り中、しまり中。
畝状溝跡
Ⅱ8e
0
1：20
2m

第14図　畝間状遺構

３．Ⅳ、層上面の検出遺構（縄文時代）

(1) 竪穴住居跡

ＲＡ０１　（第15図、写真図版６）

〈位置・検出層位〉　Ⅱ区の北東より４Ｅグリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出された。

〈重複関係〉　西側の一部がＲＴ０１墓壙と重複し、墓壙に切られる。

〈平面形・規模〉　隅丸長方形気味の楕円形で、長軸4.5m、短軸3.3m、深さ15cmほどである。

〈埋土〉　３層にわけられ、１・２層は黒褐色土を主体として、親指大の炭化物を含む自然堆積であり撹乱箇所が見られる。

〈壁・床面〉　壁高は、最も残りのよいところで15cmほどである。床は踏み固められたあとが若干見られ溝跡等の施設はない。

〈柱穴〉　床面に８基検出されている。柱穴径は最大25cm、最小11cmで、深さは7.3cm～51cmとなっている。Ｐ７とＰ８が比較的大型で、住居跡の中央に位置することから主柱穴の可能性がある。

〈炉〉　調査区内では検出されなかった。調査区外に付設されていると推測される。

〈遺物〉（図版32－2～6、写真図版22－(1)－2～8）

埋土から完形に近い縄文土器の個体や破片、土偶の破片、石器が出土している。32－2は広口壷又は、注口土器の頸部から胴部の破片で、平行沈線文を主として区分し、ＲＬ地文と黒色磨きがほどこされている。32－3は深鉢の破片で、口縁部は欠損している。32－4は小型の鉢で、口縁部が小波状で平行沈線、胴部は羽状縄文が施されている。32－５は鉢の口縁部破片で、口縁部上位に平行沈線と連続刻目が施され下位は無文である。32－6は土偶の肩から腕にかけての破片で、全体に刺突がほどこされている。32－７はつまみ部分の欠損する石匙である。32－８は磨製石斧で刃部と基部ともに欠損する。

〈時期他〉　出土遺物より縄文時代後期と思われる。

ＲＡ０２　（第16図、写真図版７）

〈位置・検出層位〉　Ⅱ７ｅグリッドに位置し、Ⅳ面で検出した。

〈重複関係〉　東側でＲＡ４号竪穴住居跡とＲＡ５号に切られ、西側でＲＡ６号竪穴住居跡を切る。

〈平面図・規模〉　平面形は隅丸楕円形を呈するものと思われ、長軸は4.03m×短軸3.3mと推定される。

〈埋土〉　３層に分けられる。１層目は黒褐色土、中位２層目は砂状の褐色土から構成される。３層目は黒褐色土の中に褐色土が30％含まれている。

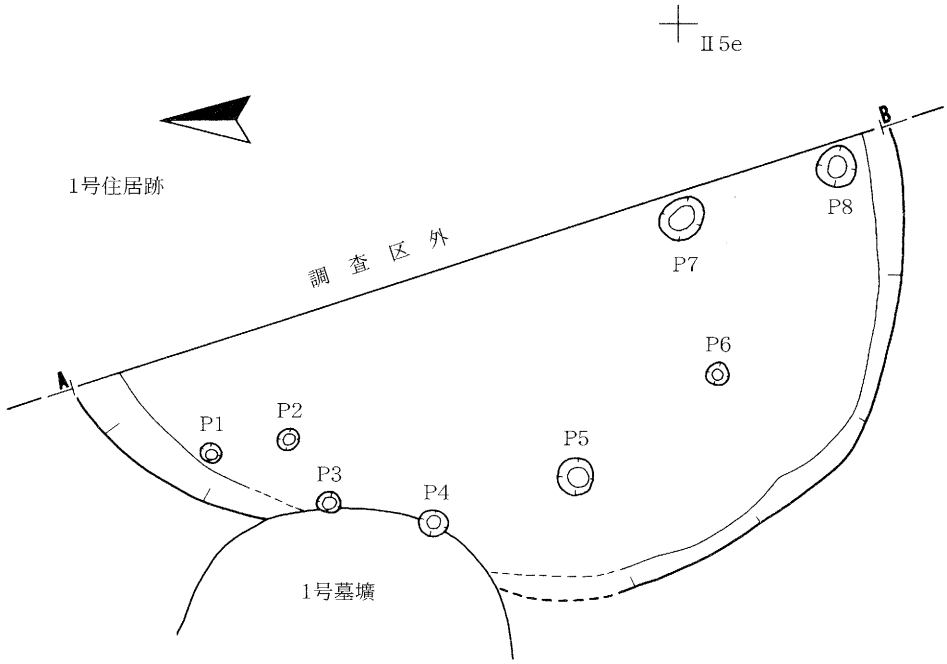
〈壁・床面〉　壁は外傾し、高さ28cmである。床面は平坦である。東側は他の遺構に切られていて定かではない。

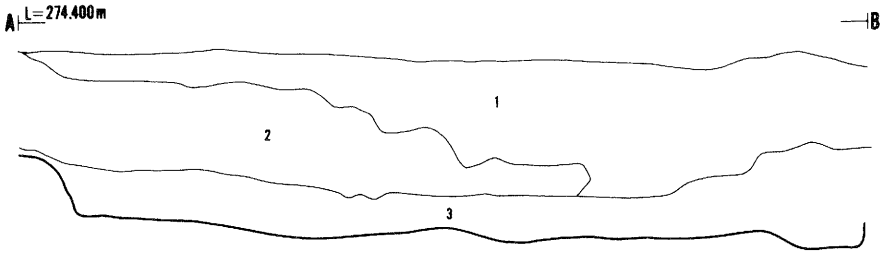
〈柱穴〉　柱穴状土坑は１８基検出している。これらの口径の最大は48cm～53cm、最小は6cm×8cmである。

〈炉〉　焼土を東側に２基検出している。深さは東壁寄りで、配置は64cm×72cmの歪な円形で、高さ10cm、もう１基は北側に位置し、26cm×26cmのほぼ円形で、厚さ約10cmである。

〈遺物〉（図版32－9～33－17、写真図版22－9～23－17）

床面から32－10と33－8・13、埋土から多量の土器片が出土している。33－1は大型注





RA01　　単位：cm

柱穴	径	深さ
P 1	14×12	8
P 2	12×11	8.6
P 3	13×12	19.5
P 4	16×14	15.2
P 5	20×19	7.3
P 6	13×12	8.7
P 7	25×21	10.3
P 8	22×20	51.0

1号住居跡
1　10YR2/3 黒褐色土　炭化物含む、ねばりなし、しまりなし、小石含む。
2　10YR2/3 黒褐色土　炭化物含む、ねばりなし、しまりなし、(炭化物人間の親指大含む)。
3　10YR2/2 黒褐色土　炭化物含む、ねばり中。

0　1：20　2m

第15図　1号竪穴住居跡

口土器胴部破片で連続刻目と平行沈線が施されている。33－2は壷または注口土器の破片で平行沈線や木葉状の沈線区画内に縄文が施され頸部には張状の貼付がある。３は深鉢、4・5・7は鉢又は台付鉢である。6・8は小型の鉢で、8は口縁部羊歯状文が施されている。9～11は鉢の破片である。9・12・14・15は、平行沈線と磨消による施文され、９は肥厚し、一部くぼみをもつ波状口唇である。16は壷の胴部片で雲形文が施され赤色顔料が塗彩されている。33－13は床面から出土した壷、又は鉢の破片で沈線がある。33－16は赤色顔料付着で雲形文が施されている。

〈時期他〉　出土遺物より縄文時代晩期中葉と思われる。

ＲＡ０３　（第17図、写真図版８）

〈位置・検出層位〉　Ⅱ６ｅグリッドに位置する。

〈重複関係〉　ＲＤ10土坑とＲＤ16土坑そしてＲＤ17土坑に切られている。

〈平面図・規模〉　平面形は隅丸楕円形を呈するものと思われる。長軸4.3m×短軸3.15mと推定される。

〈埋土〉　15層に分けられる。全体的に３層目には土器片が含まれる。15層目は褐色土で粘性なく、締まる。

〈壁・床面〉　壁は高さ20cm程で緩やかに外傾して立ち上がり、高さ20cm程である。床面はほぼ平坦である。

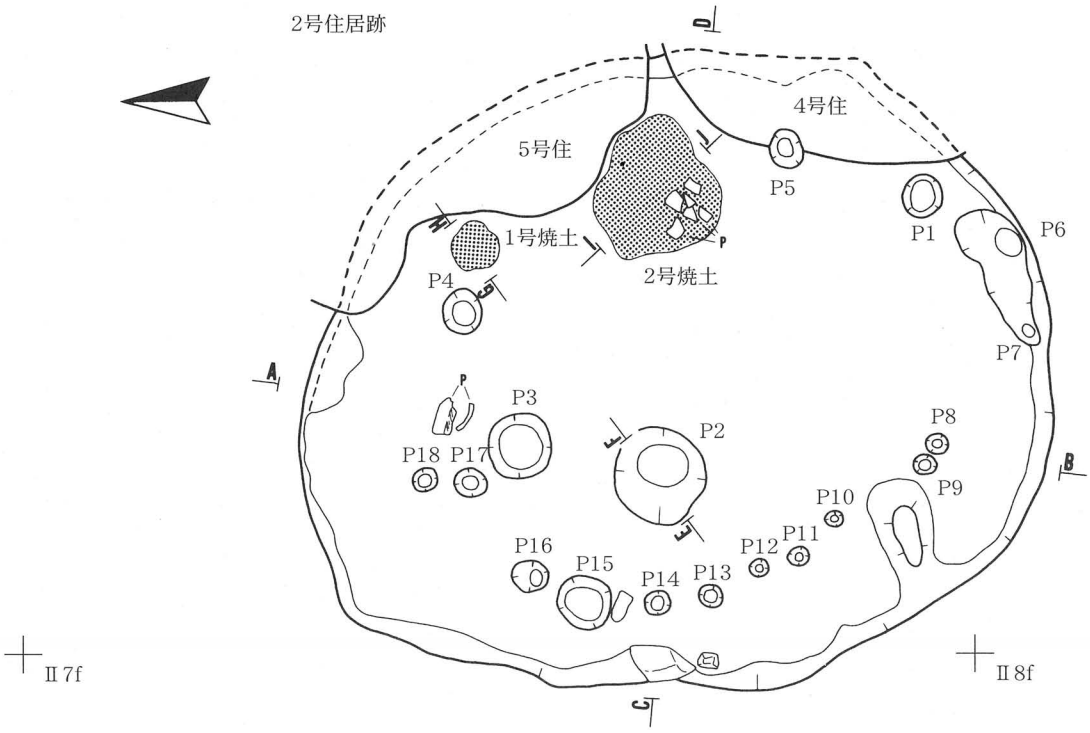
〈柱穴〉　柱穴は２基検出している。規模は径26cm～41cm、深さは29.6cm～38.3cmである。柱痕跡は不明である。

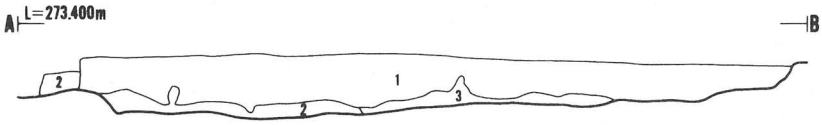
〈炉〉　検出されなかった。

〈遺物〉（図版34－1～35－10、写真図版24－1～25－9）

埋土から多量の土器と土器片が出土している。中でも34－3・5～7・17は埋土の下位から出土している。34－1は胎土に繊維を多量に混入する深鉢で、粗い縄文が施されている。2は口縁部付近が土製品の破片と思われ、平行沈線を主として区画文と磨消文が表裏に施されている。9～12はほぼ完形の土器で、羊歯状文や三叉文が主に施文されている。11の台部には透かしがある。13は注口土器の破片、17は注口部の破片である。18は短いが両刃加工で打製石斧のようである。35－1は凹石の破損品である。２～７は土偶の破片である。2は胴部～左脚が残存し、腹部に沈線や刺突が施されている。3は肩から腕の破片で4～7は脚部の破片である。８は土錘と思われ、溝が十字になっている。９は小型の壷、10は筒状の鉢で下位に孔が一つあいている。34－5は深鉢の口唇部で大波状口唇、平行沈線、円形刺突文が施されている。鉢が６点、壷が３点、土偶が５点、その他が出土している。34－9～11は鉢の完形。35－8は土錘の完形で十字沈線、頸部が茶色である。土偶はすべて中実で35－2の胴部～肩は刺突文、35－3の肩～腕は無文、35－4は片脚、35－5はスタンプ又は足で無文、35－7の右足は無文などである。

〈時期他〉　縄文時代後期中葉から縄文時代晩期前葉の遺物が出土しているが、埋土下位の出土遺物でも特定できない。晩期前葉の可能性が高い。



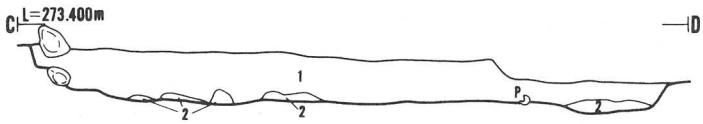


2号住宅跡　N－S

1　10YR3/2 黒褐色土、少々ぬめりあり、ねばり中、しまり中。
2　10YR4/6 褐色土、ぬめり中、ねばりなし、砂状。
3　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりなし。

RA02　　単位：cm

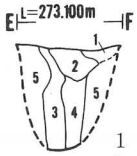
柱 穴	径	深さ
P 1	24×21	24.8
P 2	53×48	56.0
P 3	35×33	53.4
P 4	25×20	27.9
P 5	21×18	25.2
P 6	16×13	46.8
P 7	8×6	8.3
P 8	12×11	9.6
P 9	12×11	4.6
P10	10×9	7.5
P11	11×10	7.6
P12	9×9	17.5
P13	13×11	4.0
P14	14×13	4.2
P15	29×27	11.5
P16	19×16	18.8
P17	18×15	11.3
P18	13×12	21.8

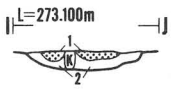


2号住宅跡　W－E

1　10YR3/2 黒褐色土、少々ぬめりあり、ねばり中。
2　10YR4/6 褐色土、ぬめり中、ねばりなし、砂状。

P2





2号住宅跡　1号焼土

1　5YR4/8　赤褐色焼土、粘性なし、よくしまる。
2　5YR4/8　赤褐色焼土と10YR4/6褐色土との混合土、粘性なし、よくしまる。
3　10YR5/8 黄褐色土、粘性なし、しまりあり。

2号住宅跡　2号焼土

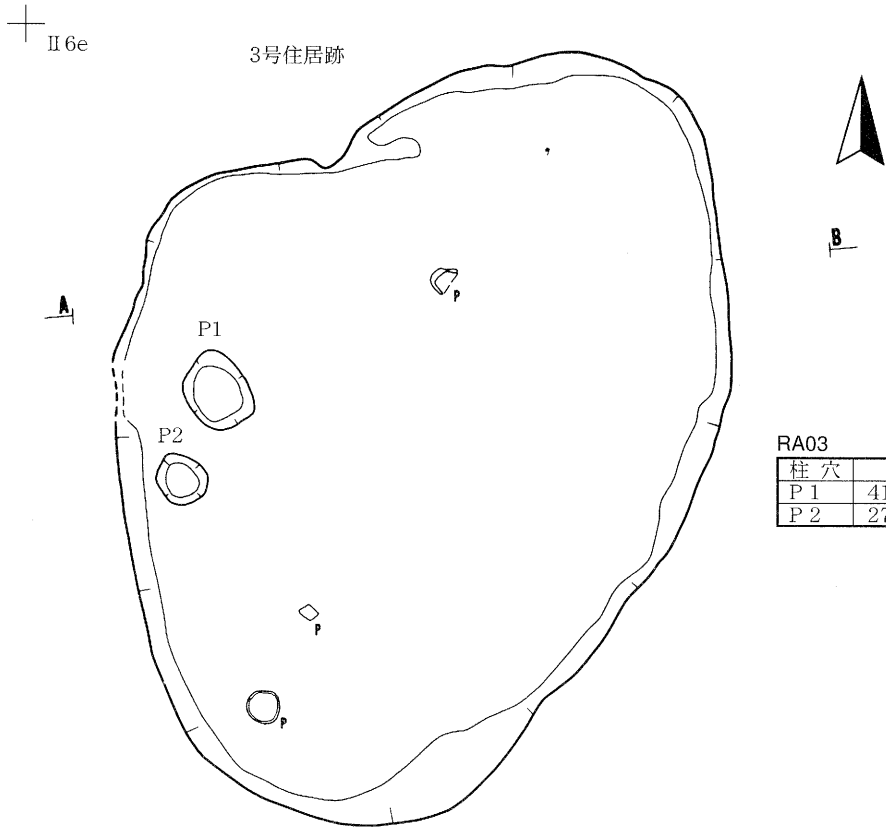
1　10YR4/6 褐色土と5YR4/8赤褐色焼土との混合土、粘性なし、しまりあり。
2　10YR5/8 黄褐色土、粘性なし、よくしまる。

2号住宅跡　P2

1　10YR2/2 黒褐色土、粘性あり、しまりあり。
2　10YR2/2 黒褐色土、粘性あり、しまりややあり、炭化物1％含む。
3　10YR2/3 黒褐色土、粘性とてもある、しまりあり（やや粒系円の砂質）。
4　10YR2/3 黒褐色土、粘性あり、しまりなし。
5　10YR4/6 褐色土、粘性あり、しまりあり。

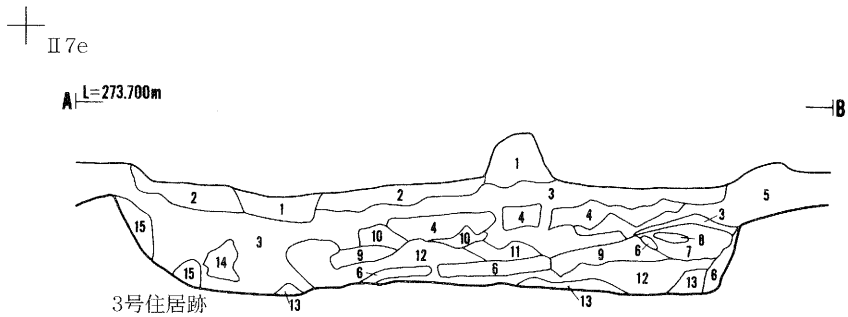
0　1：20　2m

第16図　2号竪穴住居跡



RA03　　単位：cm

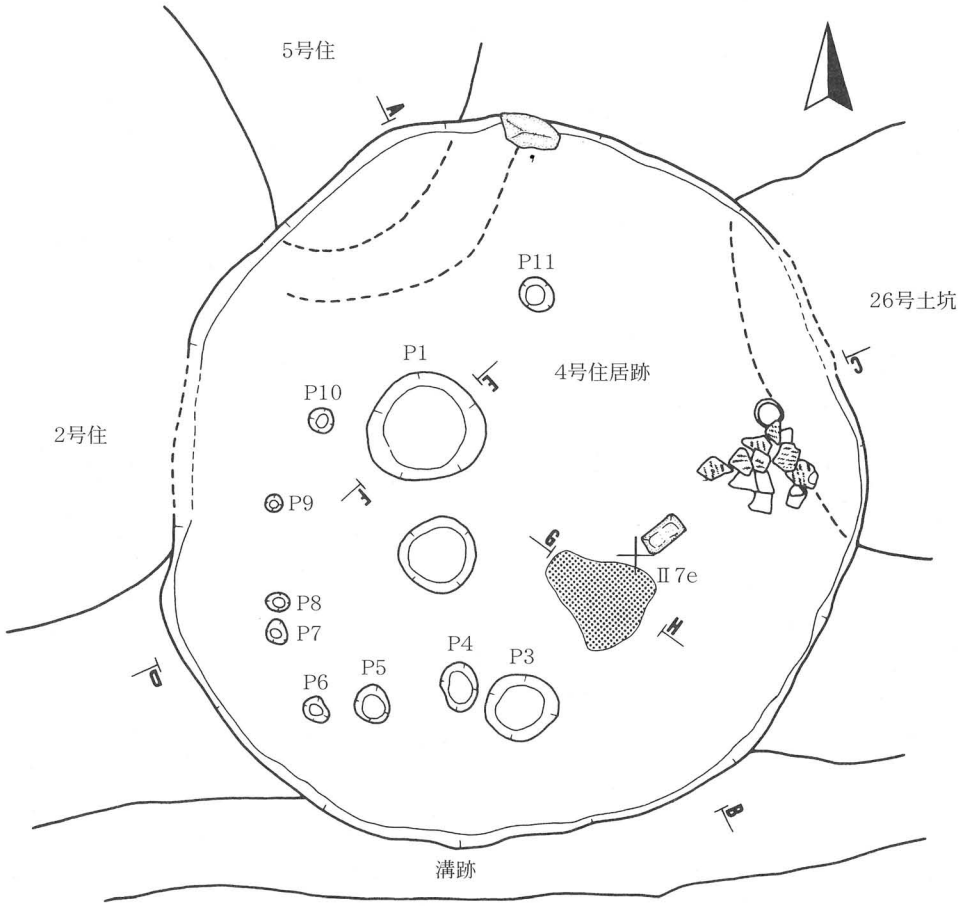
柱穴	径	深さ
P1	41×35	29.6
P2	27×26	38.3



1　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりなし、小礫30％含む。
2　10YR3/4 暗褐色土、粘性ややあり、しまりややあり、小礫5％含む。
3　10YR2/3 黒褐色土、粘性あり、しまりあり（土器片多量に含む）。
4　10YR5/8 黄褐色土と10YR3/4　暗褐色土との混合土（砂土）、粘性なし、固くしまる（排土か？）。
5　10YR2/3 黒褐色土、粘性あり、しまりややあり（3と同じであるが、しまり弱い）。
6　10YR2/3 黒褐色土、粘性なし、固くしまる、10YR5/8　黄褐色土30％含む、排土。
7　10YR2/2 黒褐色土、粘性あり、しまりあり、炭化物1％含む。
8　10YR5/8 黄褐色土、粘性なし、とても固い、排土。
9　10YR2/3 黒褐色土、粘性なし、固くしまる、10YR8/3　浅黄橙色土20％含む。
10 10YR2/3 黒褐色土、粘性なし、固くしまる、10YR8/3　浅黄橙色土50％含む。
11 10YR2/3 黒褐色土、粘性なし、固くしまる、10YR8/3　浅黄橙色土30％含む。
12 10YR2/2 黒褐色土、粘性あり、しまりなし。
13 10YR3/3 暗褐色土、粘性あり（やや砂質）、しまりなし。
14 10YR2/2 黒褐色土、粘性あり、しまりあり、（炭化物1％含む）、7に同じ。
15 10YR4/6 褐色土、粘性なし、しまりあり（壁崩壊土か）。

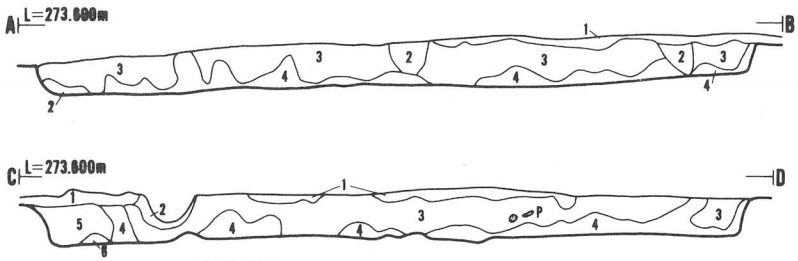
0　1：20　2m

第17図　3号竪穴住居跡



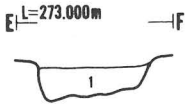
RA04　　単位：cm

柱穴	径	深さ
P1	60×55	18.6
P2	40×36	27.3
P3	40×34	15.8
P4	26×20	9.0
P5	19×17	12.0
P6	14×13	18.4
P7	14×12	4.5
P8	12×10	17.1
P9	8×8	13.4
P10	13×12	4.6
P11	17×15	15.2



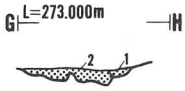
4号住居跡

1　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、非常に固い。
2　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、もろい、50％礫含む（近代遺構の柱穴埋土）。
3　10YR3/4 暗褐色土、粘性あり、しまりややあり、土器片多量に出土。
4　10YR3/4 褐色土、粘性あり、しまりややあり。
5　10YR2/3 黒褐色土、粘性ややあり、しまりあり（他の遺構の埋土か？）。
6　10YR3/3 暗褐色土、粘性ややあり、しまりあり（他の遺構の埋土か？）。



4号住居跡　P1

1　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりややあり。



4号住居跡　炉（焼土）

1　5YR5/8　赤褐色焼土、粘性なし、固くしまる。
2　5YR5/8　赤褐色焼土と10YR3/4暗褐色土との混合土、粘性ややあり、しまりなし。

0　1：20　2m

第18図　4号竪穴住居跡

ＲＡ０４　（第18図、写真図版9）

〈位置・検出層位〉　Ⅱ７ｅグリッドに位置する。

〈重複関係〉　ＲＡ２竪穴住居跡より新しいと思われる。

〈平面形・規模〉　平面形は円形を呈するものと思われる。長軸は3.85m×短軸は3.65mと推定される。

〈埋土〉　６層に分けられる。上位面は暗褐色土で３層目に土器が多量に出土している。５・６層目は他の遺構の埋土と思われる。

〈壁・床面〉　壁は緩やかに外傾して立ち上がる。高さ20cm程で、床面はほぼ平坦である。

〈柱穴〉　柱穴は11基検出している。規模は径8cm～60cm、深さ4.5cm～27.3cmである。大は径60cm、深さ18.6cmで住居内にあるが土坑とも思える。

〈炉〉　焼土１基検出している。直径60cm×単径50cmで、厚さは最大で10cm程である。

〈遺物〉（図版35－11～36－13、写真図版25－10～26－10）

多量の縄文土器と礫石器が、埋土からの出土である。35－11は粗製深鉢の口唇部の一部に二山状小突起がある立体、35－12は壷の破片で、頸部付近に平行沈線と胴部は研磨され、赤色顔料が塗彩されている。13は小型の鉢で、口縁部に羊歯状文が施されている。36－4も同じく赤色顔料が施されている、36－3は壷、10は台付鉢で、他は鉢のようである。６は平行沈線による施文がなされている。12は側面に敲打痕があり、13は、両側面に敲打痕と研磨面がのこる凹石である。36－5は壷の口縁部で工字文が施されている。

〈時期他〉　縄文時代後期前葉～縄文時代晩期後葉の土器もあるが晩期前葉と思われる遺物が多い。晩期前葉の可能性が大である。

ＲＡ０５　（第19図、写真図版10）

〈位置・検出層位〉　Ⅱ７ｅグリッドに位置する。

〈重複関係〉　西側はＲＡ２竪穴住居跡と重複している。

〈平面形・規模〉　平面形はほぼ円形を呈するものと思われる。長軸2.25m×半径1.9mと推定される。

〈埋土〉　７層に分けられる。上位面は黒褐色土主体で３層目には土器が含まれる。

〈壁・床面〉　壁高は約30cmである。床面はほぼ平坦である。

〈柱穴〉　柱穴状土坑は４基検出している。径は12cm～53cm、深さ12.5cm～51.3cmである。配置は不明である。

〈炉〉　焼土を南西の位置で２基検出している。径は10cm～20cmの楕円形である。

〈遺物〉（図版36－14～19、写真図版26－11～16）

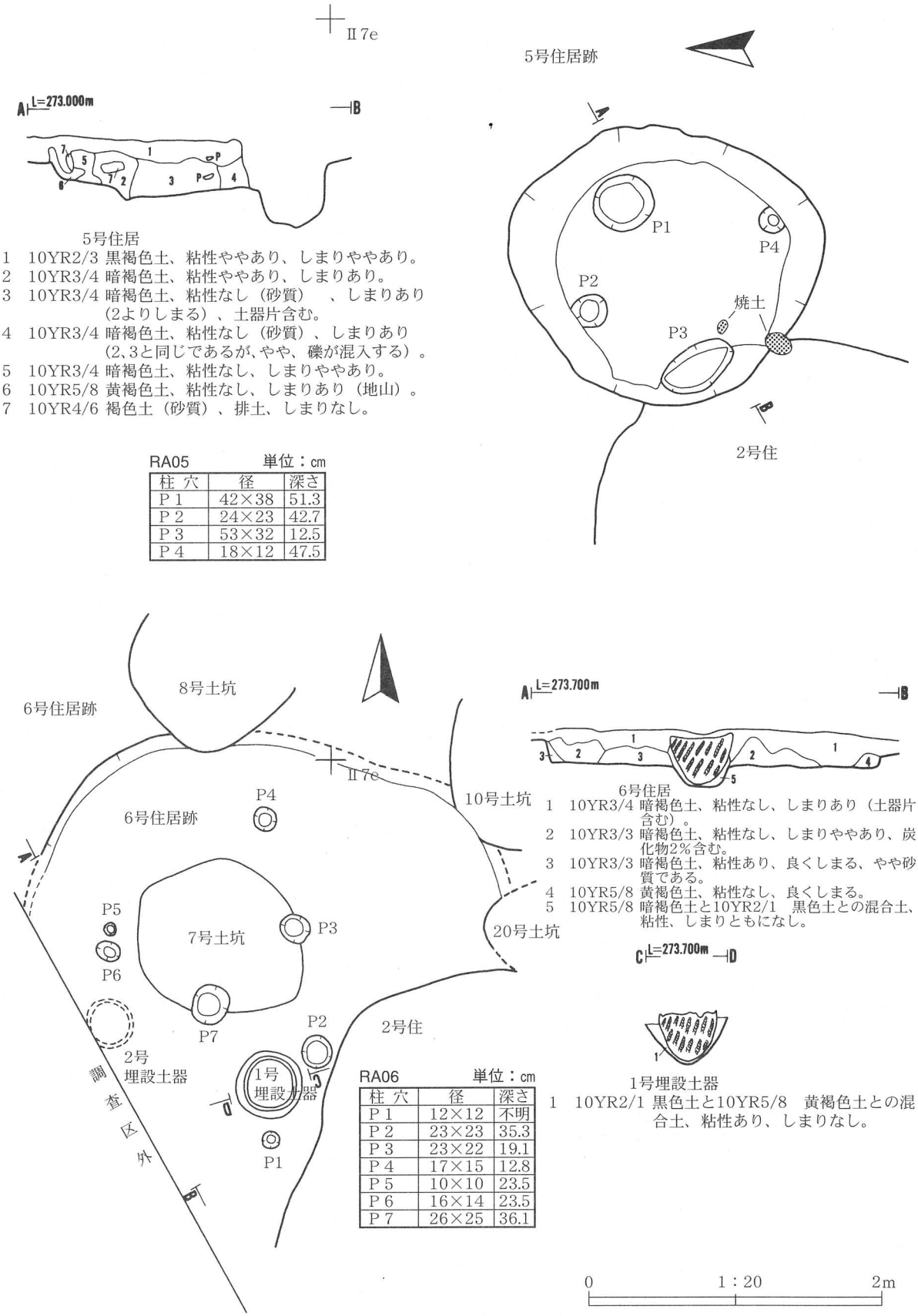
埋土から縄文土器片が少量得られている。図版36－14･18は底部付近の破片、他は口縁部～胴部の破片である。器種は鉢または深鉢と思われる。15は羊歯状文、16は沈線区画の磨消がされている。17は口縁部無文帯の下位に圧痕が19は沈線が巡っている。

〈時期他〉　遺物は縄文時代後期中葉から縄文時代晩期前葉のものが出土しており、縄文時代晩期前葉の可能性が高い。

ＲＡ０６　（第19図、写真図版10）

〈位置・検出層位〉　Ⅱ７ｆグリッドに位置する。

〈重複関係〉　２号竪穴住居跡に切られる。10号・20号土坑と重複している。



RA05　単位：cm

柱 穴	径	深さ
P 1	42×38	51.3
P 2	24×23	42.7
P 3	53×32	12.5
P 4	18×12	47.5

RA06　単位：cm

柱 穴	径	深さ
P 1	12×12	不明
P 2	23×23	35.3
P 3	23×22	19.1
P 4	17×15	12.8
P 5	10×10	23.5
P 6	16×14	23.5
P 7	26×25	36.1

第19図　5・6号竪穴住居跡

〈平面形・規模〉　一部しか残存していないが、ほぼ円形を呈するものと思われる。規模は直径3.25mと推定される。

〈埋土〉　５層に分けられる。上位は暗褐色土で土器片が含まれる。２層目も暗褐色土で炭化物が２％含まれる。

〈壁・床面〉　壁高は約20cmであり床面はほぼ平坦である。床面に１・２号埋設土器を検出した。

〈柱穴〉　柱穴状土坑は７基検出している。径10cm～26cm、深さ12．8cm～36．1cmである。配置は不明である。

〈炉〉　検出できなかった。

〈遺物〉（図版36図－20・21、写真図版26－17・18）

埋土から数点の土器片が出土している。20・21とも注口土器の破片である。20は平行沈線と粘土貼付、連続押圧による施文がなされ赤色顔料が塗彩されている。21は平行沈線と列点状の連続押圧、Ｃ文状やＺ字状やの沈線文が施されている。

〈時期他〉　出土土器より縄文時代晩期に属すると思われる。

ＲＡ１２　（第20図、写真図版11）

〈位置・検出層位〉　Ⅱ６ｆグリッドに位置する。

〈重複関係〉　南東側がRA３号住居跡と重複している。南西側に２・３号墓壙と重複し、南側もRD６号土坑と重複している。

〈平面形・規模〉　平面形は楕円形を呈するものと思われ、直径4.35m×4.0mと推定される。

〈埋土〉　７層に分けられる。上位面は黒褐色土で３層目には土器が多量に含まれている。下位面は暗褐色土で粘性なし、しまりありである。

〈壁・床面〉　壁高は20cm～30cmで外傾している。床面はほぼ平坦である。

〈柱穴〉　柱穴状土坑は６基検出している。規模は口径11cm～52cm、深さは16.0cm～35.5cmである。

〈炉〉　地床炉と思われる焼土を住居跡中央に１基検出している。64cm～70cm、厚さは最大１５cm程である。

〈遺物〉（図版37図－1～12、写真図版26－19～27－3）

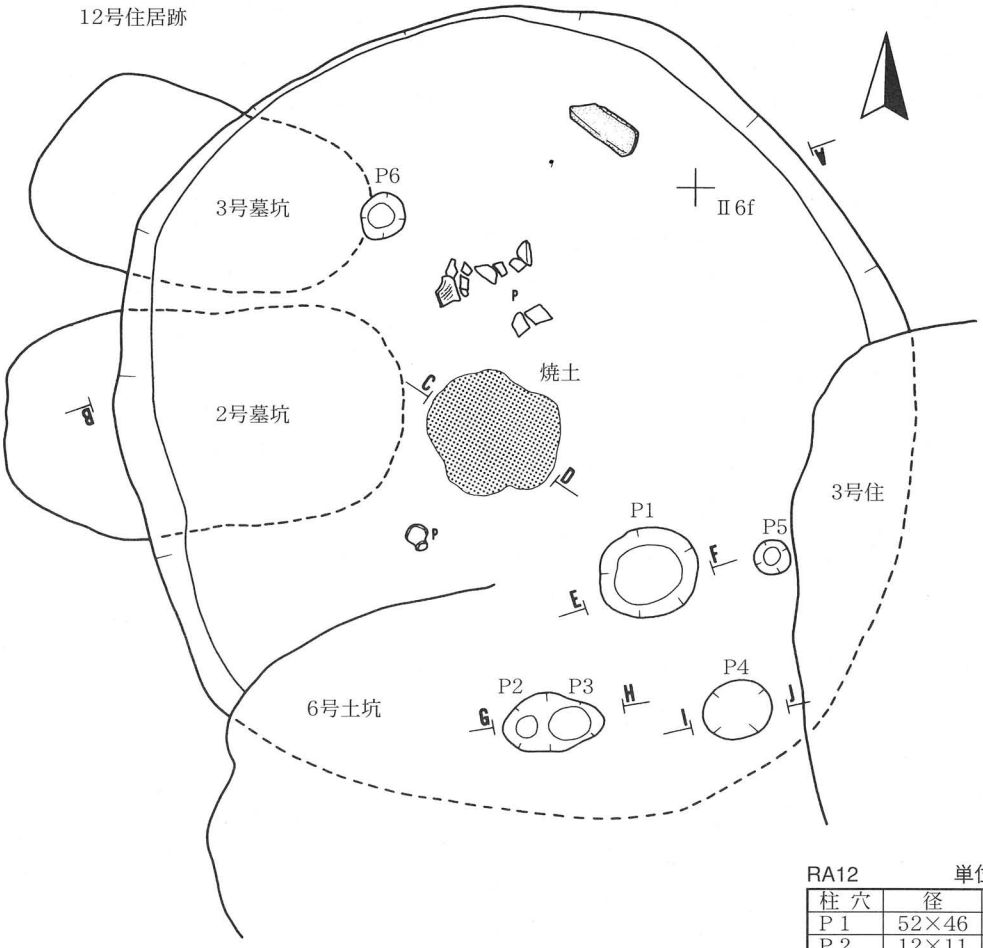
床面から37－3・4・7の土器片と10の土製品が出土し、他は埋土から出土している。3は小型の壷の破片で無文・研磨されている。4は鉢の口縁部で無文・研磨されている。7は深鉢の口縁部片で波状を呈し、口縁部に沿う平行沈線が施文されている。10は四脚付皿のミニチュア品である。埋土出土遺物も破片が多い。1・2は、大きな波状を呈して、広がる口縁部を持つ深鉢である。５は壷の９は深鉢の胴下部～底部である。11は土偶の脚部、12は円盤状土製品である。深鉢が３点、１は大波状口唇と羽状縄文が施れている。3は無文で内面にナデが施されている壷の胴部、11は土偶の左脚で中実である。10は動物の脚を表現している皿形の土製品、12は外周がギザギザの土製円盤である。

〈時期他〉　時期は床面出土の土器から、縄文時代後期中葉の可能性が考えられる。

ＲＡ１３　（第21図、写真図版11）

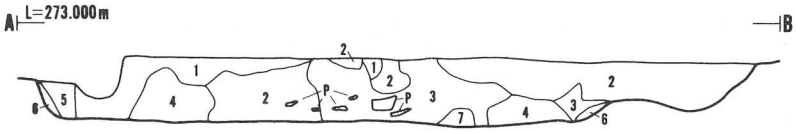
〈位置・検出層位〉　Ⅱ７ｄグリッドに位置する。

〈重複関係〉　RD28・29と重複し、東側は調査区外となり未検出である。



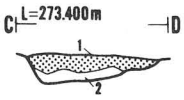
RA12　　単位：cm

柱 穴	径	深さ
P 1	52×46	32.0
P 2	12×11	14.0
P 3	23×18	16.0
P 4	38×30	30.0
P 5	18×17	15.0
P 6	24×23	35.5



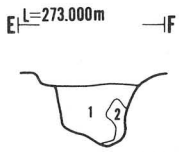
12号住居跡

1　10YR2/2 黒褐色土、粘性なし、しまりなし、小礫30％含む。
2　10YR2/3 黒褐色土、粘性なし、しまりあり。
3　10YR2/3 黒褐色土、粘性あり、しまりややあり（土器片多量に含む）。
4　10YR3/4 暗褐色土、粘性あり、しまりあり。
5　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりなし。
6　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりあり。
7　10YR4/6 褐色土、粘性なし、しまりなし。



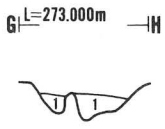
12号住居　焼土

1　10YR5/8 赤褐色焼土、粘性なし、しまりあり。
2　10YR2/8 灰白色土に焼土ややまじる、粘性なし、砂質、しまりなし。



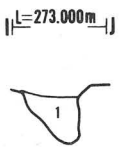
P1

1　10YR3/4 暗褐色土。
2　10YR4/6 褐色土。



P2・P3

1　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりあり。

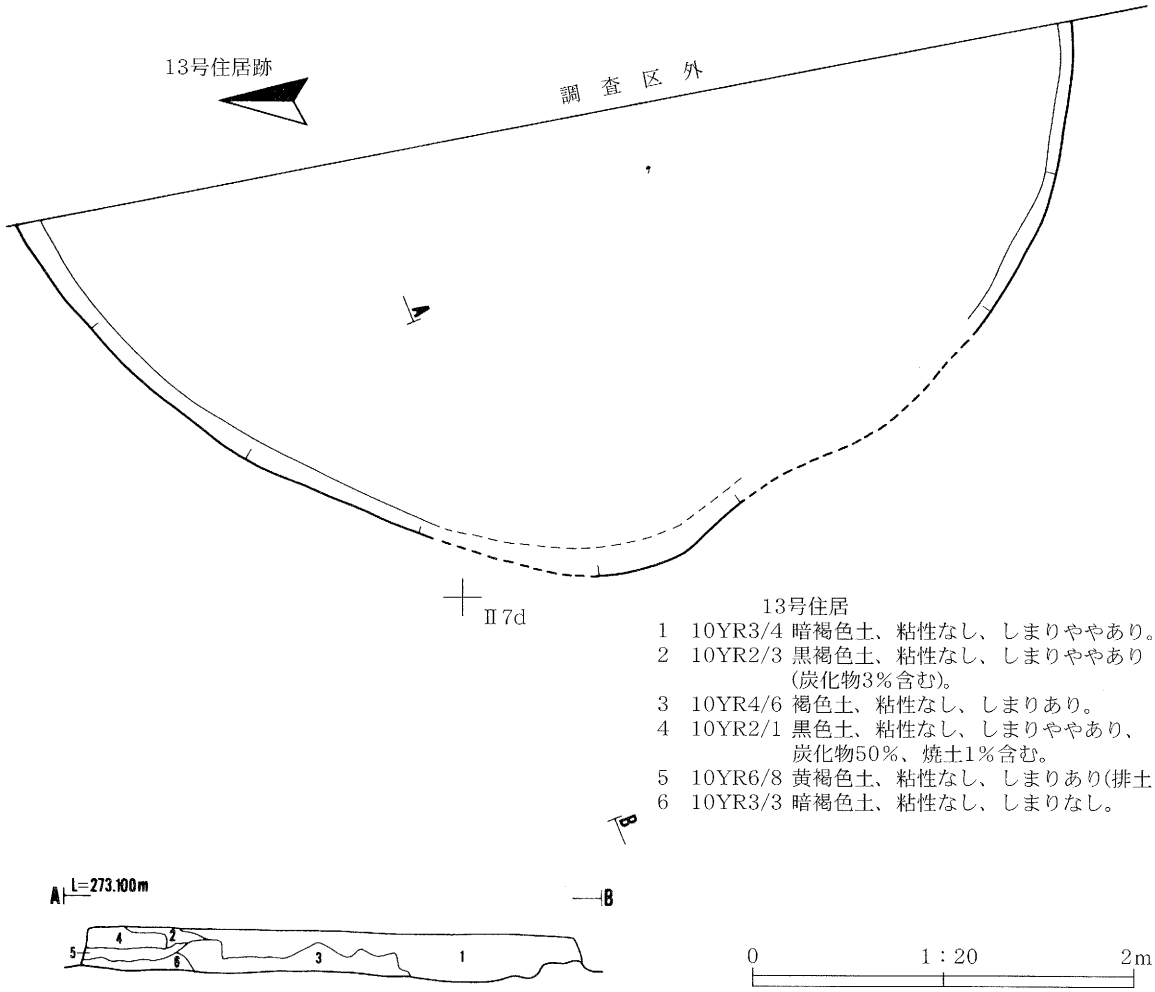


P4

1　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりあり、礫1％含む。

0　1：20　2m

第20図　12号竪穴住居跡



第21図　13号竪穴住居跡

〈平面形・規模〉　平面形はほぼ円形を呈していると思われ、直径約5.5mである。

〈埋土〉　6層に分けられる。全体的には粘性なし、爪で押さなければへこまない程度にしまりありである。1層目と4層目は炭化物を含む。

〈壁・床面〉　壁高は25cmで、床面はほぼ平坦である。

〈柱穴〉　検出されなかった。

〈炉〉　4層目に炭化物50%と焼土1%を含む。

〈遺物〉(第38図－1～17、写真図版27－4～20)

床面から2・5・13の土器片が、他は埋土からの出土である。7は鉢の破片で13は雲形文が施されている。15は粗製深鉢の破片で、横位に結束のある羽状縄文が巡る。1・3・8は鉢で1は羊歯状文、3は沈線と連続刺突・磨消文が巡る。8は羊歯状文と雲形文が施されている。4・6は壷で、4は羊歯状文、6は変形工字文が施されている。9～12・14・15は口縁部の破片で、沈線文や連続刻状の施文がなされている。16は注口土器の注口部の破片である。17は磨製石斧で刃部が欠損している。1は波状口縁で入組文の鉢、4は羊歯状文で赤色顔料が塗彩された注口土器である。14も赤色顔料が施されている。17は磨製石斧である。

〈時期他〉　時期は床面出土の土器から縄文時代晩期中葉と思われる。

(2) 土坑

土坑は２２基検出している。遺構番号は連番でＲＤ１～ＲＤ３２と登録したが、欠番扱いとしたものがある。また、墓壙に登録変更したものもある。

ＲＤ０５　(第22図、写真図版12)

〈位置〉　Ⅱ４ｅグリッドに位置する。

〈検出状況〉　ＲＴ１号墓壙の北の位置にあり、墓壙の可能性もあるが、定かではないので土坑としている。

〈規模・形状〉　開口部径158cm×85cm・底部径140cm×65cm・深さ65cm、平面形は楕円形、断面形はビーカー形を呈する。底面はほぼ平坦である。

〈埋土〉　６層からなる。１層目は暗褐色土で、土器片が出土している。２層目は褐色土で土器片が出土している。

〈出土遺物〉(第39図－1・2、写真図版28－1・2)　埋土から土器片が数点出土している。１は鉢の口縁部片で、沈線と連続刻目状の施文がみられる。２は壷の口頸部の破片と思われる。平行沈線と連続刻目２条の施文がなされている。

〈時期〉　時期は出土遺物から縄文時代晩期前葉と思われる。

ＲＤ０６　(第22図、写真図版12)

〈位置〉　Ⅱ６ｆグリッドに位置する。

〈検出状況〉　RD８号土坑に切られ、RD12号土坑を切る。

〈規模・形状〉　残存部分のわかるところは、開口部径220cm×(　)cm、底部経190cm×(　)cm、深さ15cm、平面形は円形もしくは楕円形と思われるが不明。

〈埋土〉　４層からなる。暗褐色土主体で、３層は黄褐色土との混合土、粘性あり、しまりありである。

〈出土遺物〉(第39図－3～11，写真図版28－3～11) 埋土から土器や土器片、土製品、石器が出土している。3は粗製の深鉢で口縁部は欠損している。4・5・7は深鉢の口縁部片で、4・5は波状口縁を呈する。平行決線や連続刻押圧の施文がなされている。6は深鉢の破片で平行沈線による曲状文が施されている。7は羊歯状文が施されている。8は台付鉢の台部で沈線が巡る。9・10は円盤状土製品である。11は棒状の石器で両端が敲打により欠損している。

〈時期〉　時期は縄文時代後期前葉の土器も混入しているが、縄文時代晩期前葉の可能性が高いと思われる。

ＲＤ０７　(第22図、写真図版12)

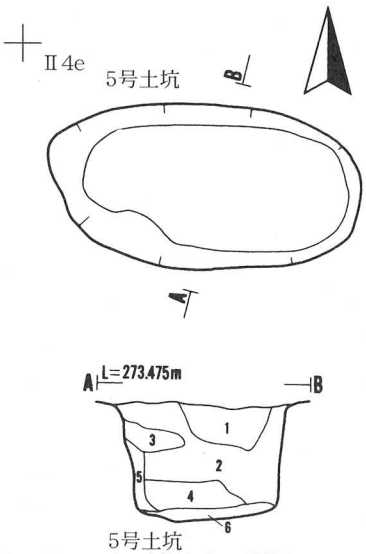
〈位置〉　Ⅱ７ｆグリッドに位置する。

〈検出状況〉　６号住居跡の中から出土した。

〈規模・形状〉　開口部は径110cm×105cm・底部型は70cm×60cm・深さ20cm、平面形は円形、断面形は皿形を呈する。底部はほぼ平坦であり壁は緩やかに外傾する。

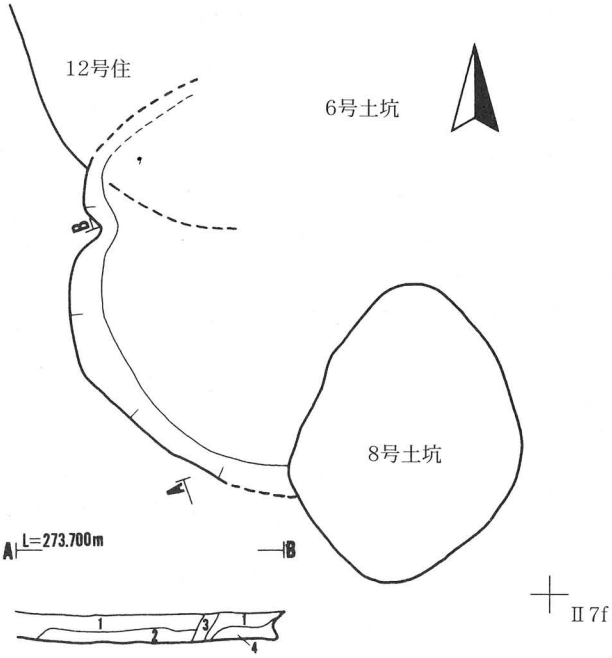
〈埋土〉　２層目は１層目より堅く、炭化物20％を含み１層より出土土器が少ない。

〈出土遺物〉(第40図－1～3、写真図版28－12～14)　埋土から縄文土器片と土製品２点が出土している。



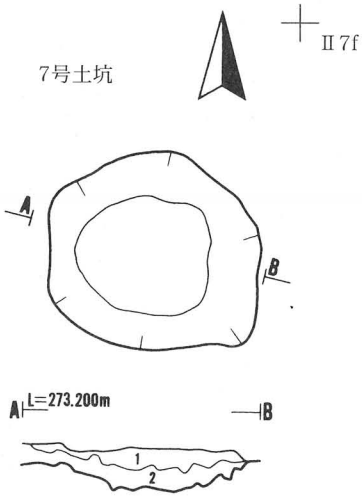
5号土坑

1　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりあり、土器片含む。
2　10YR4/4 褐色土、粘性なし、しまりあり、土器片出土。
3　10YR4/6 褐色土、粘性ややあり、しまりあり、礫の崩壊土か？
4　10YR4/4 褐色土、粘性あり（やや砂質）、しまりなし。
5　10YR3/4 暗褐色土（砂土）、粘性ややあり、しまりなし。
6　10YR5/3 にぶい黄褐色砂土、粘性なし、しまり全くなし、掘りすぎか？



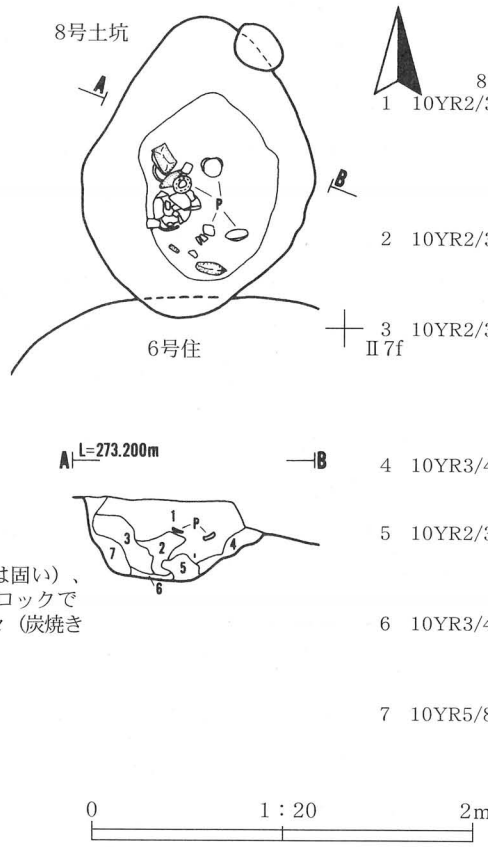
6号土坑

1　10YR3/3 暗褐色土、粘性ややあり、しまりややあり。
2　10YR3/3 暗褐色土、粘性ややあり、しまりあり。
3　10YR3/3 暗褐色土と10YR5/8　黄褐色との混合土、粘性ややあり、しまりあり。
4　10YR5/8 黄褐色土、粘性あり、しまりあり。



7号土坑

1　10YR3/2 黒褐色土、粘性あり、しまりややあり。
2　10YR4/4 黒褐色土、粘性あり、しまりややあり（1よりは固い）、炭化物20％含む。10YR5/8　黄褐色土30％ブロックで含む。土器は1から出土、2から出土する土器は少々（炭焼きの土坑か？）。



8号土坑

1　10YR2/3 黒褐色土、粘性あり、しまりややあり、土器片多量に出土、炭化物1％含む。
2　10YR2/3 黒褐色土、粘性よくある、しまりややあり。
3　10YR2/3 黒褐色土、粘性あり、しまりややあり、10YR5/8 黄褐色土まばらに含む。
4　10YR3/4 暗褐色土、粘性あり、よくしまる。
5　10YR2/3 黒褐色土、2と同じであるが、やや黒色が強い。
6　10YR3/4 暗褐色土、粘性あり、しまりなし、砂質である。
7　10YR5/8 黄褐色土、粘性あり、しまりなし、10YR3/4 暗褐色土まばらに含む。

第22図　5～8号土坑

第40図－１は注口土器の胴部破片で上半には三叉文と変形沈線文が巡り、下半は無文で研磨されている。２は動物形土製品の破片と思われる。３は土偶の胴部破片のようである。

〈時期〉　時期は出土遺物から縄文時代晩期前葉の可能性がある。

ＲＤ０８　（第22図、写真図版12・13）

〈位置〉　Ⅱ６ｆグリッドに位置する。

〈検出状況〉　６号住居跡と６号土坑跡を切る。

〈規模・形状〉　開口部径は155cm×116cm・底部径は100cm×73cm・深さ40cm、平面形は楕円形、断面形は皿形を呈する。底部はほぼ平坦であり、壁は外傾する。

〈埋土〉　７層に分けられ、黒褐色が主体である。１層目からは土器片が多量に出土しており、炭化物が１％含まれている。

〈出土遺物〉（第40図－4～12，写真図版28－15～29－5）　埋土から土器、土器片と石器が出土している。第40図－４～６は台付鉢のほぼ完形品で、４・６は羊歯状文、５はＫ字状文が施されている。７は鉢でＲＣの字文に沈線と、磨消による区画文が施文されている。８・９・11は口縁部破片で８には補修孔が見られる。10は台付土器の台部で字文はなく平行沈線が巡っている。12は石槍とおもわれる石器で、両面からていねいに打敲加工がなされている。

〈時期〉　時期は出土遺構から縄文時代晩期中葉と思われる。。

ＲＤ０９は欠番

ＲＤ１０　（第23図、写真図版13）

〈位置〉　Ⅱ７ｅグリッドに位置する。

〈検出状況〉　RD16号土坑の南側で検出した。

〈規模・形状〉　開口部径は130cm×120cm・底部径は65cm×60cm・深さ1.4cm、平面形は歪な楕円形、断面形は皿形を呈する。底部はやや平坦であり、壁は緩やかに外傾する。

〈埋土〉　５層に分けられ、主に暗褐色土で占められ、しまる。

〈出土遺物〉　出土遺物なし

〈時期〉　時期は縄文時代と思われる。

ＲＤ１１　（第23図、写真図版13）

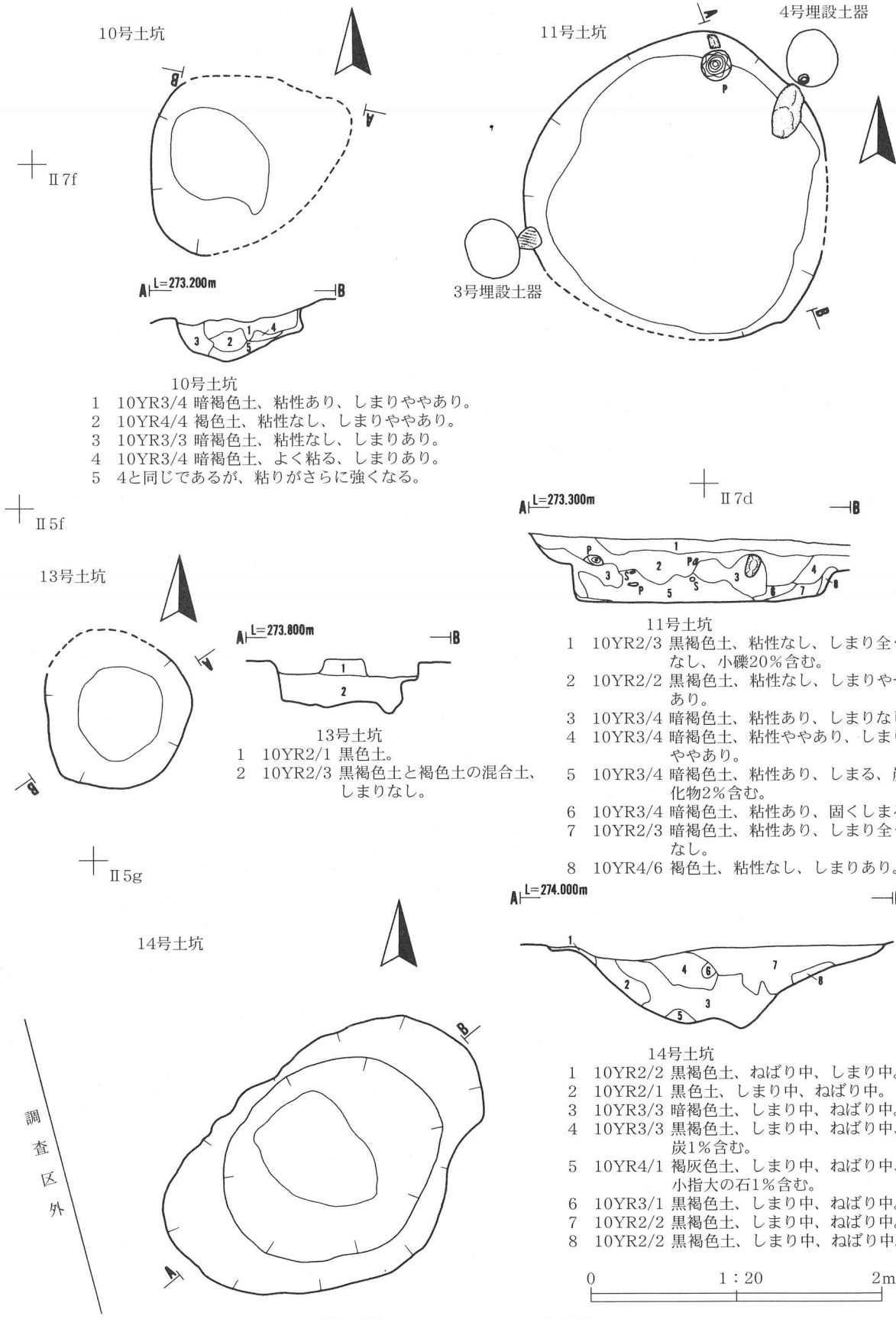
〈位置〉　Ⅱ６ｅグリッドに位置する。

〈検出状況〉　北東側に４号埋設土器、西側に３号埋設土器があり、北側で土器が出土された。

〈規模・形状〉　開口部径は210cm×210cm・底部径は162cm×190cm・深さ40cm、平面形は円形、断面形は皿形を呈する。底部はほぼ平坦であり、壁はゆるやかに外傾する。

〈埋土〉　８層からなる全体の傾向は、２層目には炭化物が３％含まれ、４層目にも炭化物が50％と焼土１％が含まれている。

〈出土遺物〉（第41図、写真図版29－6～24）　埋土から土器片が出土しているが、埋土の上～中位で得られたものが大半で、1～3が埋土下位から得られている。1は台付鉢の胴下位から台部で、接続部付近に、隆帯による三叉状の施文が巡わる。2・3は鉢の口縁部破片で羊歯状文や連続



10号土坑
1　10YR3/4 暗褐色土、粘性あり、しまりややあり。
2　10YR4/4 褐色土、粘性なし、しまりややあり。
3　10YR3/3 暗褐色土、粘性なし、しまりあり。
4　10YR3/4 暗褐色土、よく粘る、しまりあり。
5　4と同じであるが、粘りがさらに強くなる。

13号土坑
1　10YR2/1 黒色土。
2　10YR2/3 黒褐色土と褐色土の混合土、しまりなし。

11号土坑
1　10YR2/3 黒褐色土、粘性なし、しまり全くなし、小礫20％含む。
2　10YR2/2 黒褐色土、粘性なし、しまりややあり。
3　10YR3/4 暗褐色土、粘性あり、しまりなし。
4　10YR3/4 暗褐色土、粘性ややあり、しまりややあり。
5　10YR3/4 暗褐色土、粘性あり、しまる、炭化物2％含む。
6　10YR3/4 暗褐色土、粘性あり、固くしまる。
7　10YR2/3 暗褐色土、粘性あり、しまり全くなし。
8　10YR4/6 褐色土、粘性なし、しまりあり。

14号土坑
1　10YR2/2 黒褐色土、ねばり中、しまり中。
2　10YR2/1 黒色土、しまり中、ねばり中。
3　10YR3/3 暗褐色土、しまり中、ねばり中。
4　10YR3/3 黒褐色土、しまり中、ねばり中、炭1％含む。
5　10YR4/1 褐灰色土、しまり中、ねばり中、小指大の石1％含む。
6　10YR3/1 黒褐色土、しまり中、ねばり中。
7　10YR2/2 黒褐色土、しまり中、ねばり中。
8　10YR2/2 黒褐色土、しまり中、ねばり中。

第23図　10・11・13・14号土坑

刻状文が施文される。13は鉢または台付鉢でX状字文や雲形文が施されている。15は広口壷で平行沈線で区画された頸部は無文上位と下位には三叉文を主とした施文がなされている。18は小型壷で無文である。19は土錘と思われ、長軸と短軸に沈線が巡る。

〈時期〉　時期は出土遺物より縄文時代晩期初頭から前葉と思われる。

ＲＤ１２は削除

ＲＤ１３　（第23図、写真図版14）

〈位置〉　Ⅱ５ｅグリッドに位置する。

〈検出状況〉　北側半分の壁は検出困難で検出できなかった。

〈規模・形状〉　開口部は100cm×100cm・底部径は65cm×60cm・深さは30cm、平面形は円形、断面形はビーカー形を呈する。底部はほぼ平坦で、壁はほぼ直立する。

〈埋土〉　調査手順の誤りで実測していないが、炭化物がまばらに混入し黒褐色土を主としていた。

〈出土遺物〉（第42図、写真図版29－25）　埋土から縄文土器片が得られている。鉢または台付鉢の口縁部から胴部の破片で、口縁部に平行沈線と羊歯状文、2個1対の粘土粒の貼付が見られる。

〈時期〉　時期は出土遺物から縄文時代晩期前葉と思われる。

ＲＤ１４　（第23図、写真図版14）　ＲＤ１８と同じ

〈位置〉　Ⅱ５ｆグリッドに位置する。

〈検出状況〉　Ⅱ区の北東側に位置している。

〈規模・形状〉　開口部径は240cm・底部径は70cm・深さは55cm、平面形は楕円形、断面形は皿形を呈する。底部はほぼ平坦であり、壁は緩やかに外傾する。

〈埋土〉　８層に分けられる。４層目には炭化物１％が含まれ、５層目は褐灰色土、粘り中、しまり中で小指大の石１％が含まれる。

〈出土遺物〉（第42図－2～5、写真図版29－26～29）埋土下位から縄文土器数点が得られている。2は鉢形土器の胴～底部で無文である。3は口縁部突起の破片で、突起に三角形状の沈線区画が施されている。4は胴部上位の破片で、刺突と平行沈線による施文がある。5は口縁部の破片で、連続するX字状の施文と平行沈線が巡る。

〈時期〉　時期は出土遺物より縄文時代晩期前葉の可能性が高い。

ＲＤ１５　（第24図、写真図版14）

〈位置〉　Ⅱ５ｅグリッドに位置する。

〈検出状況〉　火山灰状の堆積物で検出された。

〈規模・形状〉　開口部径は65cm×55cm・底部径は50cm×47cm・深さは8cm、平面形は円形、断面形は皿形を呈する。底部は平坦であり、壁は外傾する。

〈埋土〉　1層だけで、浅黄色の灰状の堆積層で、分析・鑑定の結果十和田a火山灰であるとされた。詳細は分析・鑑定のページで参照。

〈出土遺物〉　出土遺物なし

〈時期〉　時期は古代と思われる。

ＲＤ１６　（第24図、写真図版14）

〈位置〉　Ⅱ６ｅグリッドに位置する。

〈検出状況〉　RA３号住居跡を切る。RD10号土坑跡を切る。

〈規模・形状〉　開口部径は120cm×85cm・底部径は55cm×75cm・深さ22cm、平面形は楕円形、断面形は皿形を呈する。底面は平坦であり、壁は外傾する。

〈埋土〉　４層からなる。１層目は暗褐色土で、礫１％含む。

〈出土遺物〉（第42図－６・７、写真図版29－30・31）　埋土中から、数点の土器が得られている。６・7は口縁部の破片である。６は波状口縁で横位の平行沈線の間に楕行して、垂下する沈線が施文される。7は平行沈線と溝状の粘土の貼付による施文がなされている。

〈時期〉　時期は出土遺物より縄文時代後期と思われる。

ＲＤ１７　（第24図、写真図版15）

〈位置〉　Ⅱ６ｅグリッドに位置する。

〈検出状況〉　RA3号住居跡を切り、西側半分の壁ははっきり検出されなかった。

〈規模・形状〉　開口部径は90cm×80cm・底部径は80cm×65cm・深さ20cm、平面形は歪な楕円形、断面形は皿形を呈する。底面はほぼ平坦であり壁は外傾である。

〈埋土〉　１層目は暗褐色土で粘性あり、締まりがややある。２層目は黄褐色土で地山の排土と思われる。

〈出土遺物〉　出土遺物なし

〈時期〉　縄文時代と思われる。

ＲＤ１８はＲＤ１４に変更となった。

ＲＤ１９　（第24図、写真図版15）

〈位置〉　Ⅱ４ｅグリッドに位置する。

〈検出状況〉　RA１号住居跡内から検出された

〈規模・形状〉　開口部径は50cm×75cm・底部径は30cm×55cm・深さ12cm、平面形は楕円形、断面形は皿形を呈する。底部は平坦であり、壁は外傾する

〈埋土〉　RA１号住居内の土坑で、２層からなり、ともに粘性なし、しまりなしである

〈出土遺物〉　出土遺物なし

〈時期〉　縄文時代と思われる。

ＲＤ２０　（第25図、写真図版15）

〈位置〉　Ⅱ７ｅグリッドに位置している。

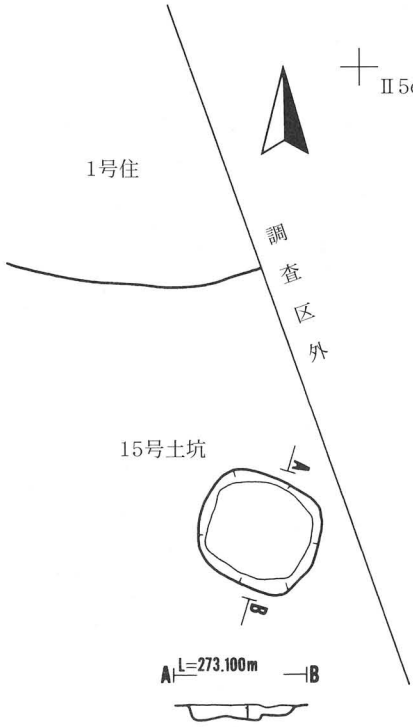
〈検出状況〉　RA２号住居跡を切る。ＲＤ２１号土坑跡を切る。

〈規模・形状〉　開口部径は80cm×100cm・底部径は65cm×74cm・深さ30cm、平面形は歪な円形、断面形はビーカー形を呈する。

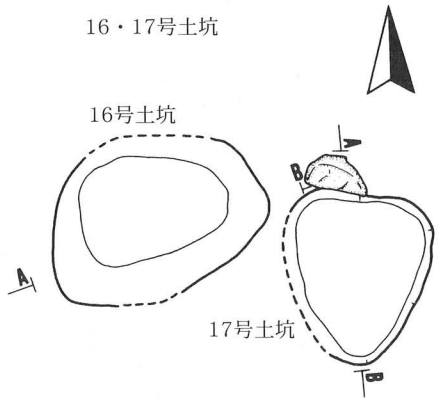
〈埋土〉　３層に分かれている。暗褐色土主体で黄褐色土を20％含んでいる。

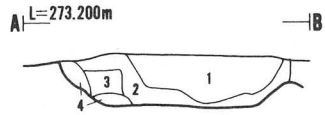
〈出土遺物〉（第42図、写真図版29－32）　埋土中から8の縄文土器片１点が得られている。口縁部の破片で、平行沈線と連続押圧状の施文がなされている。

〈時期〉　時期は出土遺物より、縄文時代晩期前葉と思われる。

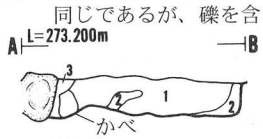


15号土坑
1　2．5YR5/3　浅黄色土、粘性あり、十和田火山灰

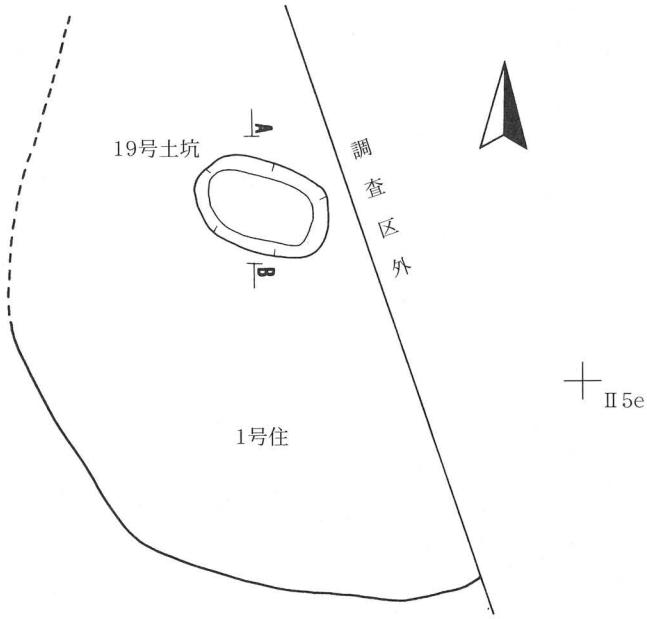


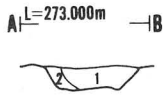


16号土坑
1　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりなし、小礫1％含む。
2　10YR2/3 黒褐色土、粘性あり、しまりあり。
3　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりややあり。
4　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりなし（1と同じであるが、礫を含まず、砂質である）。



17号土坑
1　10YR3/4 暗褐色土、粘性あり、しまりあり。
2　10YR5/8 黄褐色土（地山）の排土と10YR3/4暗褐色土が混じった土、かたくしまる、粘性なし。





19号土坑
1　10YR2/1 黒色土、粘性なし、しまりややあり、小礫20％含む。
2　10YR5/8 黄褐色土、粘性なし、しまりあり。

0　1：20　2m

第24図　15～17・19号土坑

ＲＤ２１　（第25図、写真図版15）

〈位置〉　Ⅱ７ｅグリッドに位置する。

〈検出状況〉　ＲＡ５号住居跡に切られ、ＲＤ２０号土坑にも切られる。

〈規模・形状〉　開口部径は210cm×不明・底部径は170cm×不明・深さ25cm、平面形は楕円形、断面形は不定形を呈する。

〈埋土〉　4層に分けられる。2層目の暗褐色土が大部分をしめている。

〈出土遺物〉（第42図－9～11、写真図版30－1～3）　埋土中から数点の土器片が得られている。9は波状口縁の頂部破片で、外面と内面頂部付近に平行沈線が施文されている。10は鉢の口縁部破片で、三叉文が施文されている。11は注口土器の破片である。

〈時期〉　時期は出土遺物より、縄文時代晩期初頭と思われる。

ＲＤ２２はＲＴ２に変更した。

ＲＤ２３はＲＴ３に変更した。

ＲＤ２４はＲＴ４に変更した。

ＲＤ２５　（第25図、写真図版16）

〈位置〉　Ⅱ５ｅグリッドに位置する。

〈検出状況〉　東側は調査区外に続き残存するものと思われる。

〈規模・形状〉　開口部径は170cm×残存していないので不明cm・底部径は58cm×不明cm・深さ不明cm、平面形は楕円形を呈する。

〈埋土〉　断面図は手違いにより未作成で詳細不明

〈出土遺物〉（第42図－12、写真図版30－4）　埋土中から12の縄文土器１点が得られている。波状突起の口縁部片で、突起頂部に棒状工具による押圧が施されている。口縁部は無文研磨されて、胴部との境界は段になっている。

〈時期〉　時期は出土遺物より、縄文時代後期後半と思われる。

ＲＤ２６　（第25図、写真図版16）

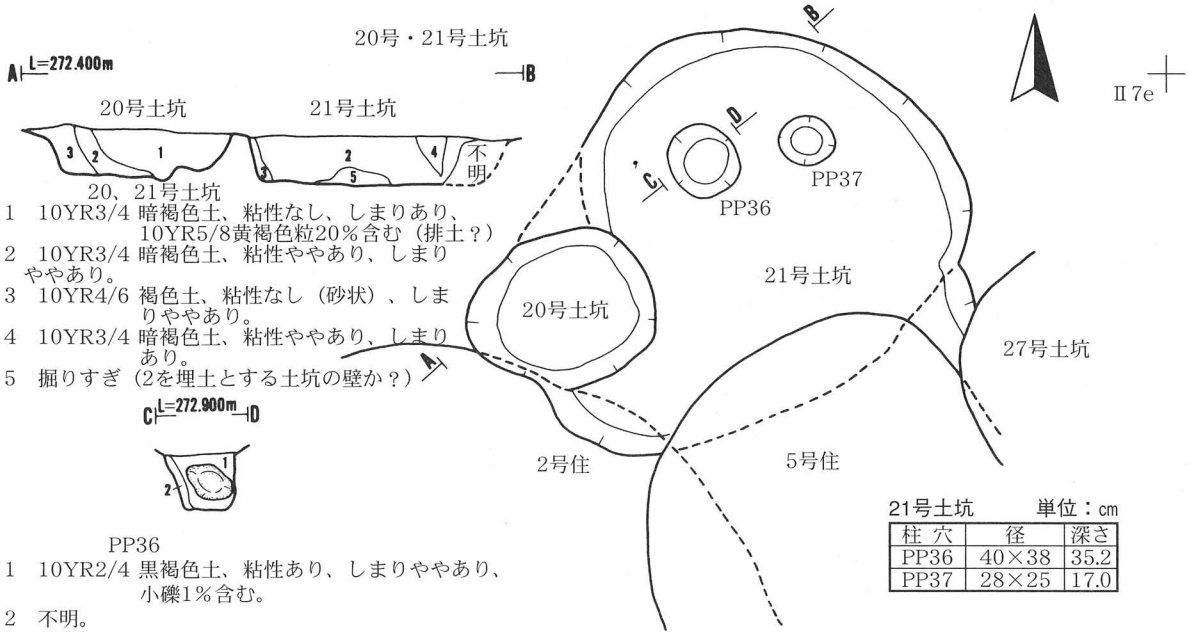
〈位置〉　Ⅱ７ｄグリッドに位置する。

〈検出状況〉　ＲＤ28号土坑に切られる。北東側に柱穴状土坑がある。

〈規模・形状〉　開口部径は230cm×225cm・底部径はＲＤ28号に切られているので、不明cm×210cm・深さは50cm、平面形は歪な円形、断面形は皿形を呈する。底面は不整であり、壁は外傾する。

〈埋土〉　７層に分けられる。主に暗褐色土と黒褐色土が交互に埋土している。１層目には炭化物10％が含まれる。２・３層目には焼土が含まれる。

〈出土遺物〉（第42図－13～23、写真図版30－5～15）　埋土から多量の土器と土器片が出土している。17は注口土器の欠損品で、羊歯状文が主に施文されている。20は台付鉢の欠損品で、平行沈線や磨消連続押圧等の施文がなされている。21・22は台付鉢の破損品である。16・19は口縁部突起の破片である。18は口縁部に連続押圧状の施文と平行沈線が巡り、胴部には



20、21号土坑

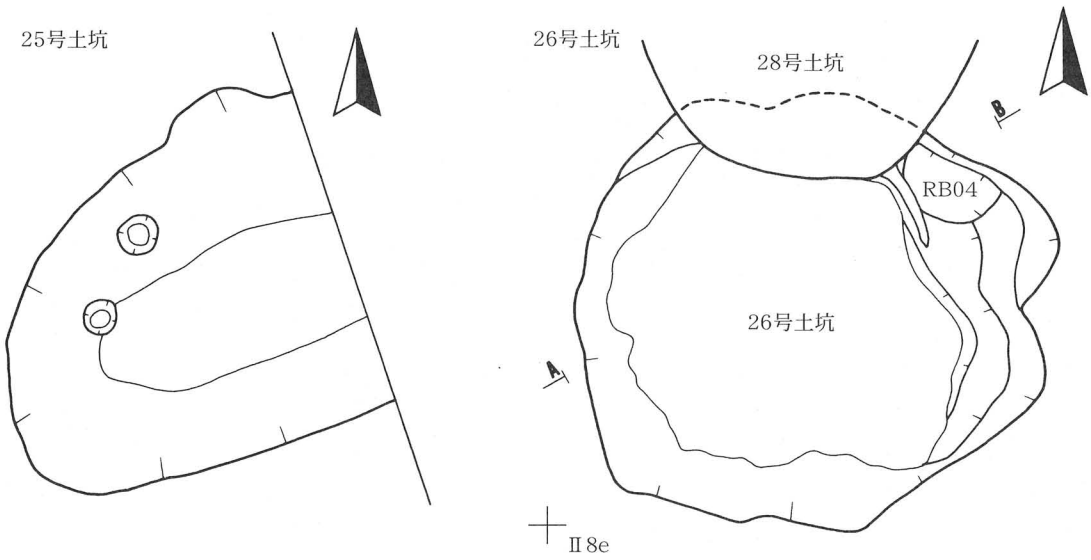
1　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりあり、10YR5/8黄褐色粒20％含む（排土？）
2　10YR3/4 暗褐色土、粘性ややあり、しまりややあり。
3　10YR4/6 褐色土、粘性なし（砂状）、しまりややあり。
4　10YR3/4 暗褐色土、粘性ややあり、しまりあり。
5　掘りすぎ（2を埋土とする土坑の壁か？）

PP36

1　10YR2/4 黒褐色土、粘性あり、しまりややあり、小礫1％含む。
2　不明。

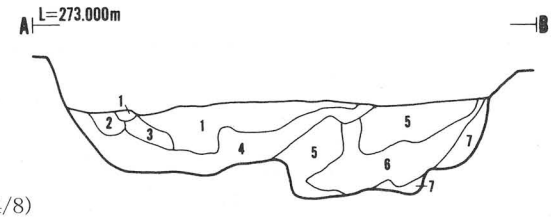
21号土坑　　単位：cm

柱穴	径	深さ
PP36	40×38	35.2
PP37	28×25	17.0



25号土坑
断面なし

Ⅱ6d



26号土坑

1　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりあり、10YR5/8黄褐色土50％炭化物10％含む。
2　10YR3/4 黒褐色土、粘性なし、しまりあり、(焼土5YR4/8)1％含む。
3　1と同じ焼土10％含む（ブロックで）。
4　10YR3/4 暗褐色土、粘性あり、しまりややあり。
5　10YR3/4 黒褐色土、粘性ややあり、しまりややあり。
6　10YR3/4 暗褐色土（砂質）、粘性なし、しまりややあり。
7　堀すぎ（地山）。

0　1：20　2m

第25図　20・21・25・26号土坑

磨消によりK字状と思われる雲形文が施文されている。

〈時期〉　時期は出土遺物より、縄文時代後期中葉から晩期後葉と思われる。

ＲＤ２７　（第26図、写真図版16）

〈位置〉　Ⅱ７ｅグリッドに位置している。

〈検出状況〉　この土坑に伴うかどうか不明な柱穴状土坑を北側で検出した。

〈規模・形状〉　開口部径は105cm×100cm・底部径は124cm×125cm・深さは50cm、平面形は円形、断面形はフラスコ形を呈する。

〈埋土〉　気が付かず掘ったため断面図はない。

〈出土遺物〉（第43図－1～3、写真図版30－16～18）　埋土から縄文土器片数点と石器1点が得られている。1は鉢の破片で、三叉文を主として施文がなされている。2も口縁部突起を伴う破片で、沈線と磨消による施文されている。3は磨石で楕円形の2面に磨面が形成され、側縁には敲打痕がある。

〈時期〉　時期は出土遺物より、縄文時代晩期初頭と思われる。

ＲＤ２８　（第26図、写真図版16）

〈位置〉　Ⅱ７ｄグリッドに位置する。

〈検出状況〉　北側で柱穴状土坑を検出した。

〈規模・形状〉　開口部径は190cm×20cm・底部径は175cm×155cm・深さ15cm、平面形は円形、断面形は皿形を呈する。底面は平坦であり、壁は急な外傾である。

〈埋土〉　６層に分けられる。３層目は砂質でしまりがない。

〈出土遺物〉（第43図－4～6、写真図版19～21）　埋土の下位から数点の土器片が出土している。４・５は口縁部の破片で、４は刺突と三叉文が、６は沈線と磨消が施されている。５は注口土器の注口部である。

〈時期〉　時期は出土遺物より縄文時代晩期初頭と思われる。

ＲＤ２９　（第26図、写真図版16）

〈位置〉　Ⅱ７ｄグリッドに位置する。

〈検出状況〉　掘立柱柱穴２と６が検出された。２８号土坑が南側にある。

〈規模・形状〉　開口部径は200cm×155cm・底部径は160cm×140cm・深さ30cm、平面形はほぼ円形で、断面形は皿形を呈する。底面は平坦であり、壁はほぼ垂直である。

〈埋土〉　３層に分けられる。１層目は褐色土主体の混合土で排土と思われる。。

〈出土遺物〉（第43図－7、写真図版30－22）埋土から縄文土器片１点が得られている。撚りのきちっとした原体による羽状縄文が施文されている。

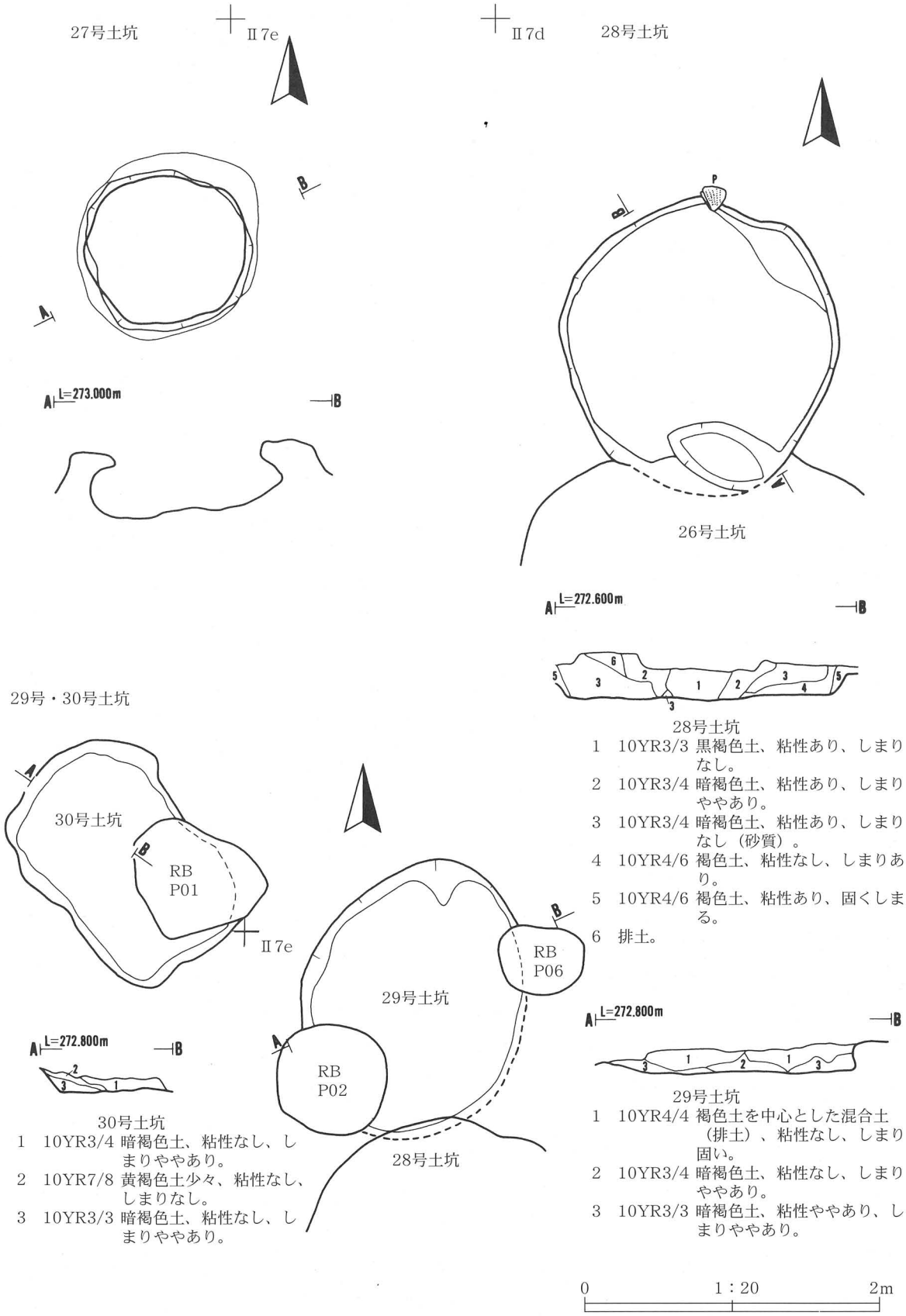
〈時期〉　時期は出土遺物から縄文時代後期後葉と思われる。

ＲＤ３０　（第26図、写真図版17）

〈位置〉　Ⅱ６ｅグリッドに位置している。

〈検出状況〉　掘立柱柱穴１に切られている。

〈規模・形状〉　開口部径は170cm×105cm・底部径は150cm×90cm・深さ15cm、平面形は歪な楕円形、



28号土坑

1　10YR3/3 黒褐色土、粘性あり、しまりなし。
2　10YR3/4 暗褐色土、粘性あり、しまりややあり。
3　10YR3/4 暗褐色土、粘性あり、しまりなし（砂質）。
4　10YR4/6 褐色土、粘性なし、しまりあり。
5　10YR4/6 褐色土、粘性あり、固くしまる。
6　排土。

30号土坑

1　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりややあり。
2　10YR7/8 黄褐色土少々、粘性なし、しまりなし。
3　10YR3/3 暗褐色土、粘性なし、しまりややあり。

29号土坑

1　10YR4/4 褐色土を中心とした混合土（排土）、粘性なし、しまり固い。
2　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりややあり。
3　10YR3/3 暗褐色土、粘性ややあり、しまりややあり。

第26図　27～30号土坑

断面形は皿形を呈する。底面は平坦であり、壁は外傾する。

〈埋土〉　３層に分けられる。

〈出土状況〉　出土遺物なし

〈時期〉　縄文時代と思われる。

ＲＤ３１　（第27図、写真図版17）

〈位置〉　Ⅲ区３ｄ北側グリッドに位置する。

〈検出状況〉　西側が大きく撹乱されていた。

〈規模・形状〉　開口部径は100cm×撹乱があり不明cm・底部径は不明cm×不明cm・深さ40cm、平面形は楕円形、断面形は不明。底部は中心が深く丸底から内湾ぎみに壁に続き、壁は外傾する。

〈埋土〉　２層に分けられるが、大きく撹乱を受けている。

〈出土遺物〉　出土遺物なし

〈時期〉　縄文時代と思われるがはっきりしない。

ＲＤ３２　（第27図、写真図版17）

〈位置〉　Ⅲ区８ｂグリッドに位置する。

〈検出状況〉　撹乱がある。

〈規模・形状〉　開口部径は撹乱があり、不明cm×280cm・底部径は不明cm×不明cm・深さ50cm、平面形は歪な楕円形、断面形は撹乱されており皿形を呈すると思われる。底面はほぼ平坦であり、壁は外傾する。

〈埋土〉　５層に分けられるが、大きく撹乱されている。

〈出土遺物〉　出土遺物なし

〈時期〉　縄文時代と思われる。

(3)　墓壙

墓壙は５基検出している。すべてが最初土坑として登録したが、形状等を検討して墓壙としたものである。

ＲＴ01号墓壙　（第28図、写真図判18）

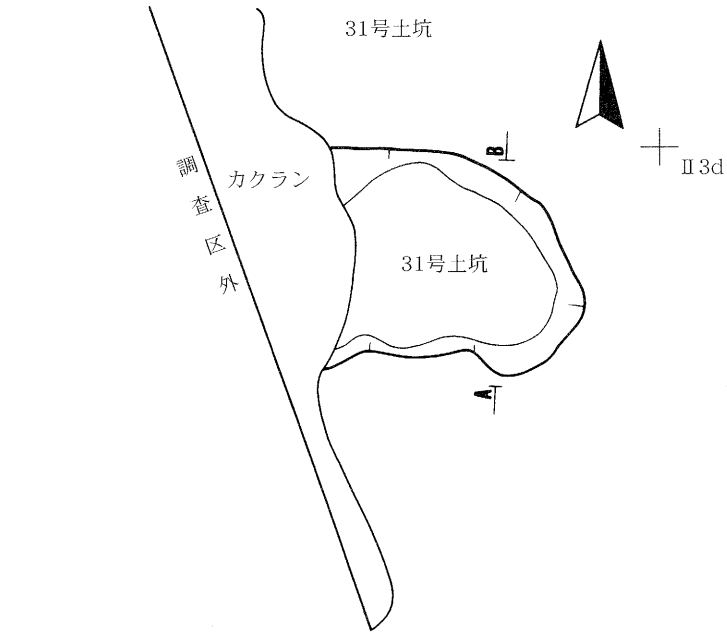
〈位置〉　Ⅱ４ｅグリットに位置する。

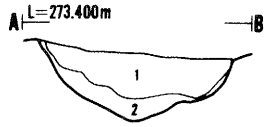
〈検出状況・重複関係〉　深堀トレンチの断面に土坑状のくぼみを検出した。先に精査していたＲＴ５号墓壙と形状が酷似していることから、ＲＴ１号墓壙と登録したものである。東側でＲＡ１号竪穴住居跡を切るものと推測する。

〈形状・規模〉　形状は楕円形を呈し、径220cm×150cm、深いところで98cmあり、浅いところで50cmである。

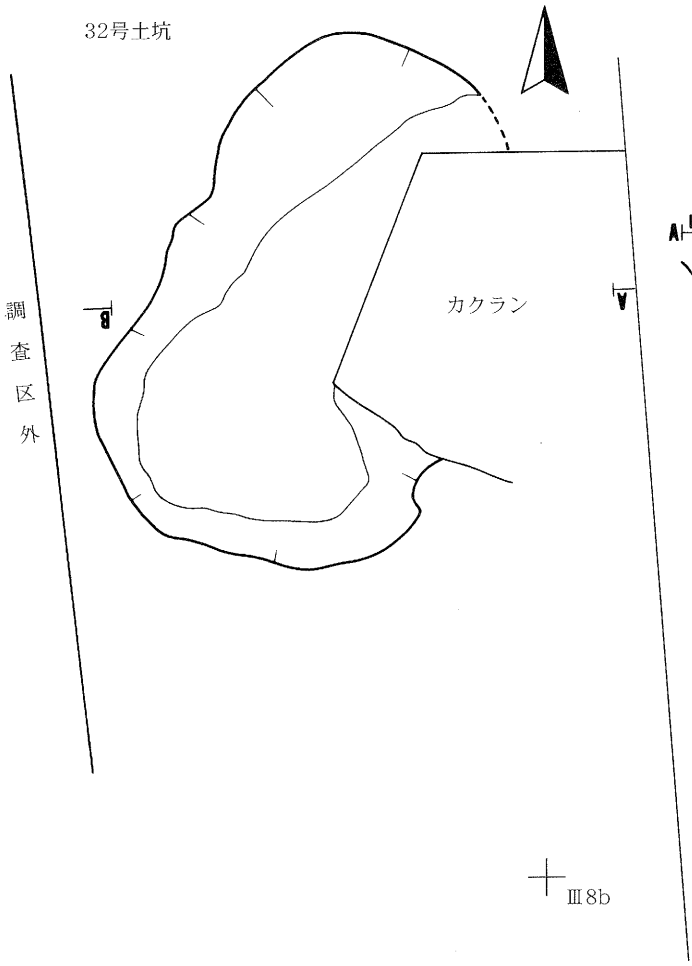
〈出土遺物〉（第43図－8～11、写真図版30－23～26）　埋土から数点の縄文土器片が得られている。８～11は深鉢の口縁部片である。９・10は太い沈線と、磨消による施文が施されている。11は少し変形しているが、羊歯状文が施文されている。

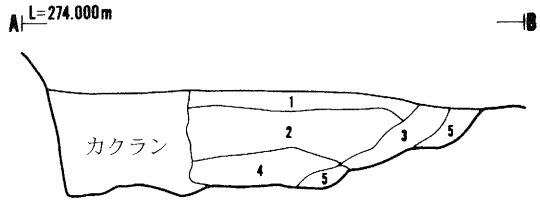
〈時期〉　出土遺物から時期は縄文時代晩期前葉の可能性があるが、後期後葉と思われる。





Ⅲ区　31号土坑
1　10YR2/3 黒褐色土、粘性あり、しまりある。
2　不明





Ⅲ区　32号土坑
1　10YR2/3 黒褐色土、粘性なし、しまりなし、耕作土。
2　10YR2/3 黒褐色土、粘性あり、しまりあり。
3　10YR2/3 黒褐色土、粘性なし、しまりなし。
4　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりあり、10YR5/8　黄褐色土、まばらに含む。
5　掘りすぎ。

0　1：20　2m

第27図　31・32号土坑

ＲＴ02号墓壙　（第28図、写真図判18）

〈位置〉　Ⅱ６ｆグリットに位置する。

〈検出状況・重複関係〉　ＲＡ１２号竪穴住居跡の西側壁に３基の土坑状のプランを確認した。南からＲＴ２号墓壙・ＲＴ３号墓壙・ＲＴ４号墓壙と登録した。その南側に位置する。ＲＡ１２号竪穴住居の西側を切るものと推測する。

〈形状・規模〉　形状は楕円形を呈し、径210cm×115cmで底経80cm×90cmで深さ40cm～60cmあり、ビーカー型をしている。壁の内側がくぼんでおりドーナツ状の溝になっている。

〈出土遺物〉（第43図－12～15、写真図版30－27～31－3）　埋土から縄文土器数点が得られた。ＲＴ02とＲＴ04の遺物が混同してしまい、どちらに属したか特定できない。12は鉢の破片で連続刻状の施文が巡り胴部は沈線と磨消による区画文がなされている。13は小型の鉢と思われる。口縁部が欠損している。14は無文の口縁部が欠損している。14は無文口縁部下位に補修孔があり、平行沈線が一定の場所で交互に折り返す施文がなされている。15は沈線と磨消施文で残った隆帯状の施文の上に粘土粒が貼付けてある。

〈時期〉　時期は出土遺物から縄文時代後期後葉～末葉と思われる。

ＲＴ03号墓壙　（第28図、写真図判18）

〈位置〉　Ⅱ５ｆグリッドに位置する。

〈検出状況・重複関係〉　検出状況はＲＴ２号墓壙と同じで、南西側はＲＴ２号墓壙と北東側でＲＴ４号墓壙と隣接する。検出状況はＲＴ２号墓壙と同じである。

〈形状・規模〉　形状は楕円形を呈し、径170cm×100cm、底経は80cm×140cmで、深さ30cmあり、壁は外傾している。

〈出土遺物〉（第43図－16、写真図版31－4）　埋土から16の鉢の破片1点が得られている。沈線と磨消による区画文が施文され、内部にきちっとした撚りの羽状縄文が施文されている。

〈時期〉　時期は出土遺物から縄文時代後期と思われる。

ＲＴ04号墓壙　（第28図、写真図判18）

〈位置〉　Ⅱ５ｆグリッドに位置する。

〈検出状況・重複関係〉　検出面はＲＴ２号墓壙、ＲＴ３号墓壙と同様で、南西側でＲＴ３号墓壙と隣接する。

〈形状・規模〉　形状は楕円形を呈し、径73cm×140cmで底経は30cm×90cm、深さは32cmあり、壁の内側に溝がある。

〈出土遺物〉（第43図－12～15、写真図版30－27～31－3）　縄文土器の深鉢と鉢が出土している。12～15

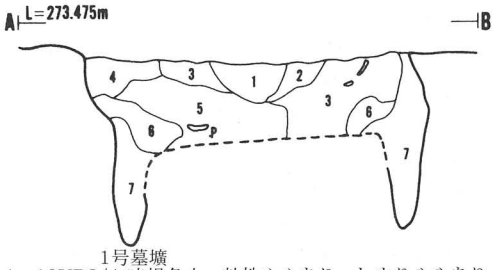
〈時期〉　時期は出土遺物より縄文時代後期と思われる。

ＲＴ05号墓壙　（第28図、写真図判19）

〈位置〉　Ⅱ４ｆグリッドに位置する。

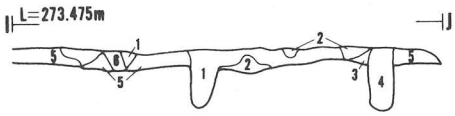
〈検出状況・重複関係〉　検出面は北東側でＲＴ１号墓壙と隣接する。

〈形状・規模〉　形状は楕円形を呈し、径は172cm×100cmで底経は142cm×75cmで深いところで310cmあり、浅いところで30cmある。墓穴内の壁際に溝がドーナツ状になっている。



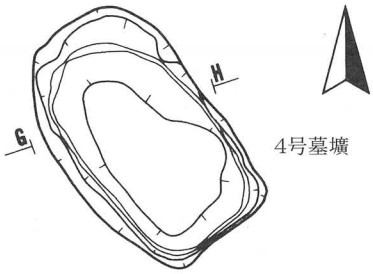
1号墓壙

1　10YR3/4 暗褐色土、粘性ややあり、しまりややあり、土器片含む、炭化物5％含む。
2　10YR4/4 褐色土（砂土）、粘性なし、しまりなし、土器片含む。
3　10YR4/6 褐色土（砂土）、粘性ややあり、しまりあり。
4　10YR4/6 褐色土（砂土）、粘性なし、しまりなし。
5　10YR4/4 褐色土（砂土）、粘性ややあり、しまりあり、土器片、石礫、パミス含む。
6　10YR5/4 にぶい黄褐色土（砂土）、粒が細い、壁の崩壊土か？　粘性あり、しまりなし含む。
7　5YR4/1　暗青灰色土（砂土）、粒あらい、しまりなし、粘性なし。

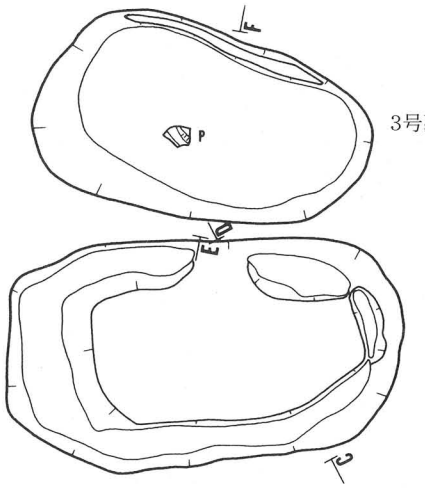


5号墓壙

1　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりなし。
2　10YR4/4 褐色土、粘性なし、しまりあり。
3　10YR3/4 暗褐色土（砂）、粘性なし、しまりあり。
4　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりあり、石礫10％含む。
5　10YR5/8 黄褐色土（砂質）、粘性なし、しまりあり。
6　10YR7/2 にぶい黄褐色土、粘性なし、よくしまる。

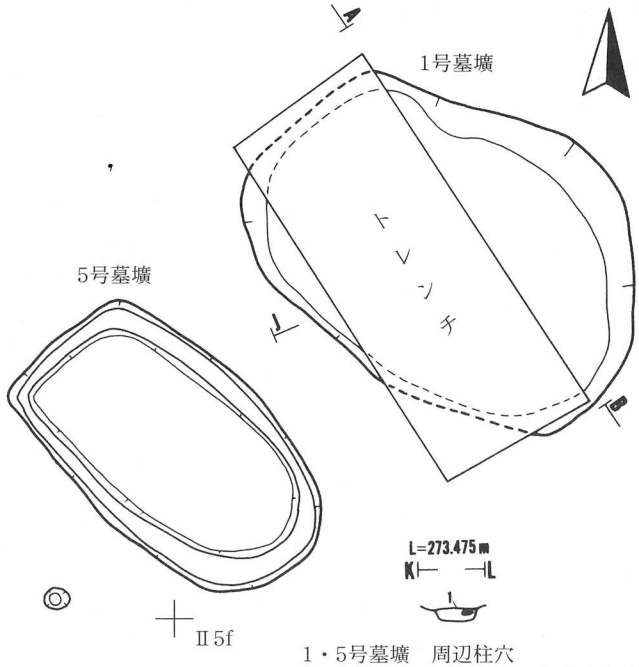


4号墓壙



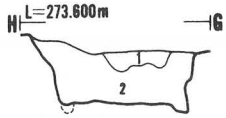
3号墓壙

2号墓壙



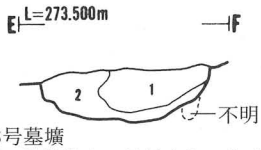
1・5号墓壙　周辺柱穴

1　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりなし。



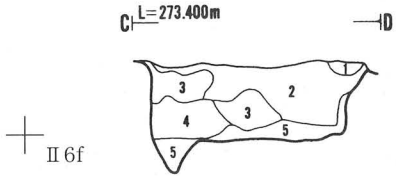
4号墓壙

1　10YR5/8 黄褐色土、粘性なし、しまりなし。
2　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、しまりややあり、まばらに10YR5/8含む（30％）



3号墓壙

1　10YR3/4 黄褐色土、粘性なし、しまりややあり。
2　10YR3/4 暗褐色土と10YR4/6褐色土の混合土、粘性なし、しまりややあり。



2号墓壙

1　10YR5/8 黄褐色土、粘性なし、しまりあり、礫50％含む。
2　10YR3/4 暗褐色土、粘性あり、しまりあり。
3　10YR2/3 黒褐色土、粘性あり、しまりややあり。
4　10YR3/3 黒褐色土、粘性あり、しまりややあり。（3より砂質）。
5　10YR3/4 暗褐色土、粘性なし、よくしまる。

0　1：20　2m

第28図　1～5号基壙

〈出土遺物〉　出土遺物なし

〈時期〉　層位から縄文時代と思われる。

(4)　埋設土器

ＲＺ01号埋設土器　(第29図、写真図版19)

〈位置〉　Ⅱ７ｆグリッドに位置する。

〈検出面〉　Ⅳ層黄褐色土から検出した。

〈規模〉　直径約45cm、深さ約32cmの掘り方に胴下部を正位西側に埋置してある。

〈状況〉　RA６号住居跡内西南側から検出された。そばにRD７号土坑がある。またRZ２号埋設土器もある。

(第44図－1、写真図版31－5) 大型の深鉢で口縁部から胴部であり、上位は欠損している。器厚は薄く表面には単節斜縄文が施されている。

〈時期〉　時期は埋設されている土器の特徴から、縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

ＲＺ02号埋設土器　(第29図、写真図版19)

〈位置〉　Ⅱ７ｆグリッドに位置する。

〈検出面〉　Ⅳ層黄褐色土中位から検出した。

〈規模〉　直径約30cm、深さ約30cmの掘り方に胴下部を正位に埋置してある。

〈状況〉　RA６号住居跡内西側から検出された。そばにRD７号土坑があり、RZ１号埋設土器もある。

(第44図－2、写真図版31－6)　大型の深鉢で口縁部が欠損している。器厚は薄く、表面には単節斜縄文が施されている。

〈時期〉　時期は埋設されている土器の特徴から、縄文時代晩期の遺構と考えられる。

ＲＺ03号埋設土器　(第29図、写真図版19)

〈位置〉　Ⅱ６ｅグリッドに位置する。

〈検出面〉　Ⅳ層黄褐色土中位から検出した。

〈規模〉　直径約35cm、深さ約24cmの堀り方に胴部を正位に埋置したようだが、傾いている。

〈状況〉　そばにＲＡ３号住居跡、ＲＤ11号土坑、ＲＤ17号土坑、ＲＤ30号土坑などがある。石鏃１点が出土している。

(第45図－1・2、写真図版32－1・2)　大型の埋設土器で底部が欠損している。胴部上位に膨らみを持ち、器厚は薄い、表面全面に単節斜縄文が施されている。また埋土内から2の石鏃1点が出土している。

〈時期〉　時期は埋設されている土器の特徴から、縄文時代後期～晩期の遺構と考えられる。

ＲＺ04号埋設土器　(第29図、写真図版20)

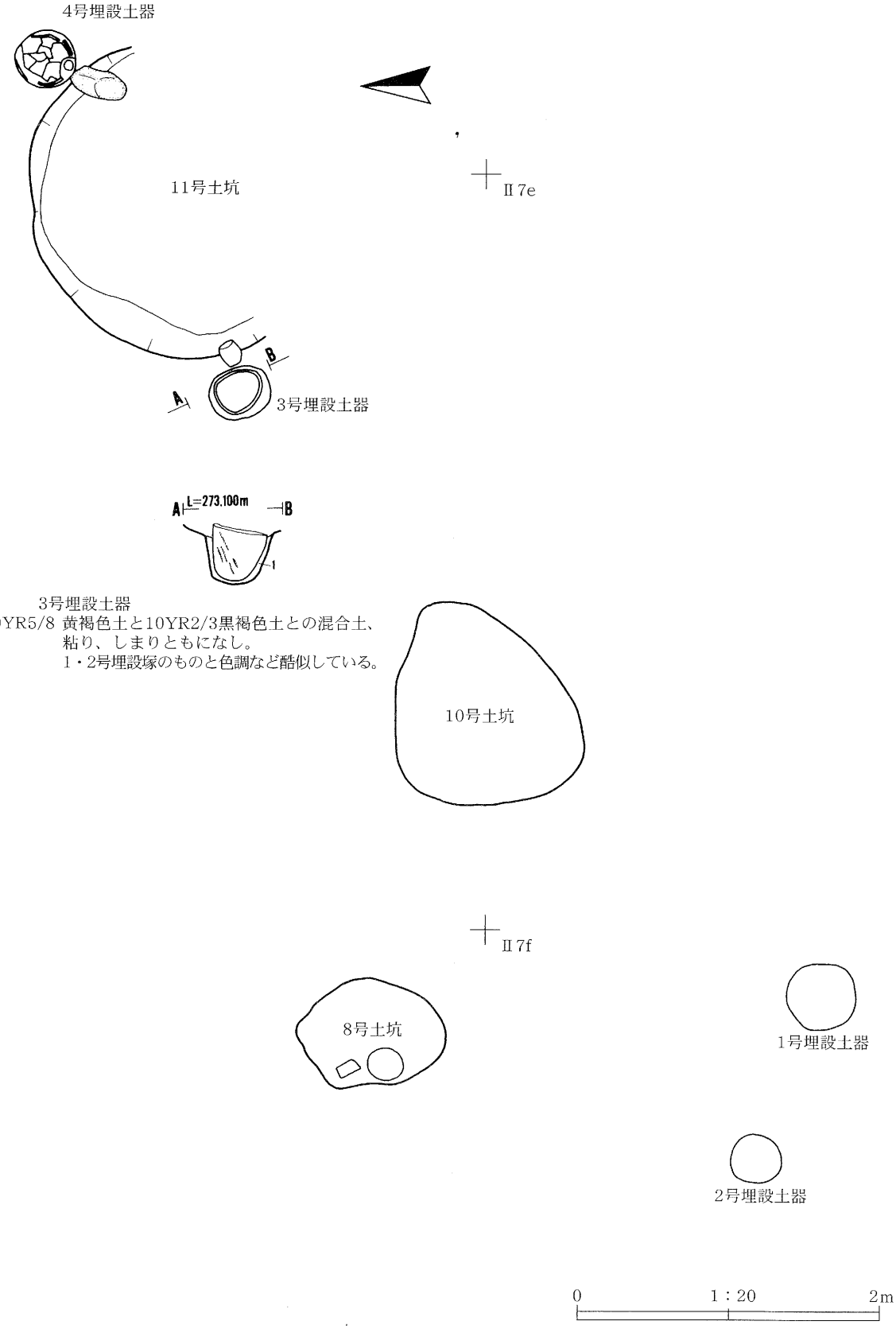
〈位置〉　Ⅱ６ｄグリッドに位置する。

〈検出面〉　Ⅳ層黄褐色土中位から検出した。

〈規模〉　直径約30cmでその中に直径約23cmの土器が埋置してある。

〈状況〉　(第45図３・4、写真図版32－3・4)　そばにＲＤ11号土坑がある。

〈時期〉　埋設されている土器の特徴から、縄文時代の遺構と考えられる。



第29図　1～4号埋設土器

(5) 溝跡

ＲＧ01溝跡　(第30図、写真図版21)

溝は、４号住居跡南側を西から東へと続く。規模は、長さ670cm・幅30～70cm・深さ約16cmである。発掘中も溝の西側調査区境から伏流水が出て、発掘するのに困難であった。溝はほぼ真っすぐで、断面がＶ字形なので、人為的溝と思えるし、自然流水溝とも考えられる。(第45図－５・６、写真図版32－５・６) 埋土から石器2点が出土している。(第45図－５・６) は石匙で、横長の基部中付近につまみ部分が作られている。6は石剣の破片である。

(6) 配石遺構(第31図、写真図版21)

〈位置・検出状況〉　位置は、Ⅱ５ｅグリッドに位置している。Ⅵ層で検出した。配石の廻りに柱穴5基がある。

〈平面形・規模〉　平面形は14～30cm大の石が8個、70～140cmの範囲に分散している。石は掘り込んであるのか、置いてあるのか判断はできない。7個の石は炉跡のように見えるが、焼土は伴わない。配石の規則的な配置は認められない。西側に壁があり、それが巡われば、住居状にもなり得る可能性がある。配石の周りに柱穴が6基あるが、これとの関わりは不明である。

〈遺物〉　東側に（写真図版5）琥珀の粒が出土した。大きさは、大は14mm×18mm・小は2mm×3mm、平均すると5mm×6mm、量は33.29ｇである。この区域は祭祀との関わりがあるかもしれないが定かではない。

〈時期〉　縄文時代の可能性が高い。

(7) 掘立柱建物跡　(第31図、写真図版21)

〈位置・検出状況〉　位置は、Ⅱ６ｄ・６ｅ・７ｄ・７ｅグリッドに位置している。13号縦穴住居の位置と重複しているが、住居とは直接関わらないと判断する。

〈平面形・規模〉　柱穴は８基検出した。柱穴の平面形は、開口部が70cm×90cm～43cm×43cm・深さが20cm～37cmである。１間130cm×110cm～80cm×50cmが３間と、南西から北東の方向に柱穴間が少しずつ狭くなっている。南東の方向は調査区外なので、詳細は検出できないが続くものと思える。

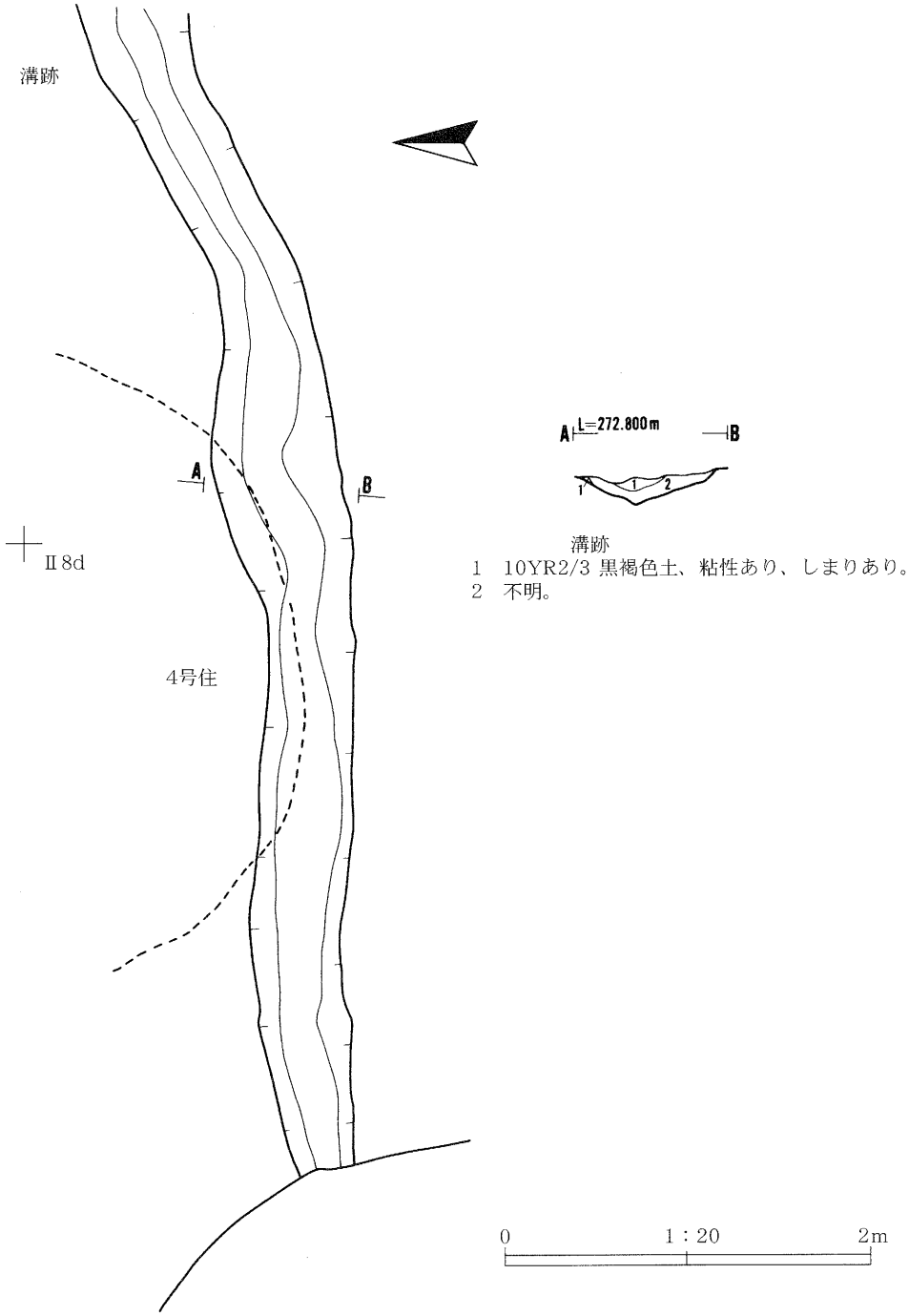
〈埋土〉　２層に細分される。１層目は黒褐色土で粘性あり、締まりなしである。２層目は暗褐色土で粘性あり、締まりなしである。

〈遺物〉　出土遺物はない。

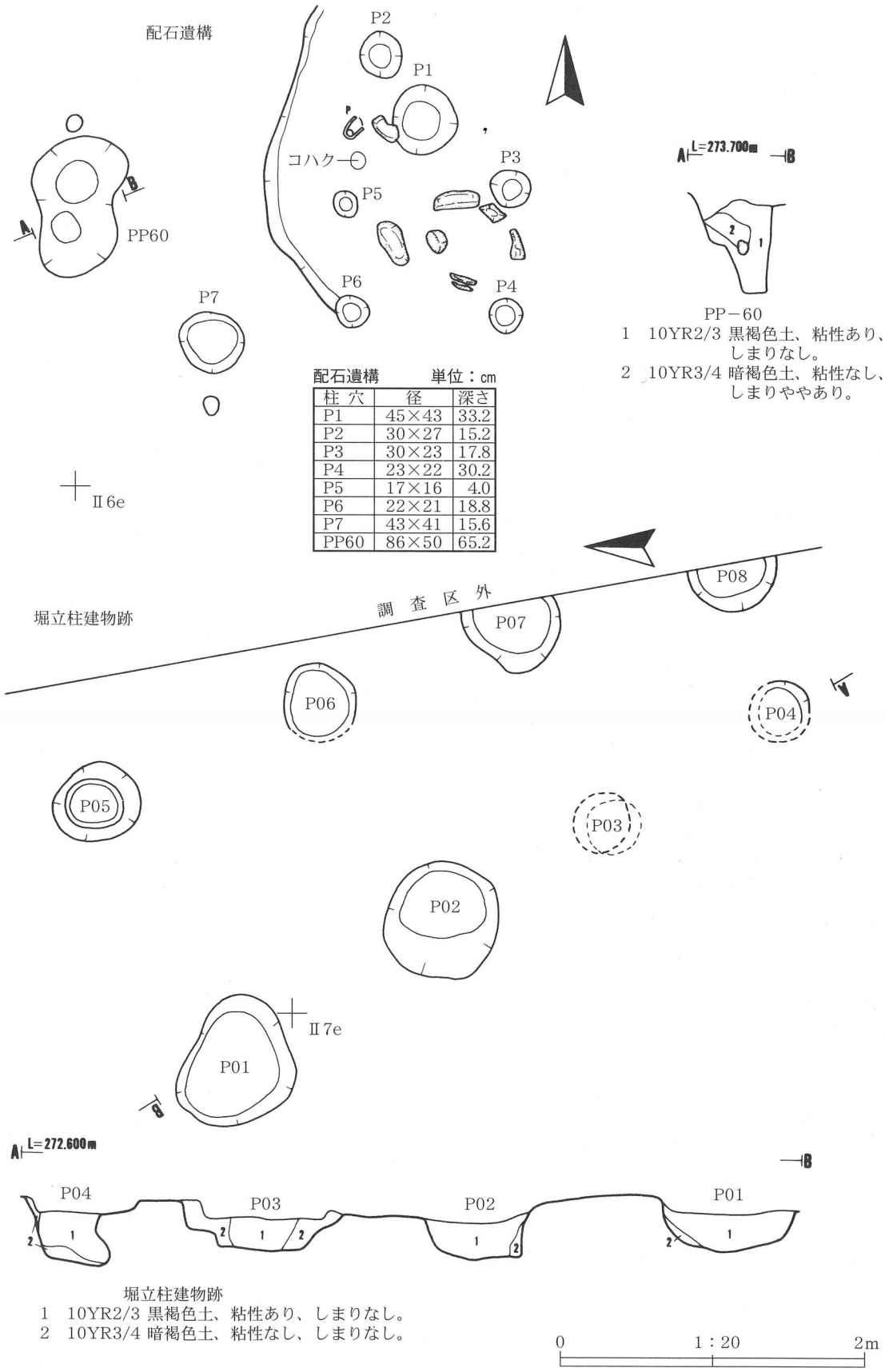
〈時期〉　時期は出土遺物がないので不明である。

掘立柱建物跡柱穴　　単位cm

No.	径	深さ	備　考	No.	径	深さ	備　考
P01	70×90	37		P05	55×58	不計測	
P02	70×80	20		P06	50×50	不計測	
P03	43×43	22		P07	62×不明	不計測	
P04	50×55	22		P08	60×不明	不計測	


溝跡
A
B
Ⅱ8d
4号住
A L=272.800m B
1
2
溝跡
1　10YR2/3 黒褐色土、粘性あり、しまりあり。
2　不明。
0
1：20
2m

第30図　溝跡



第31図　配石遺構・掘立柱建物跡

遺構外出土の遺物

1．土器

多量の土器片が出土しているが、胎土に繊維の混じる土器は、遺構伴出の１点のみである。以下に時期毎に大別した。

(1)　縄文時代中期末葉の土器（第46図－1、写真図版33－1）

キャリパー形を呈し、4単位の波状口縁からなる沈線と磨消により変形した「J」字状の施文がなされる。遺物量は極めて少ない。

(2)　縄文時代後期前葉の土器（第46図－2～6・9・15・16・21・第47図－1・第48図－1・5、写真図版33－2～6・9・15・16・21・23・34－16・20）

沈線と磨消による区画文を主とする土器である。平縁と波状口縁があり、器厚も厚いものと薄いものがある。口縁突起の下に、粘土粒が貼付られたものもある。縄文はきちっとしたものが使用されているものが多い。

(3)　縄文時代後期中葉の土器（第46図－7・8・10～14、写真図版33－7・8・10～14）

平行沈線や平行沈線間に楕行する線が施文される土器と、やや間隔の広い押圧を連続して巡らせる土器がある。突起状の波状口縁のものが多いようである。

(4)　縄文時代後期後葉の土器（第46図－9・17～20、写真図版33－9・17～20）

細い口縁に細かな連続押圧が巡る土器群である。研磨はていねいにおこなわれており、第46図－22や第47図－5・6も同群に入れてもいいかもしれない。

(5)　縄文時代後期末葉の土器（第48図－11、写真図版35－5）

沈線や押圧の施文の他に粘土粒を貼付した土器群である。第48図－11は粘土粒の貼付はないが、三叉文状の施文がなされている。

(6)　縄文時代晩期初頭（第47図－1・第48図－4、写真図版34－16・34－9）

三叉文を文様の主とする土器群である。

４は口縁部を欠損する注口土器である。胴部は球状で、注口部の基部に小さな突起が残る。

(7)　縄文時代晩期前葉の土器群（第48図－9・10・12～15・第49図－1～11、写真図版35－3・4・6～15）

羊歯状文や三叉文を変形させた渦巻状文が施されている土器群である。表面はよく研磨されている。第49図－2・4・7・8は第49図－9のような注口土器の破片のようである。

(8)　縄文時代晩期後葉の土器（第49図－12～15、写真図版35－21～24）

雲形文や変形工字状文を施文する土器群である。

(9)　縄文時代晩期末葉の土器（第49図－16、写真図版3－25）

変形工字文に粘土粒の貼付を伴う土器群である。少量しか出土していない。

2．土製品（第49図－17～19～26、写真図版36－1～10）

第49図－17～19は土偶の破損品である。刺突による施文が共通点である。19は脚部の破片と思われる。20は腕輪の破片のようである。21は板状の破片である。23・24はミニチュア土器の破損品である。25・26は円盤状土製品である。

3．石器

石器は剥片石器、礫石器とも少ない。機種ごとに以下のように分類した。

(1)　鏃・石槍（第50図ー1～3、写真図版36－11～13）

両面を剥離加工で槍先形に整えたものである。1・2はやや短いが石槍と思われる。3は破損しているが石鏃と思われる。

(2)　石匙（第50図ー4、写真図版36－14）

つまみ部分が作り出された石器である。両面加工で、粗雑なつまみ部分と刃部が作られている。

(3)　削掻器（第50図ー5、写真図版36－15）

剥片の縁辺に刃部加工が施されたものである。

(4)　石錘（第50図－6、写真図版36－16）

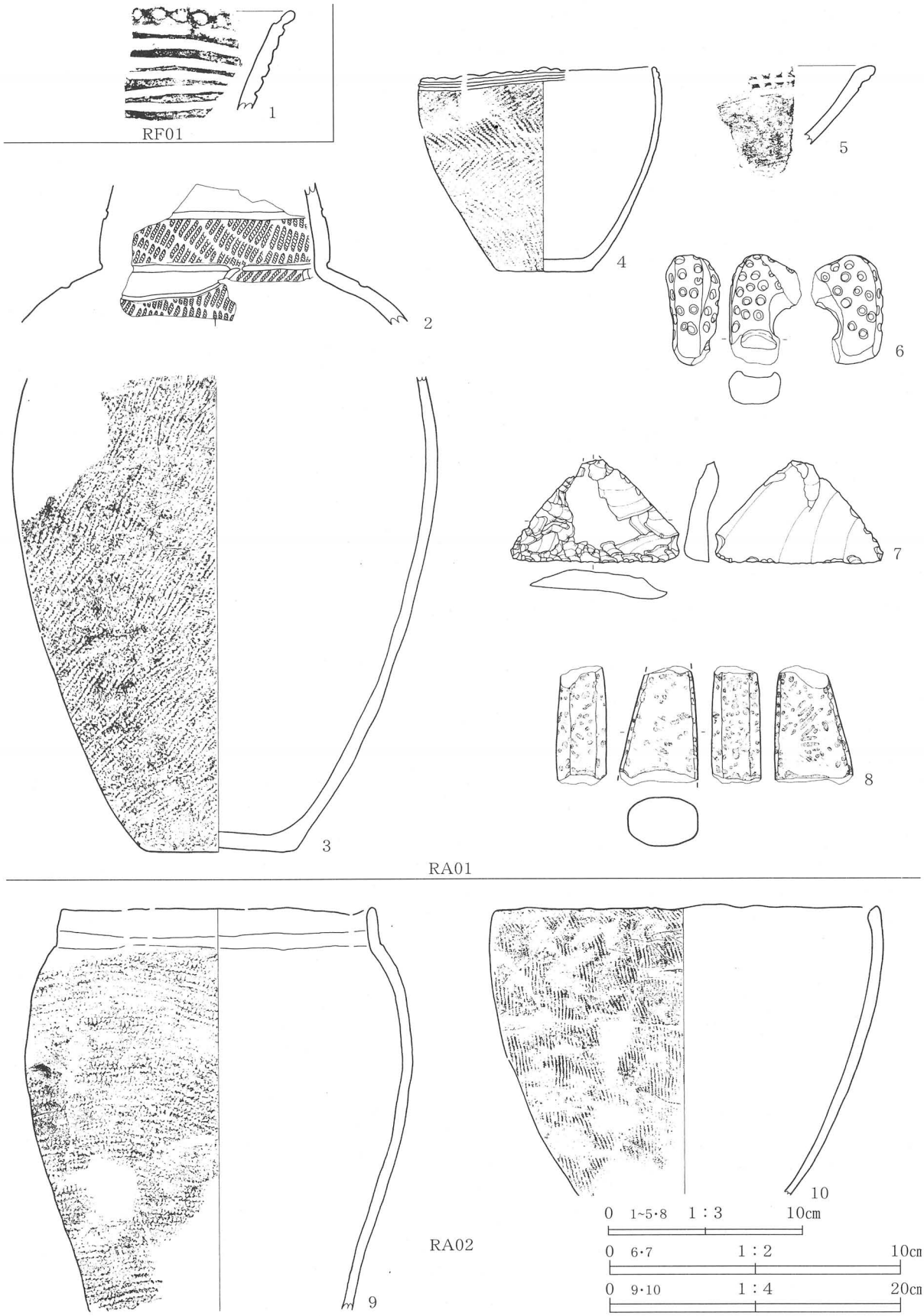
平らたい自然礫の両端を打欠いて、紐がはずれにくく、結べるように加工したもので、網のおもりと考えられている。

(5)　磨製石斧（第50図ー9～16、写真図版36－19～37－3）

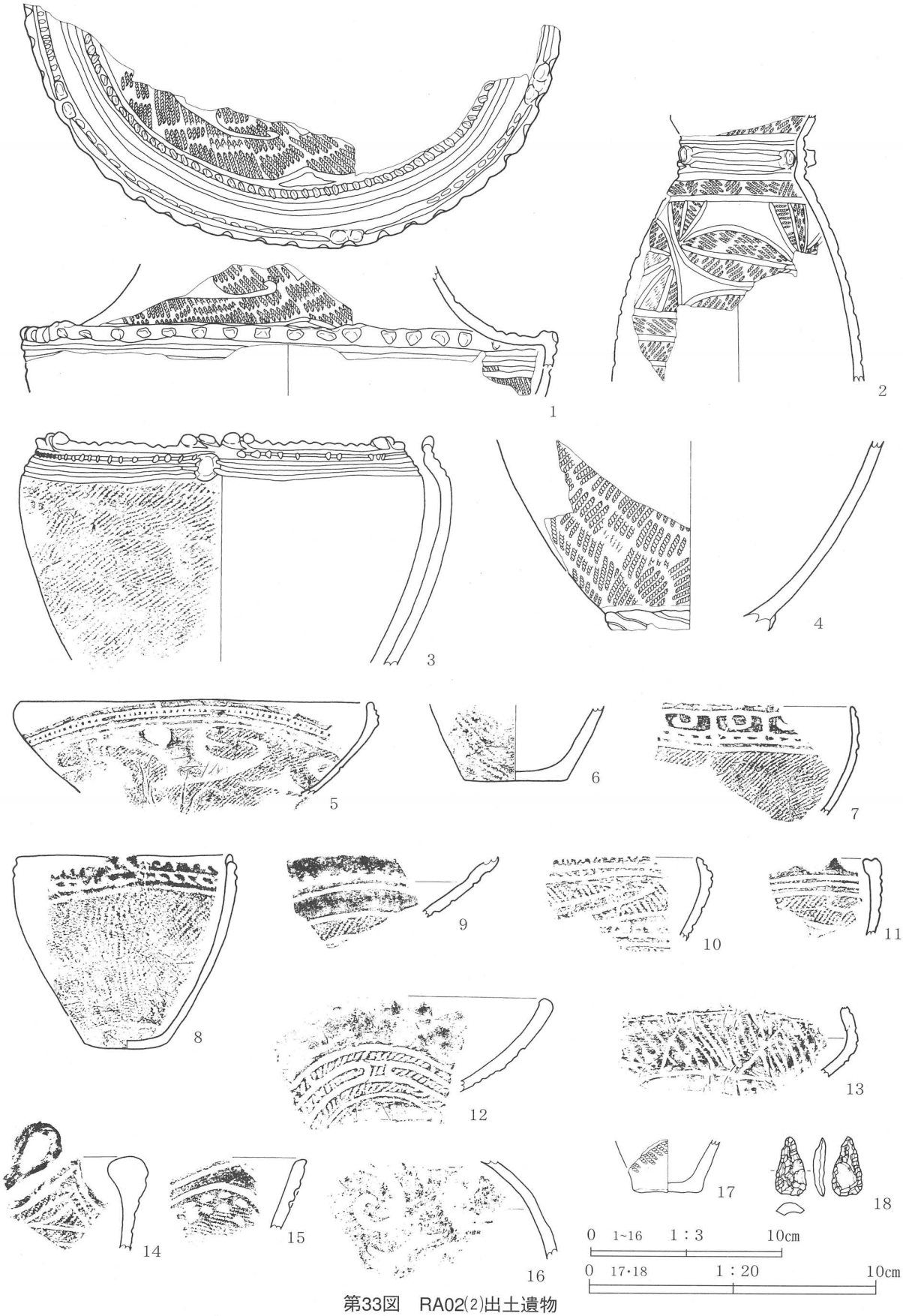
斧状に整形して、全面を研磨仕上げした石器である。大半が破損品である。14は自然礫に近い形状であるが、刃部が破損したような形状にみらるものである。15は厚目であり、刃部再生の可能性と石斧以外の転用が考えられる。

(6)　石皿・台石（第51図ー1～3、写真図版37－4～6）

磨石と対になり研磨や敲打の台になる石器である。くぼみから形成されているが、破損している。

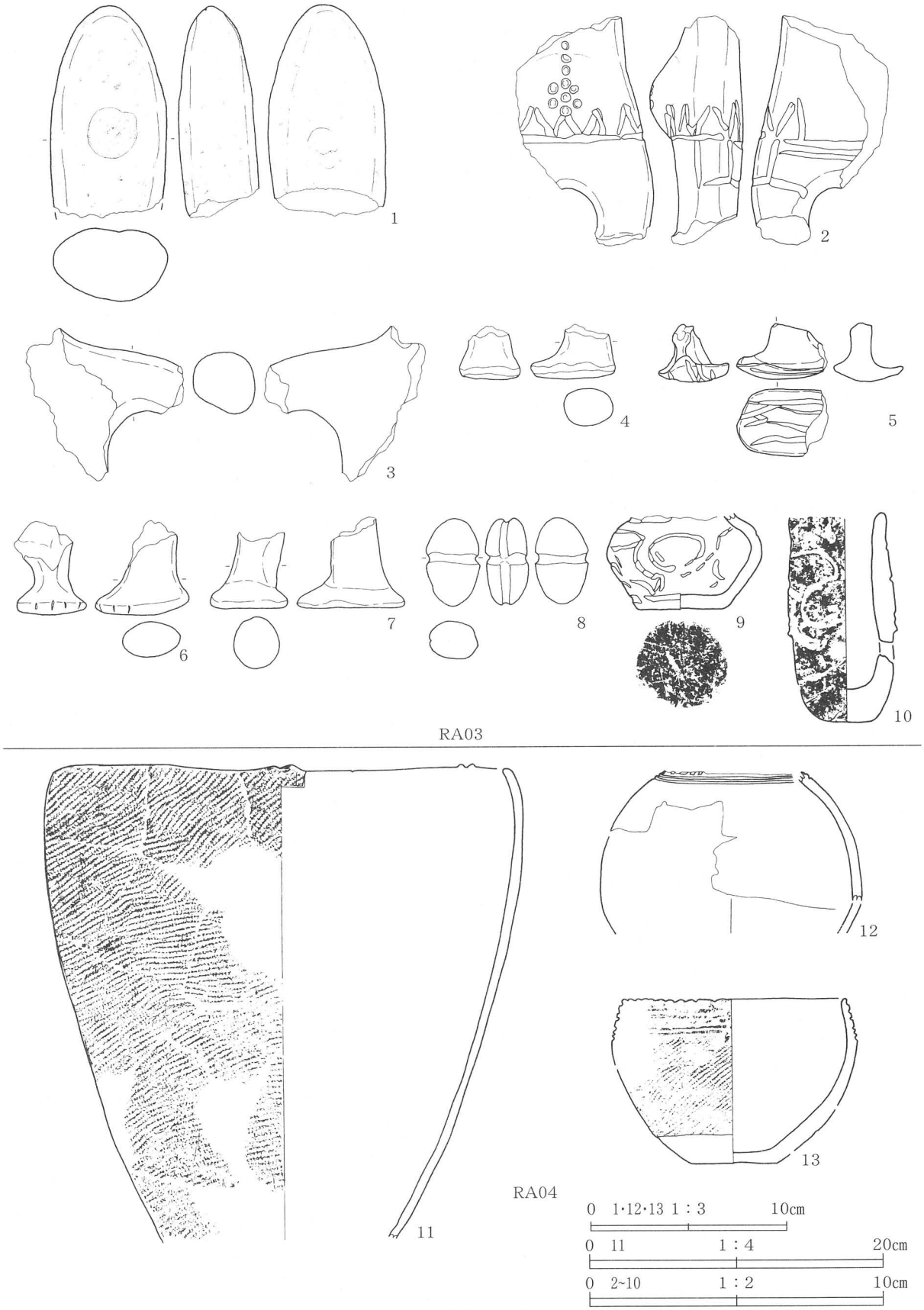


第32図　RF01・RA01・02(1)出土遺物

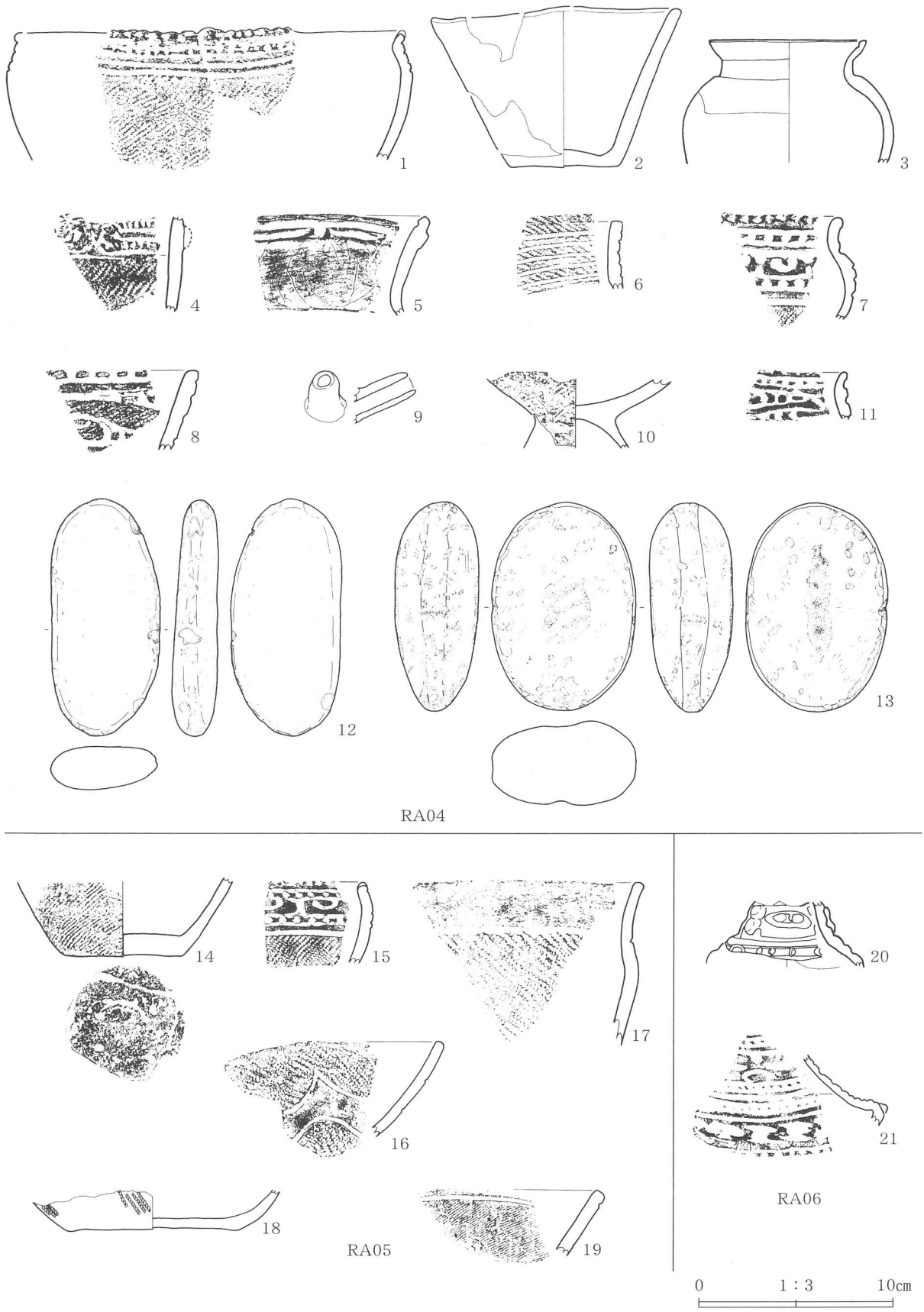


第33図　RA02(2)出土遺物

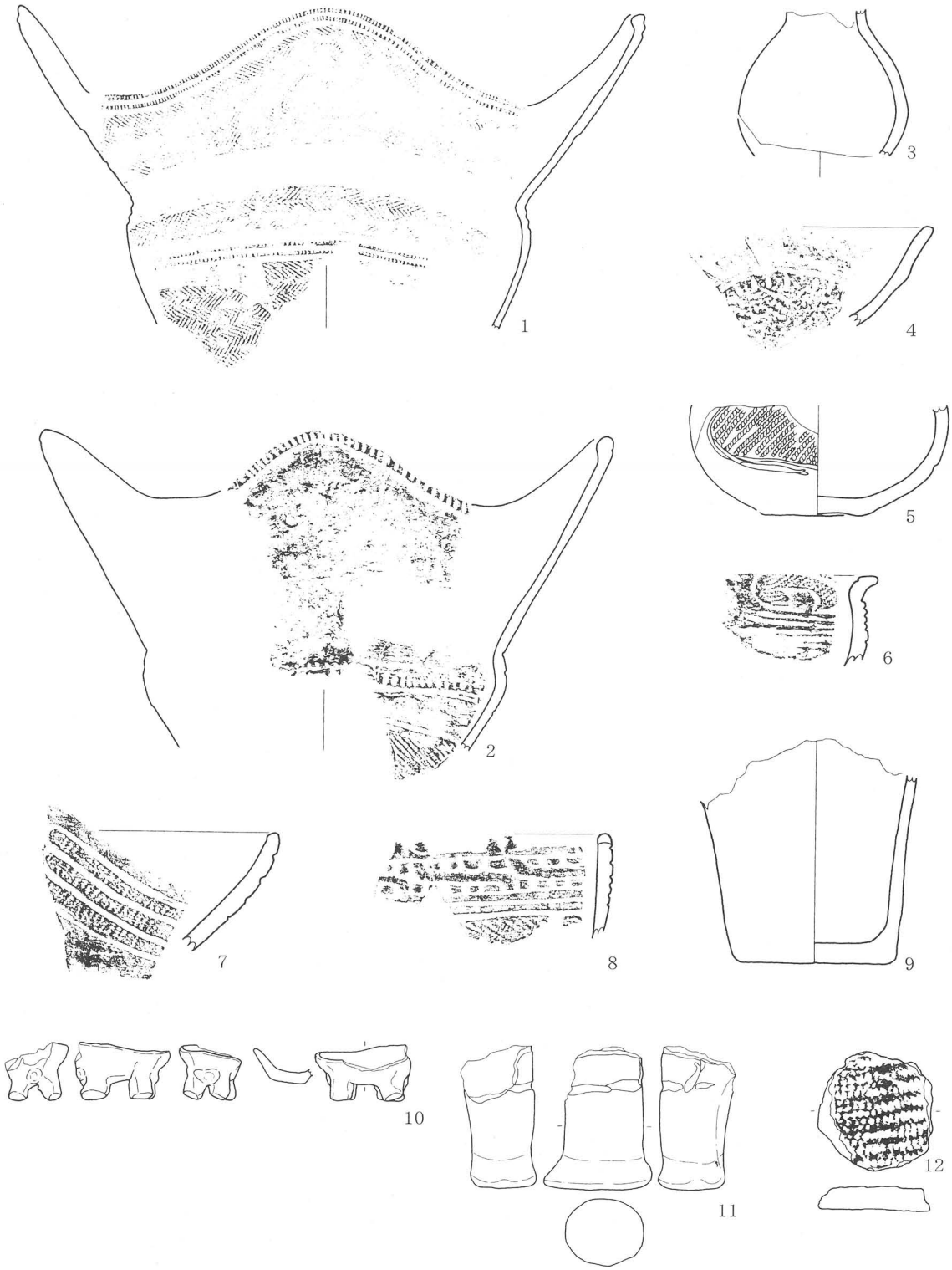
第34図　RA03(1)出土遺物



第35図　RA03(2)・04(1)出土遺物

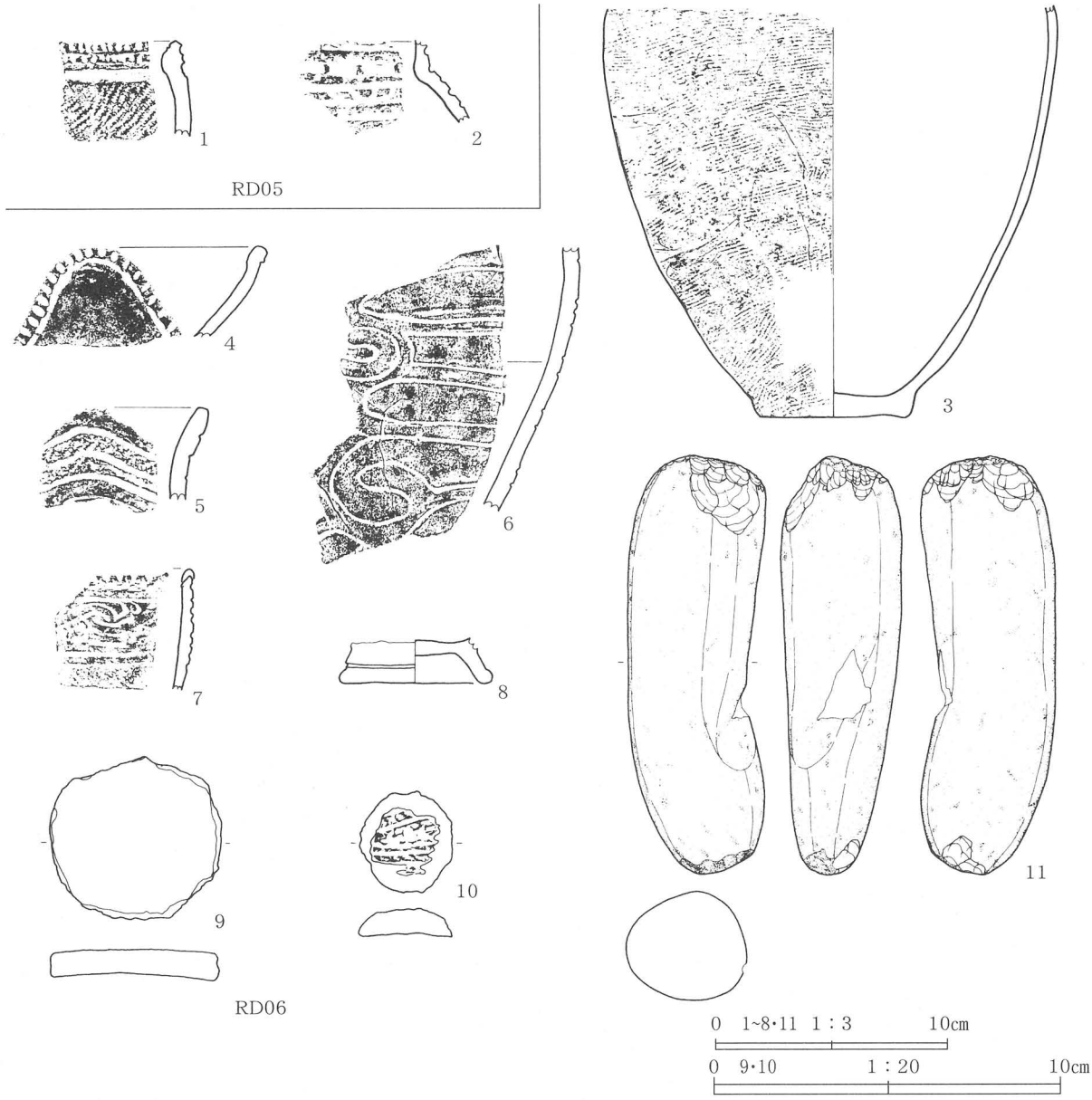


第36図　RA04(2)・05・06出土遺物

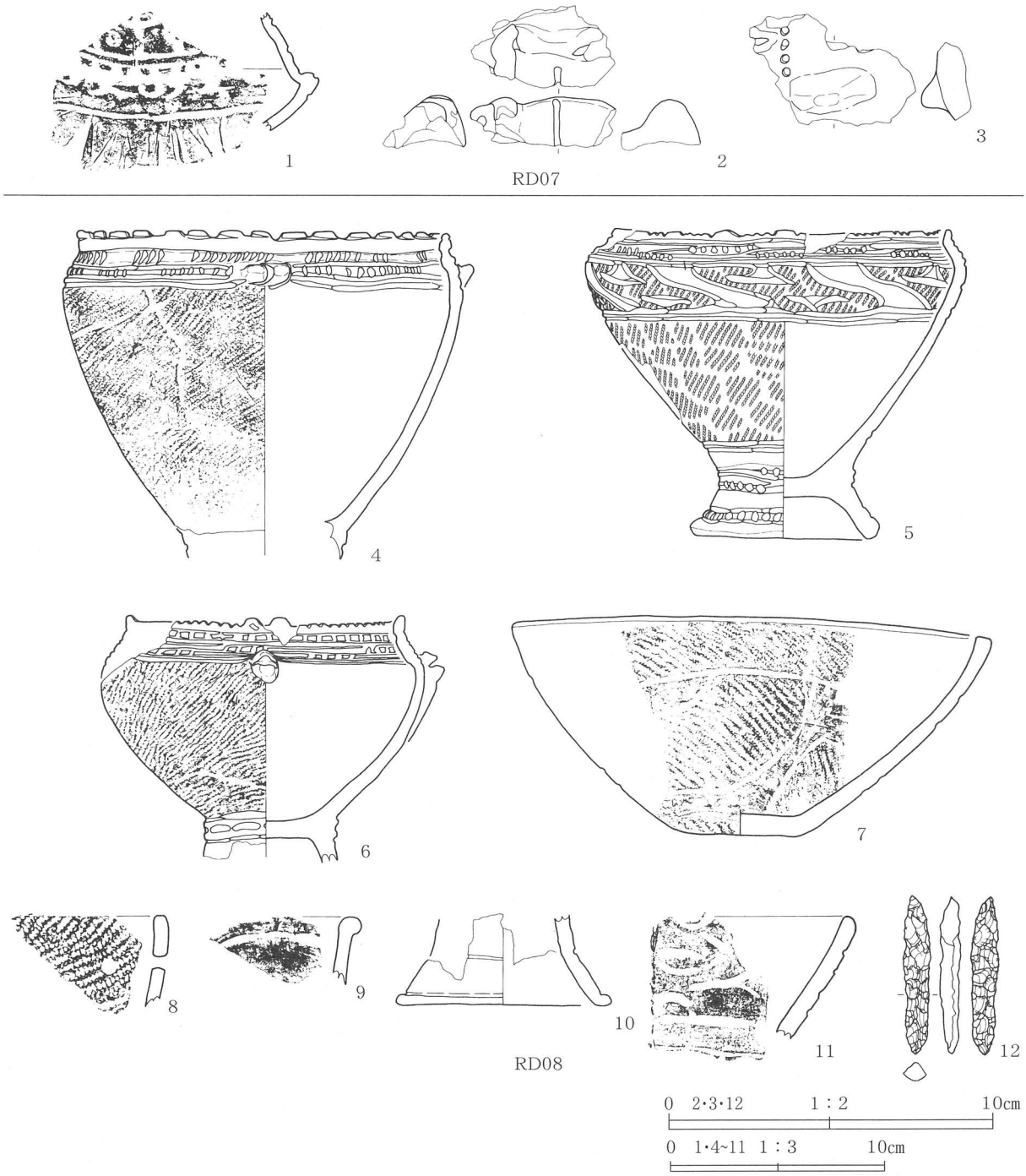


第37図　RA12出土遺物

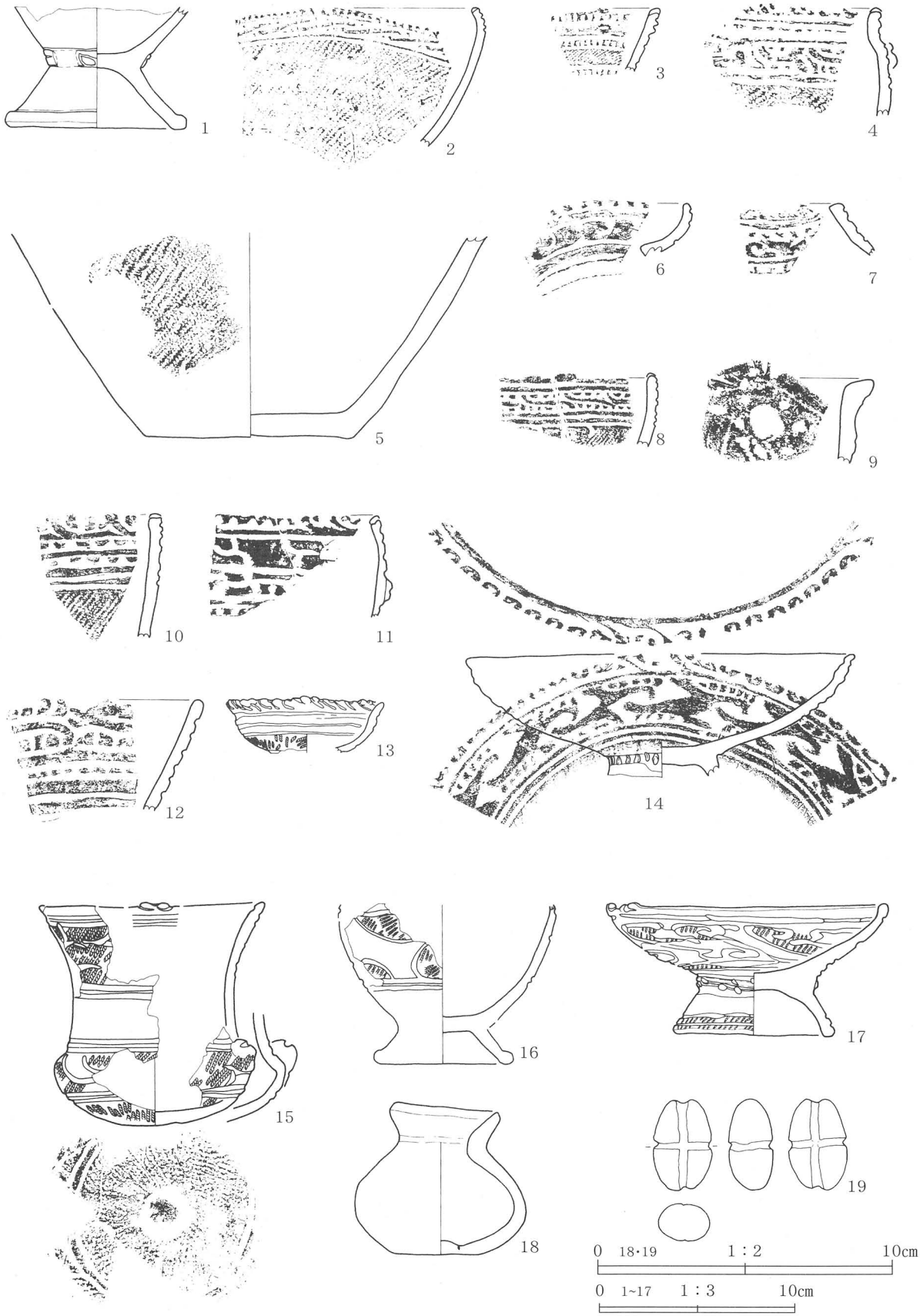
第38図　RA13出土遺物



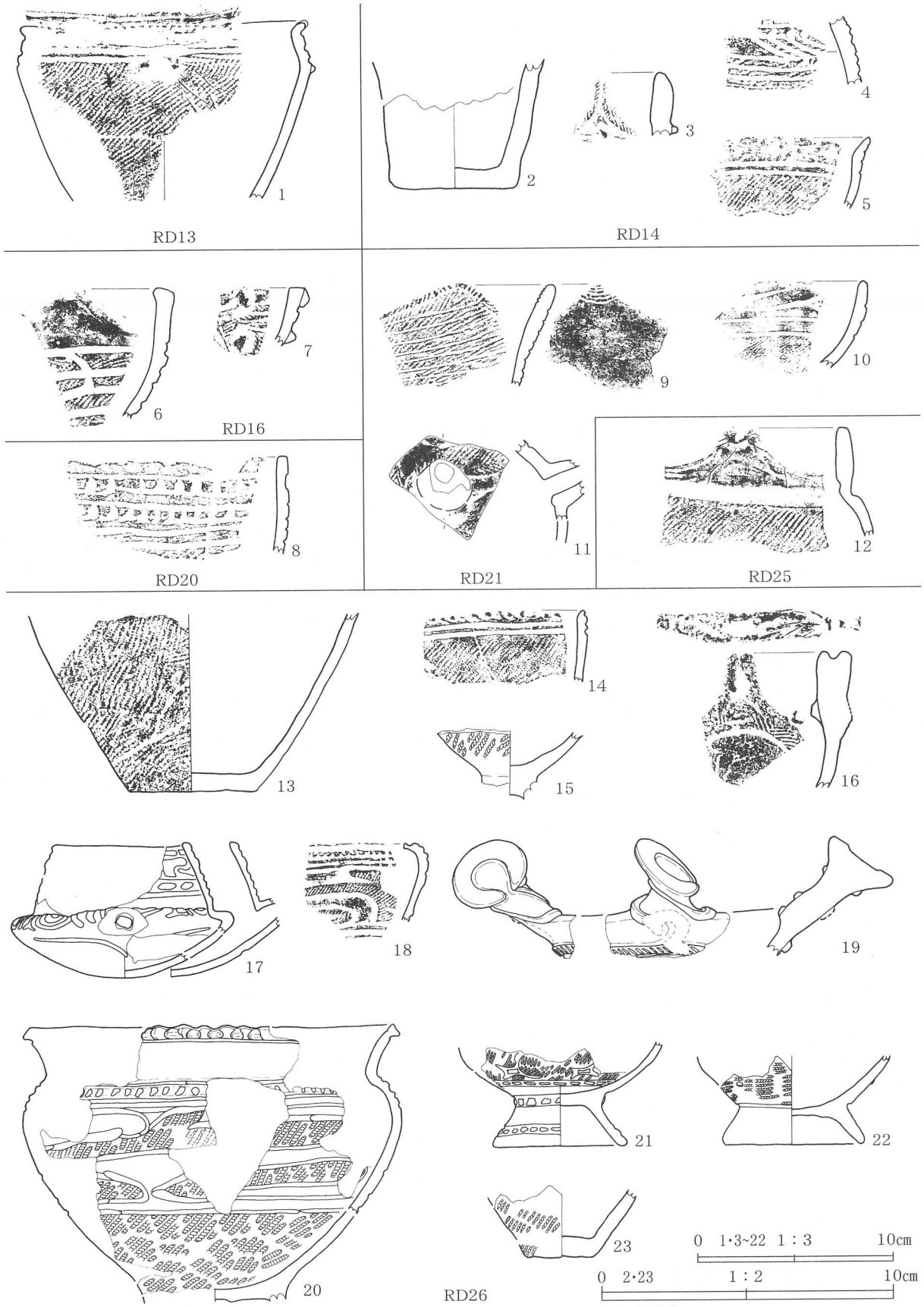
第39図　RD05・06出土遺物



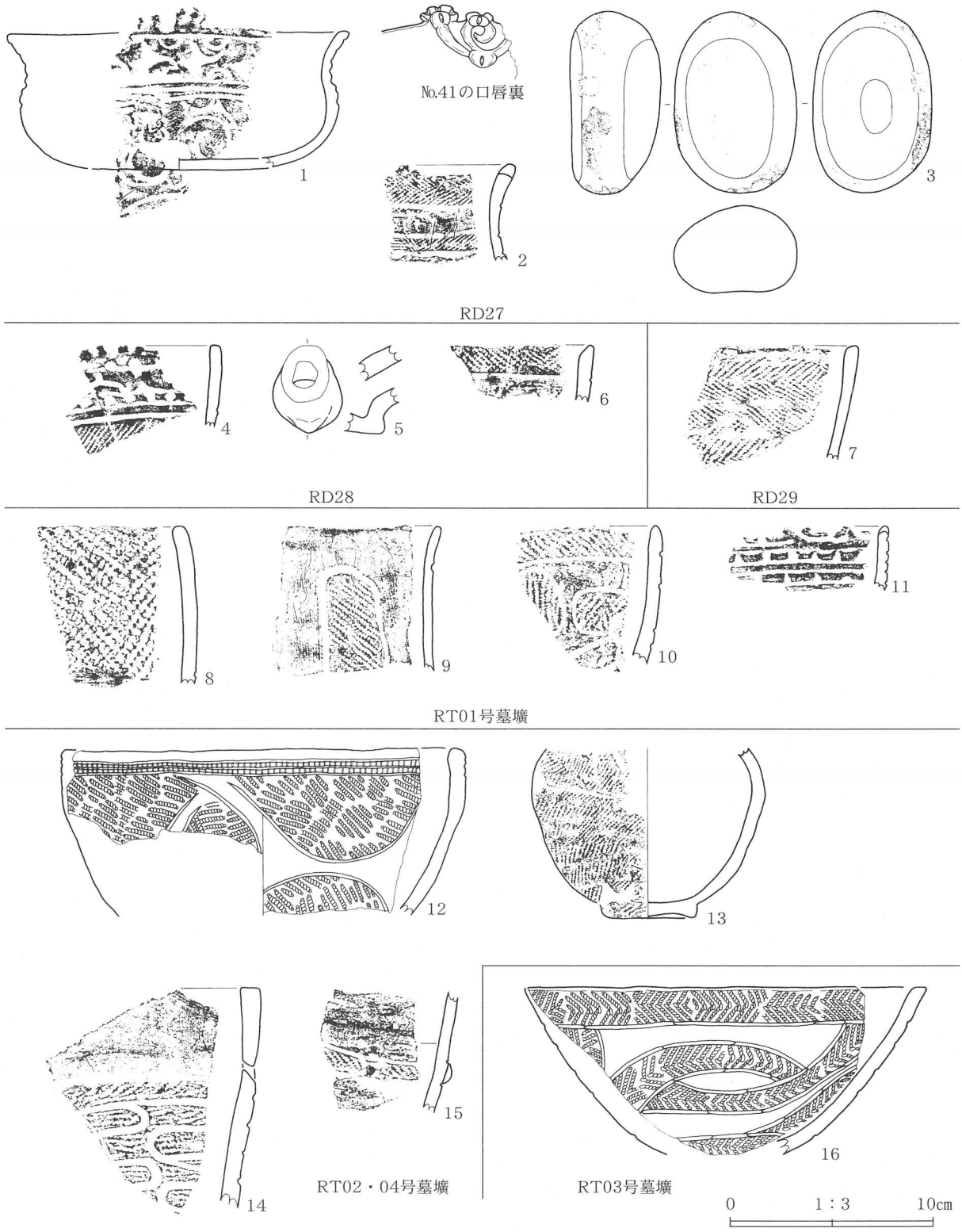
第40図　RD07・08出土遺物



第41図　RD11出土遺物



第42図　RD13・14・16・20・21・25・26出土遺物



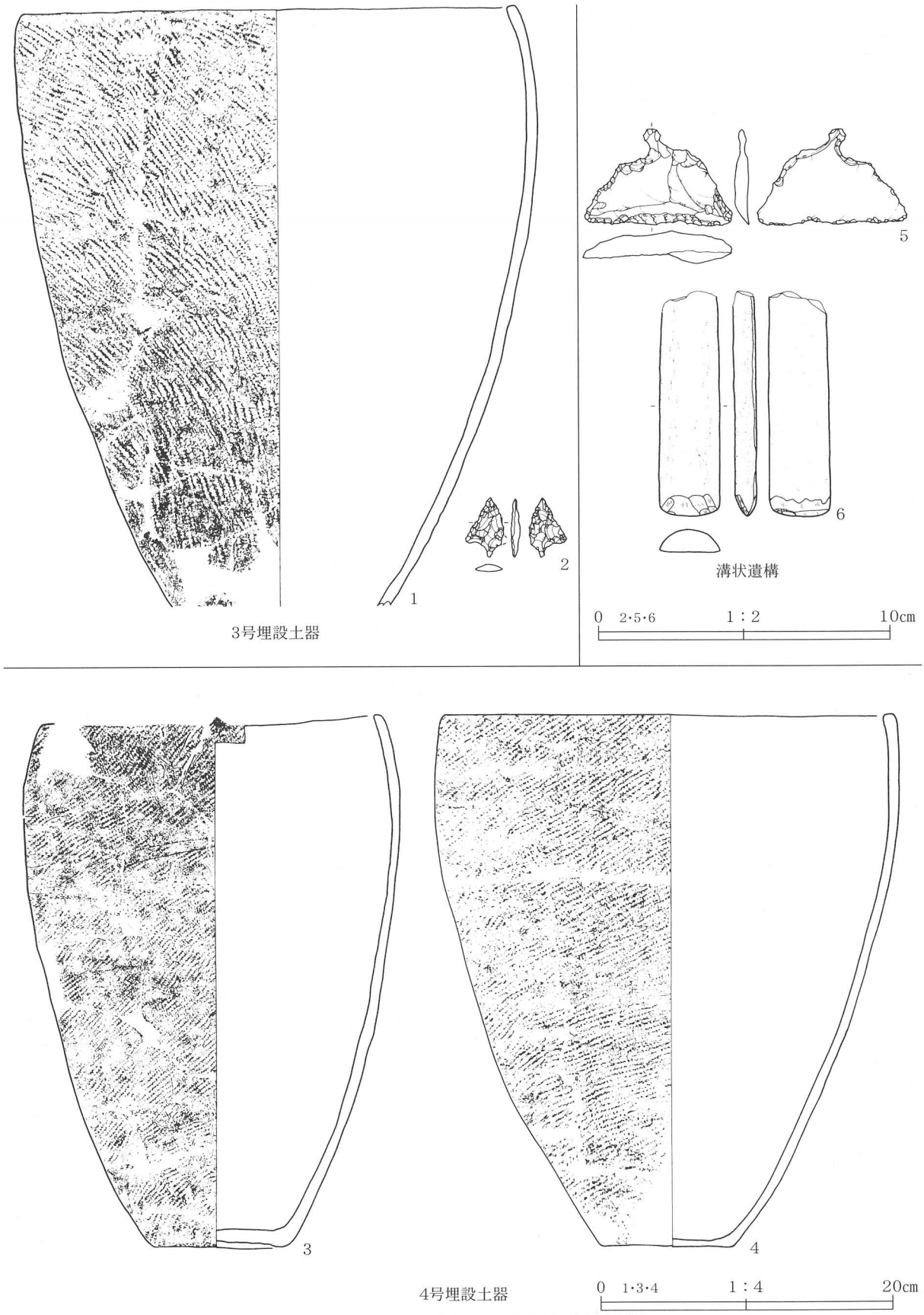
第43図　RD27・28・29，RT01～04号墓壙出土遺物

1号埋設土器

2号埋設土器

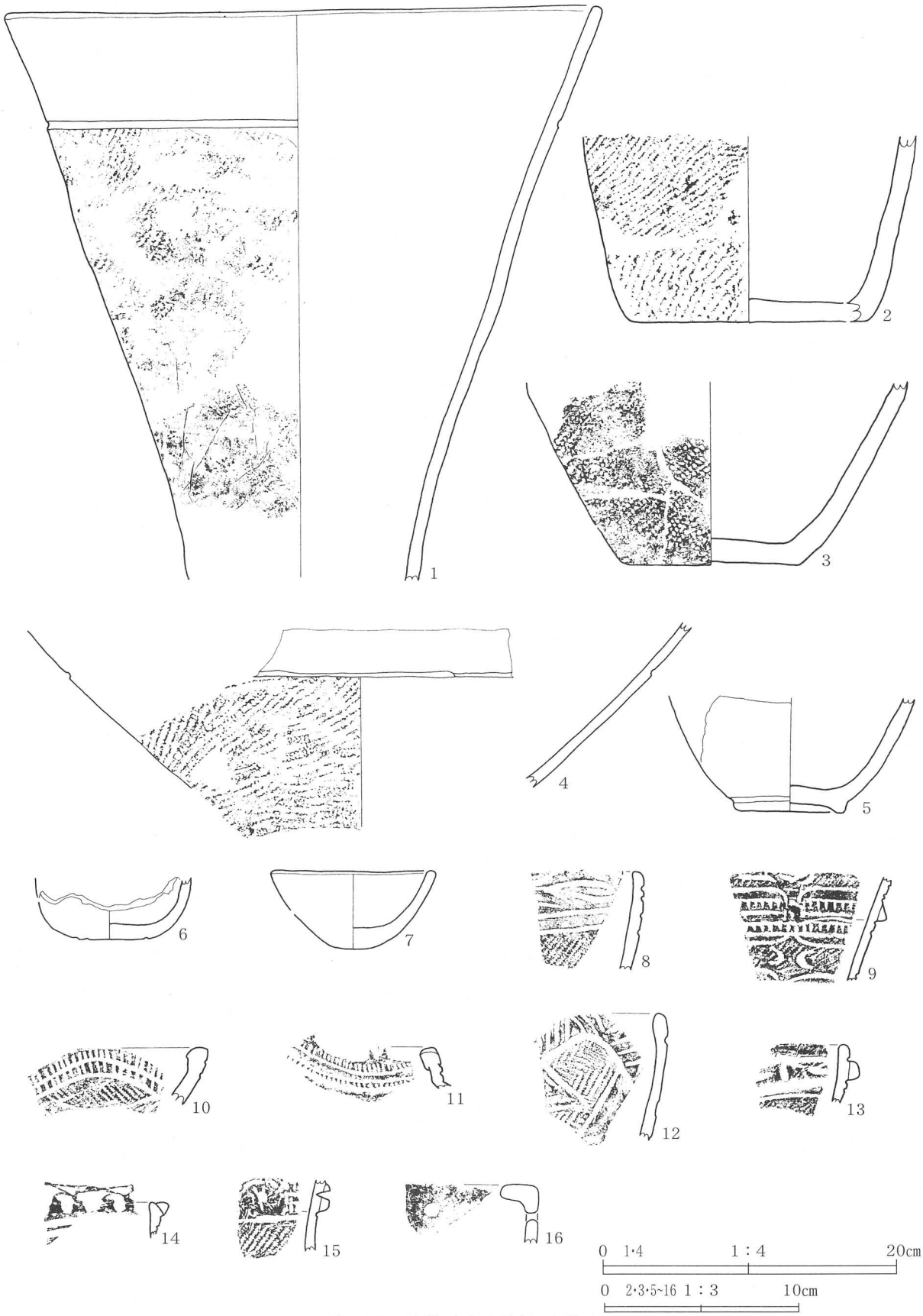
0　1：4　20cm

第44図　1・2号埋設土器

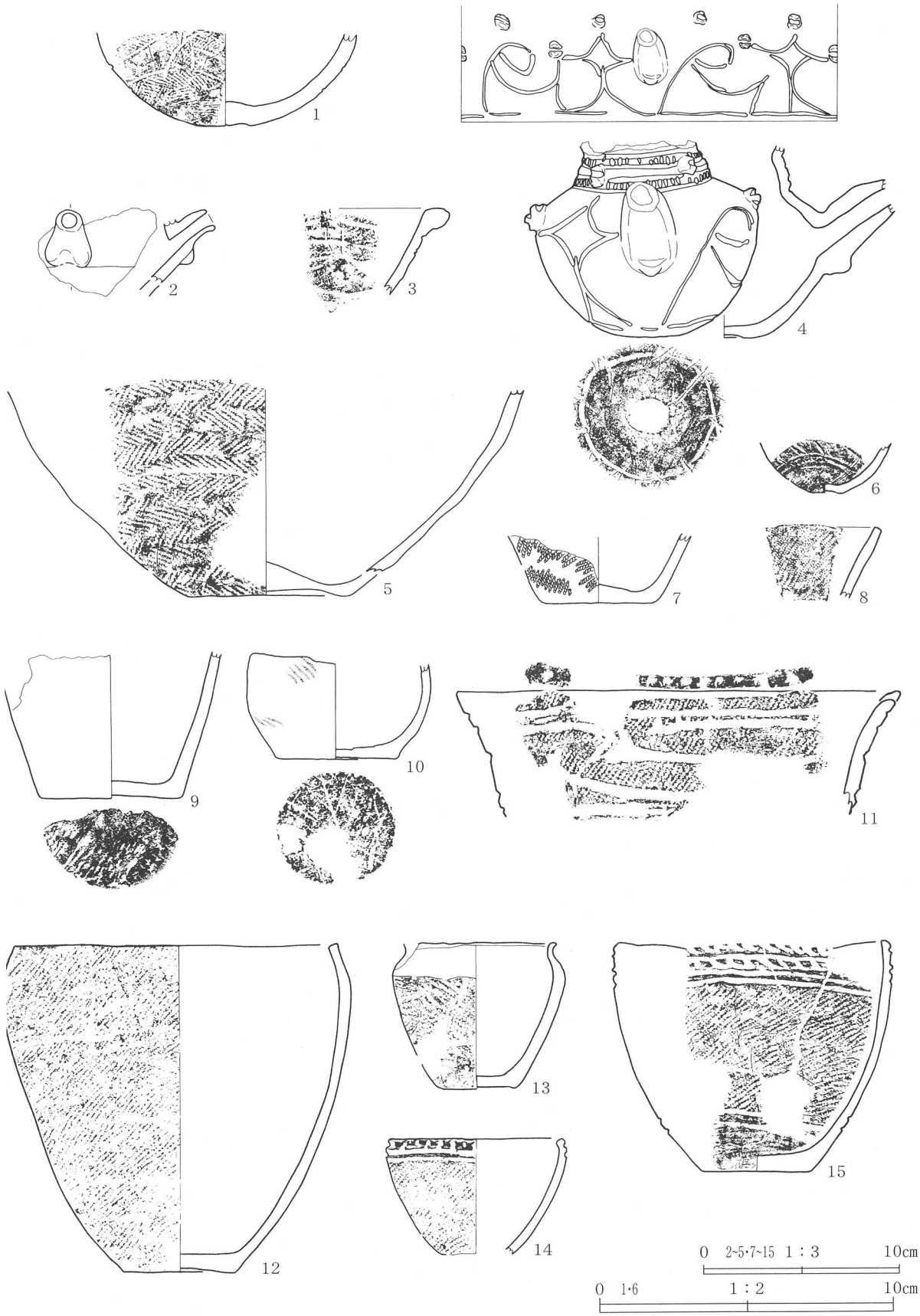


第45図　3・4号埋設土器・溝状遺構出土遺物

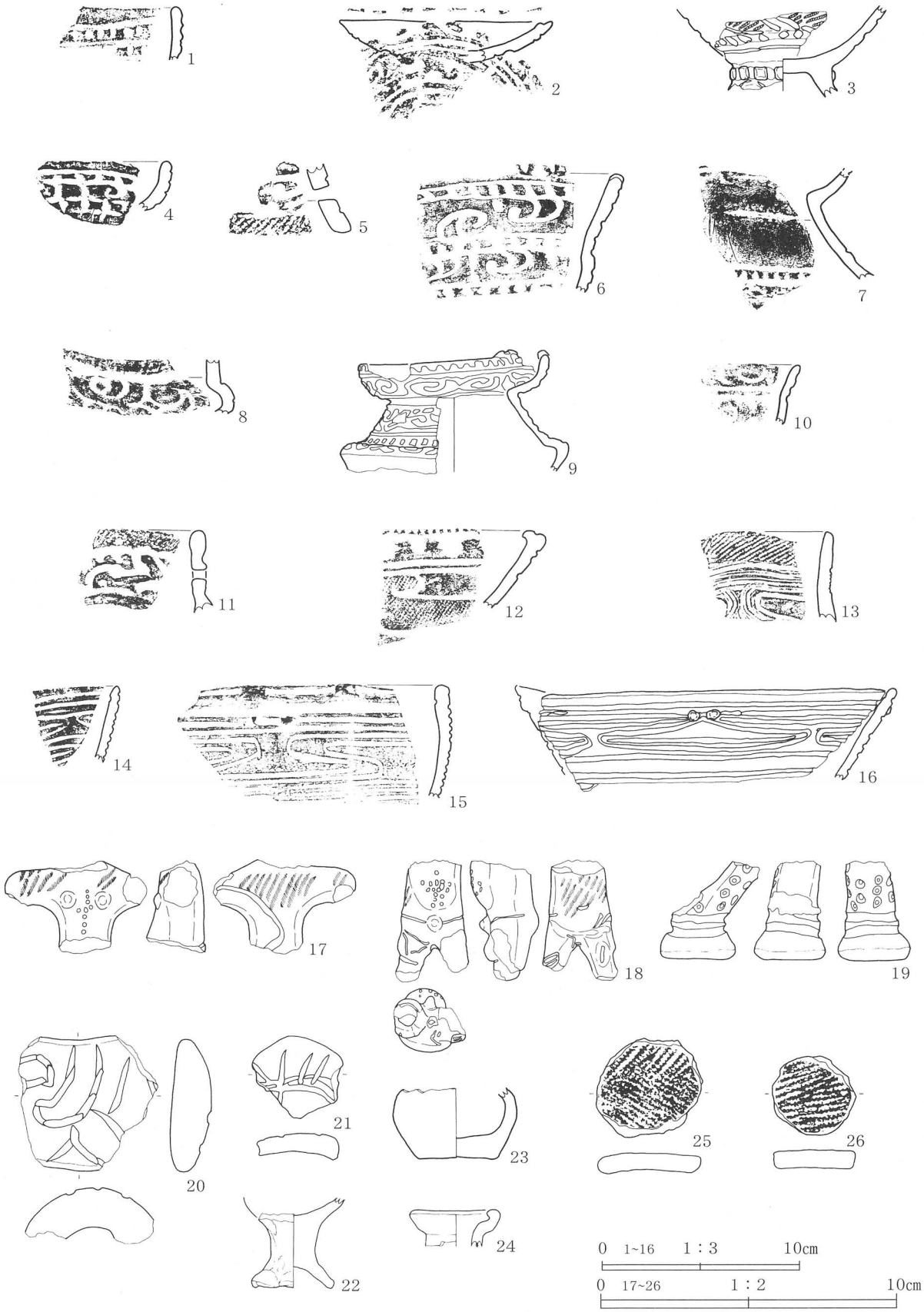
第46図　遺構外出土遺物(土器1)



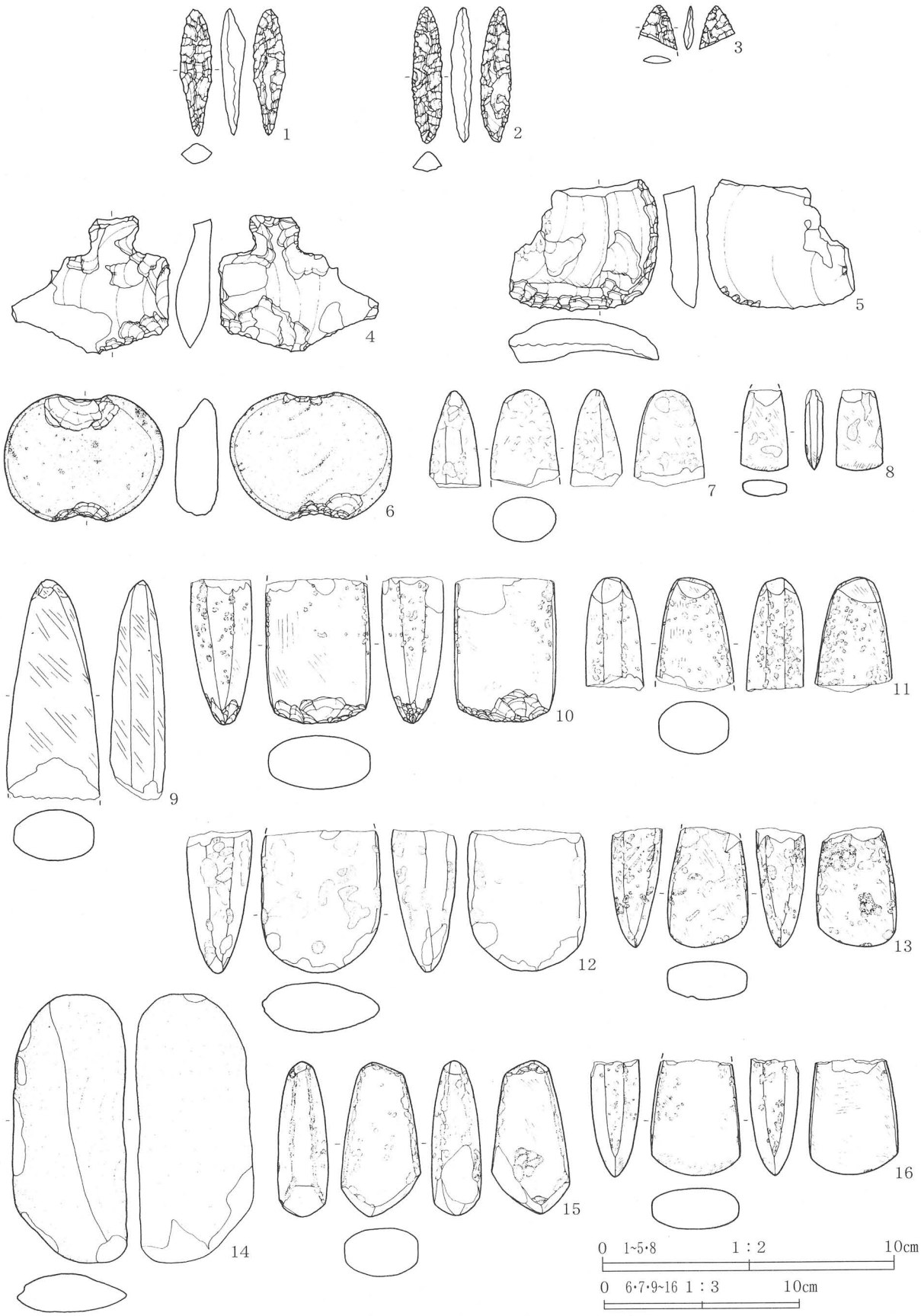
第47図　遺構外出土遺物(土器2)



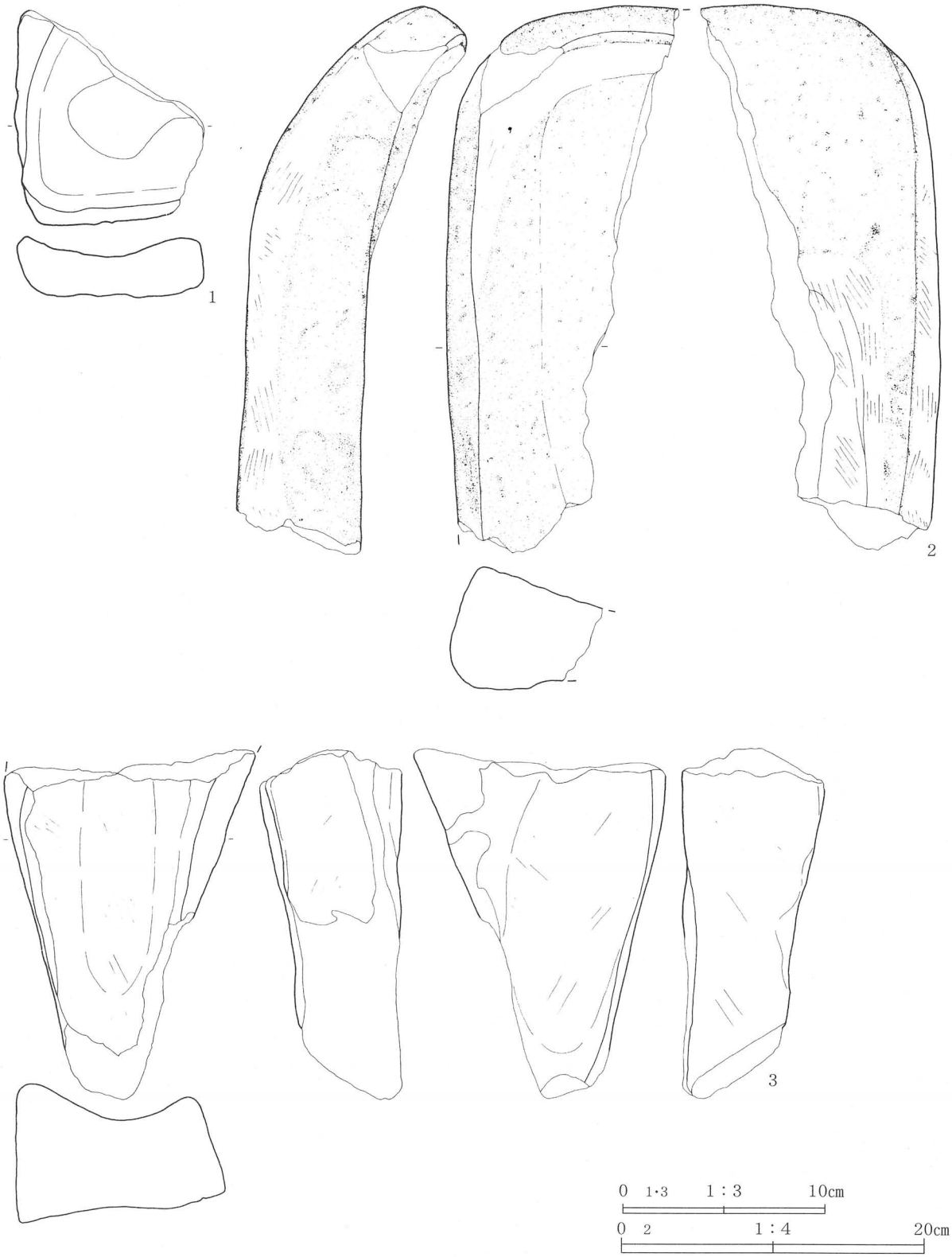
第48図　遺構外出土遺物(土器3)



第49図　遺構外出土遺物(土器4・土製品)



第50図　遺構外出土遺物(石器1)



第51図　遺構外出土遺物(石器2・石製品)

Ⅵ. ま と め

1．遺構

市部内遺跡で検出した竪穴住居は縄文時代のものが８棟で、うち縄文時代後期後葉と思われるもの２棟、晩期初頭～前葉と思われるものが６棟ある。縄文時代の土坑は22基、焼土遺構７基、墓壙は５基、埋設土器は４基検出した。

竪穴住居跡は、すべてⅡ区から検出された。形状は円形を基調としており、規模は径2.25m～径5.5mであり、平均すると3.5mである。炉はすべてが地床炉で、住居の中央に１つの地床炉のあるもの、東寄りに２つの地床炉があるもの、調査地内に炉跡らしい痕跡は見当たらないものがあった。

土坑は22基で、縄文時代後期が４基、縄文時代晩期が11基、その他不明の縄文時代が６基、古代が１基である。平面形は円形基調のものと楕円形基調のものに大別される。円形のものは８基、楕円形のものが21基、撹乱により不明のものが１基である。断面形は皿形が14基、ビーカー形が４基、フラスコ形が１基、撹乱により不明が３基である。規模は径50cm～280cmである。

焼土遺構は７基検出された。検出位置はすべてⅡ区からの検出である。規模は、径20cm～270cm・深さは2.5cm～６cmであり、不整形である。伴出遺物はなく、Ⅲ層上面からの出土なので縄文時代より新しいものと思われる。

墓壙は、Ⅱ区の北東から南西方向に並んで５基が検出された。平面形状は５基とも楕円形である。時期は検出遺物等から縄文時代である。規模の大きいものは220cm×280cmで、小さいものは73cm×140cmであり、平均すると約155cmである。壁は直立し壁際に溝が巡るものもある。深さは30cm～98cmである。

埋設土器は４基、Ⅱ区６～７グリッド北東から南西方向に真っすぐ並んでおり、Ⅳ層上面で検出した。土器の大きさに掘り込んだ土坑に、胴部または胴下部が正位に埋設され、粗製の大型深鉢または深鉢で、大きさは径30cm～44cm、深さは24cm～32cmである。時期は縄文時代後期後葉から晩期前葉である。

この遺跡は縄文時代後期後葉から晩期前葉にかけて継続的に利用されていた可能性が高い。しかし、調査者の力量が及ばず同時に存在する遺構の組み合わせや数、埋設土器と住居の関係など遺構間の関連については明らかにすることができなかった。

2．遺物

今回の調査では、撹乱を受けている所が多く、Ⅱ区に集中して出土した。遺構および包含層からの遺物の出土は大コンテナ（41cm×31cm×30cm）で約20箱強の出土である。土器は遺構内外併せて262点掲載した。石器は33点掲載した。このうちの９割以上が土器である。全体的に縄文時代後期から晩期の土器が出土しており、土製品、石製品等祭祀にかかわるとされる土器の出土もあった。

石器は少なく、石鏃４点・石匙２点・削掻器１点・石錘２点・磨製石斧９点・石皿３点・その他が出土している。北上山地のものが多い中で、安山岩の石皿は奥羽山脈のものもあった。石鏃の黒曜石は産地不明となっている。

Ⅶ火山灰分析・鑑定

岩手郡葛巻町市部内遺跡出土の火山灰
株式会社　古環境研究所

1．はじめに

岩手県域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、岩手火山、秋田駒ヶ岳火山、十和田火山など東北地方北部に分布する火山ほか、遠く北海道、中部、中国、九州、さらには、中国北朝鮮国境などに位置する火山に由来するテフラ（火山砕宵物，いわゆる火山灰）が数多く認められる（たとえば，早田・八木，1991など)。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらと層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の推積年代を知ることができるようになっている。

そこで、遺跡発掘調査の際に認められたテフラについて、発掘調査担当者により採取された試料を対象に火山ガラス比分析、重鉱物組成分析（以上を合わせてテフラ組成分析と呼ぶ)、屈折率測定を行って、示標テフラとの同定を行うことになった。

2．分析試料

テフラ分析の対象となった試料は、葛巻町市部内遺跡において、発掘調査担当者により採取された試料である。

3．分析・測定方法

(1) テフラ組成分析（火山ガラス比・重鉱物組成分析）

テフラ組成分析の手順は、次の通りである。

1）超音波洗浄により泥分を除去。
2）80℃で恒温乾燥。
3）分析篩により、1/4－1/8㎜の粒子を篩別。
4）偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの形態色調別組成を求める（火山ガラス比分析)。
5）偏光顕微鏡下で重鉱物250粒子を観察し、重鉱物組成を求める（重鉱物組成分析)。

(2) 屈折率測定

屈折率の測定は、温度一定型屈折率測定法（新井、1972、1993）による。

4．分析結果

14号土坑試料のテフラ組成ダイヤグラムを図１に、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析の結果を表１および表２に示す。試料に含まれる火山ガラスの割合は36％で、量の多い順に、軽石型（繊維束状、スポンジ状：25.2％)、中間型（10％)、バブル型（平板状：0.8％）である。色調としては、無色透明のほか、淡褐色、淡灰色、淡緑色などの火山ガラスが認められる。重鉱物としては、量の多い順に斜方輝石（43.6％)、磁鉄鉱（34％)、単斜輝石（22％）などが含まれている。

屈折率測定の結果を表３に示す。試料に含まれる火山ガラス(n)と斜方輝石(r)の屈折率は、各々1.498－1.505と1.706－1.708である。以上のことから、この試料には915年に十和田火山から噴出したと考えられている十和田a火山灰(To－a，町田ほか，1981)に由来するテフラ粒子が含まれている可能性が高いと考えられる。

5．まとめ

岩手県内の発掘調査において認められたテフラ試料について、火山ガラス比分析、重鉱物組成分析（以上，テフラ組成分析）と屈折率測定を行った。その結果、十和田a火山灰(To－a，915AD）のほか、十和田中掫テフラ(To－Cu、5,500年前*2)や白頭山苫小牧火山灰(B－Tm，800～900年前*1)に由来する可能性の高いテフラ粒子が検出された。なお、テフラが一次推積層として認められたか否かについては、現地において土層断面を観察できなかったことから言及できない。

表１　市部内遺跡おける火山ガラス比分析結果

試料採取地点	bw	md	pm	その他	合　計
14 号 土 坑	2	25	63	160	250

表２　市部内遺跡における重鉱物組成分析結果

試料採取地点	ol	opx	cpx	ho	bi	mt	その他	合　計
14 号 土 坑	0	109	55	0	0	85	1	250

数字は粒子数．ol：カンラン石、opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，ho：角閃石，bi：黒雲母，mt：磁鉄鉱。

表３　市部内遺跡における屈折率測定結果

試料採取地点	火山ガラス(n)	斜 方 輝 石(r)
14 号 土 坑	1.498－1.505	1.706－1.708

屈折率測定は，温度一定型屈折率測定法（新井，1992，1993）による。

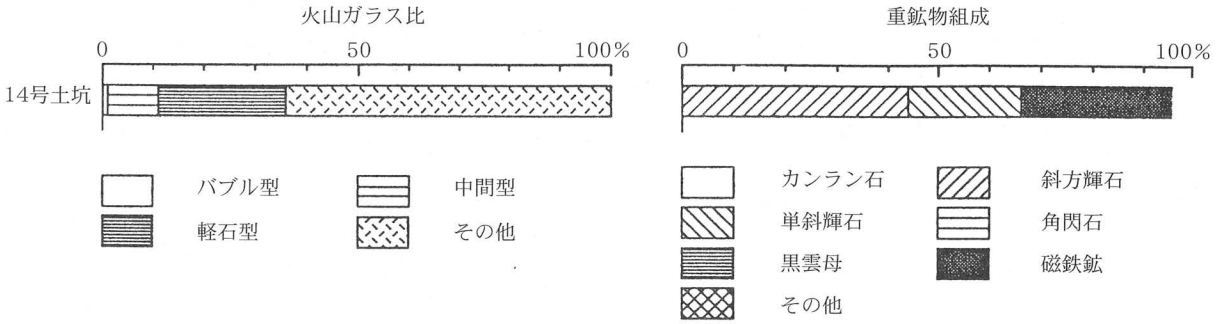


図１　市部内遺跡におけるテフラ組成ダイヤグラム

遺物観察表（土器・土製品）－1

図版	写真図版	出土地点・層位	器種	部位	文様・その他	分類
32－1	22－1	RF01　埋土中	深鉢	口縁	押圧口唇　横平行沈線　裏側沈線	晩期中葉後半
32－2	22－2	RA01　埋土	壺？	頸部～胴	すりけし　RL　黒色磨	晩期中葉前半
32－3	22－3	RA01　埋土上	深鉢	口縁～底	LR　内面削り	
32－4	22－4	RA01　埋土	鉢	立体	波状口縁　沈線	(後期)晩？
32－5	22－5	RA01　埋土	鉢	口縁	沈線文	後期後葉
32－6	22－6	RA01　埋土	土偶	肩	刺突　中実	
32－9	22－9	RA02　埋土	深鉢	口縁～胴	LR　小穴　無文	
32－10	22－10	RA02　床	鉢	口縁～胴	LR　口唇内そぎ（肥厚）	後期？
33－1	23－1	RA02　埋土	大型注口	口縁	連続刻目　平行沈線	晩期中葉
33－2	23－2	RA02　埋土	壺	口縁～胴	平行沈線　羽状縄文　弧状帯状文	後期末葉
33－3	23－3	RA02　埋土下	鉢	口縁～胴	波状突起　連続刻目	晩期中葉
33－4	23－4	RA02　埋土	鉢	胴～底	RL	晩期中葉
33－5	23－5	RA02　埋土	浅鉢	縁	刻目文　平行沈線　雲形文	晩期中葉
33－6	23－6	RA02　埋土	鉢	胴～底	羽状縄文	晩期中葉
33－7	23－7	RA02　埋土	鉢	口縁	波状口唇　羊歯状文　LR	晩期前葉後半
33－8	23－8	RA02　床面	鉢	立体	波状口唇　羊歯状文	晩期前葉
33－9	23－9	RA02　埋土	浅鉢	口縁	すりけし　沈線　縄文	晩期中葉
33－10	23－10	RA02　埋土	鉢	口縁	波状口唇　刺突刻目　雲形文	晩期中葉～後期
33－11	23－11	RA02　埋土	鉢		平行沈線	
33－12	23－12	RA02　埋土	深鉢	口縁	大波状口唇　無文　みがき	後期中葉後半
33－13	23－13	RA02　床面	壺？	胴	沈線	後期中葉
33－14	23－14	RA02　埋土	深鉢	口縁	突起　沈線文　縄文	
33－15	23－15	RA02　埋土	鉢	口縁	沈線　刺突文	縄文前期後半
33－16	23－16	RA02　埋土	壺	胴	雲形文　赤塗り	晩期中葉
33－17	23－17	RA02　埋土	鉢	胴～底部	RL	晩期中葉
34－1	24－1	RA03　埋土　RD08・09検出面	深鉢	口縁～胴	外傾　LR　繊維混入	前期前葉
34－2	24－2	RA03　埋土上	鉢	口縁	帯状文　沈線　RL　内側に羽状縄文	後期後葉
34－3	24－3	RA03　埋土下	鉢	胴～底	RL	晩期中葉
34－4	24－4	RA03　埋土	鉢	口縁～胴	波状口唇　三叉文　LR	晩期前葉
34－5	24－5	RA03　埋土下	深鉢	口縁	大波状口唇　平行沈線　円形刺突文　すりけし	晩期初頭
34－6	24－6	RA03　埋土下	壺	胴	みがき　赤塗り	
34－7	24－7	RA03　埋土下	壺	口縁	羊歯状文　入組文	晩期前葉後半～中
34－8	24－8	RA03　埋土上	不明	口縁	連珠文　突起	晩期前葉後半

遺物観察表（土器・土製品）－2

図　版	写真図版	出　土　地　点　・　層　位	器　　種	部　　位	文　様　・　そ　の　他	分　　類
34－9	24－9	RA03　埋土	小深鉢	完形	波状口唇　刻目による入組文　雲形文	晩期中葉
34－10	24－10	RA03　埋土	台付鉢	完形	突起　沈線刻目による入組文　LR	晩期中葉
34－11	24－11	RA03　埋土	台付鉢	完形	波状口唇　雲形文　刺突によるすかし	晩期中葉
34－12	24－12	RA03　埋土	小鉢	立体	刻目による入組文　RL	晩期中葉
34－13	24－13	RA03　埋土	壺	胴	突起　刻目	晩期前葉
34－14	24－14	RA03　埋土下	鉢	口縁	横位沈線　連珠文	晩期前葉後半
34－15	24－15	RA03　埋土	鉢	口縁	波状口唇　入組三叉文	晩期前葉前半
34－16	24－16	RA03　埋土	鉢	口縁	沈線	丹後平式
34－17	24－17	RA03　埋土下	注口	口		不明
35－2	25－1	RA03　床下	土偶	胴～脚	刺突	
35－3	25－2	RA03　埋土下位	土偶	肩～腕	無文	
35－4	25－3	RA03　埋土下位	土偶	片脚	無文	
35－5	25－4	RA03　床面埋土下	土偶	足	無文	
35－6	25－5	RA03	土偶	足		
35－7	25－6	RA03　埋土上	土偶	右足	無文	
35－8	25－7	RA03　埋土下	土錘	完形	十字沈線　頸部茶色	
35－9	25－8	RA03　埋土中	小型土器			
35－10	25－9	RA03北　褐色土	（筒状の）鉢	口～胴	下位に孔	
35－11	25－10	RA03　埋土下	深鉢	立体	突起RL	晩期前葉
35－12	25－11	RA04　埋土中～下	壺	口縁～胴	沈線　みがき　赤塗り	晩期前葉
35－13	25－12	RA04　埋土	鉢	立体	波状口唇　入組文　RL	晩期前葉
36－1	25－13	RA04　埋土	鉢	口縁	波状口唇　入組文　沈線　RL	晩期中葉
36－2	25－14	RA04　埋土上	深鉢	完形	無文	
36－3	25－15	RA04　埋土	壺	口縁	口縁外湾　みがき　赤塗り	
36－4	26－1	RA04　埋土中～下		口縁	赤塗り	
36－5	26－2	RA04　埋土中～下	壺	口縁	工字文？	晩期後葉？
36－6	26－3	RA04　埋土上～下	鉢	口縁	口唇上面に縄文　平行沈線	後期前葉
36－7	26－4	RA04　埋土中～下	鉢	口縁	波状口唇　入組文	晩期前葉
36－8	26－5	RA04　検出面	鉢	口縁	波状　羊歯状文の変形	晩期前葉後半
36－9	26－6	RA04　中～下位	注口	口	無文	
36－10	26－7	RA04　埋土中～下	台付	台部	台部	
36－11	26－8	RA04　埋土上～中	鉢	口縁	羊歯状文	後期後葉
36－14	26－11	RA05　埋土中～下	深鉢	底部	RL	後・晩期

遺物観察表（土器・土製品）－3

図　版	写真図版	出　土　地　点　・　層　位	器　　種	部　　位	文　様　・　そ　の　他	分　　類
36－15	26－12	RA05　埋土中～下	鉢	口縁	沈線　LR	晩期前葉
36－16	26－13	RA05　埋土中～下	鉢	口縁	RL	後期中葉
36－17	26－14	RA05　埋土中～下	深鉢	口縁	口唇上面に縄文　すりけし　RL	後期
36－18	26－15	RA05　埋土下	深鉢	底部	LR	後・晩期
36－19	26－16	RA05　埋土下	鉢	口縁	区画沈線文　LR	後・晩期
36－20	26－17	RA06　埋土上	注口	口縁	押圧状刻目列　赤塗り	後期後葉・中葉
36－21	26－18	RA06　埋土	注口	片	刻目　羊歯状文	後期中葉
37－ 1	26－19	RA12　RA09　埋土	深鉢	口縁～胴	大波状口唇　羽状縄文	後期中葉
37－ 2	26－20	RA12　埋土中	深鉢	口縁	大波状口唇　連続刻目　すりけしRL	後期中葉
37－ 3	26－21	RA12　床面	壺	胴	無文　みがき　内面ナデ	後期後葉
37－ 4	26－22	RA12　床面上	深鉢	口縁	すりけし　LR	後期後葉
37－ 5	26－23	RA12　埋土中	鉢	底	沈線　縄文	
37－ 6	26－24	RA12　埋土中	鉢	口縁	突起　すりけし　LR　雲形文	晩期中葉前半
37－ 7	26－25	RA12　埋土上	鉢	口縁	平行帯状文	晩期前葉
37－ 8	26－26	RA12　埋土中	鉢	口縁	突起　羊歯状文　RL	晩期中葉
37－ 9	26－27	RA12　RD06・Ⅱ7c検出面	鉢	立体	無文	
37－10	27－ 1	RA12　床面	土製品	立体	動物の脚の表現　上面皿　胴部茶色	
37－11	27－ 2	RA12　埋土	土偶	左脚		
37－12	27－ 3	RA12　埋土中位	円盤		RL縄文	
38－ 1	27－ 4	RA13　床上	鉢	立体	波状口唇　入組文	晩期中葉
38－ 2	27－ 5	RA13　床面	深鉢	立体	波状口唇　入組文　羽状縄文　LR	晩期中葉
38－ 3	27－ 6	RA13　黒褐色	深鉢	立体	口縁無文内傾　刺突文　LR	晩期後葉
38－ 4	27－ 7	RA13　埋土	注口	口縁	沈線　羊歯状文　赤塗り	晩期前葉
38－ 5	27－ 8	RA13　床面	深鉢	口縁～胴	LR　撚り紐押捺	
38－ 6	27－ 9	RA13　褐色土	壺	完形	三角工字文　赤色	晩期後葉
38－ 7	27－10	RA13　褐色土	鉢	胴～底	すりけし　LR	
38－ 8	27－11	RA13　埋土	鉢	口縁	連続刻目　帯状　羊歯状文	晩期前葉
38－ 9	27－12	RA13　埋土(褐色土)	鉢	口縁	入組文	晩期中葉
38－10	27－13	RA13　床上	鉢	口縁	内側に沈線と縄文　RL	
38－11	27－14	RA13　埋土上位	鉢	頸部	入組文	晩期中葉
38－12	27－15	RA13　埋土(褐色土)	鉢	口縁	連続刻目　沈線　赤塗り	晩期中葉
38－13	27－16	RA13　床面下	不明	口縁	波状口唇　連続刺突　横位沈線　RL	
38－14	27－17	RA13　埋土(褐色土)		口縁	赤塗り	

遺物観察表（土器・土製品）－4

図　版	写真図版	出　土　地　点　・　層　位	器　　種	部　　位	文　様　・　そ　の　他	分　　類
38－15	27－18	RA13　埋土褐色土	鉢	口縁	刻目　沈線　LR	後期中葉
38－16	27－19	RA13　埋土褐色土	注口	注口部		
39－ 1	28－ 1	RD05　埋土黒褐色土	鉢	口縁	小波状口唇	晩期前葉
39－ 2	28－ 2	RD05　埋土下	鉢	口縁	列点文	晩期前葉
39－ 3	28－ 3	RD06　検出面　RD09褐色	深鉢	立体	LR	
39－ 4	28－ 4	RD06　埋土中	深鉢	口縁	波状口唇	後期中葉
39－ 5	28－ 5	RD06　埋土上黒褐色	深鉢	口縁	波状口唇　帯状文	後期前葉
39－ 6	28－ 6	RD06　埋土上黒褐色	壺？	胴	曲線状沈線文	後期前葉
39－ 7	28－ 7	RD06　埋土黒褐色	鉢	口縁	波状口唇　三叉文　裏側横ナデ傷あり	晩期前葉前半
39－ 8	28－ 8	RD06　南	台付	台	台部末広	
39－ 9	28－ 9	RD06　埋土下位褐色土	円盤		無文	
39－10	28－10	RD06　埋土一括	円盤		沈線	
40－ 1	28－12	RD07　Ⅱ6c検出面	注口	胴	連続刻目　沈線	晩期前葉
40－ 2	28－13	RD07　黒褐色土	土偶	左脚	(1)　無文	
40－ 3	28－14	RD07　黒褐色土	土偶	左脚	(2)　無文	
40－ 4	28－15	RD08　埋土	台付深鉢	立体	波状口唇　突起　刻目による入組文	
40－ 5	28－16	RD08　埋土一括	台付深鉢	完形	波状口唇　刻目による入組文　雲形文	晩期中葉
40－ 6	28－17	RD08　埋土上	台付深鉢	完形	圧刻波状口唇　入組文　RL	晩期中葉
40－ 7	28－18	RD08　埋土褐色土	鉢	立体	RL　横沈線　帯状文	晩期中葉
40－ 8	29－ 1	RD08　埋土一括	深鉢	口縁	LR	晩期中葉
40－ 9	29－ 2	RD08　埋土中	不明	口縁	無文　内側沈線	後期後葉
40－10	29－ 3	RD08　埋土	鉢	台部	台部外びらき	
40－11	29－ 4	RD08　埋土一括	鉢	片		
41－ 1	29－ 6	RD11　埋土下	台付鉢	底～台部	台部末広　赤色漆塗	
41－ 2	29－ 7	RD11　埋土下	鉢	口縁	波状口唇　羊歯状文　内側みがき　LR	晩期後葉前半
41－ 3	29－ 8	RD11　埋土下	鉢	口縁	突起　連続刻目　すりけし	晩期後葉
41－ 4	29－ 9	RD11　埋土中	鉢	口縁	突起　羊歯状文	晩期前葉後半
41－ 5	29－10	RD11　埋土中	深鉢	胴～底	LR	
41－ 6	29－11	RD11　埋土中	注口	口縁	C字文　連珠文　みがき	晩期前葉前半
41－ 7	29－12	RD11　埋土中	注口	片	羊歯状文	晩期後葉後半
41－ 8	29－13	RD11　埋土中	鉢	口縁	突起　羊歯状文	晩期後葉後半
41－ 9	29－14	RD11　埋土中	壺	口縁	波状口唇　円形刺突文	中期～後期
41－10	29－15	RD11　埋土ベルト	鉢	口縁	波状口唇　羊歯状文　LR	晩期前葉後半

遺物観察表（土器・土製品）－5

図版	写真図版	出土地点・層位	器種	部位	文様・その他	分類
41－11	29－16	RD11　埋土ベルト				
41－12	29－17	RD11　Ⅱ5e	壺		装飾口縁　羊歯状文　連続刻目	晩期前葉後半
41－13	29－18	RD11　褐色土上	浅鉢	立体	波状刻目　平行沈線　LR　みがき	
41－14	29－19	RD11　埋土	皿？	立体	波状口唇　内側波状沈線　圧刻　赤色漆塗 羊歯状文	晩期前葉
41－15	29－20	RD11　Ⅱ6c褐色土	壺	立体	内側沈線　突起　雲形文	晩期中葉
41－16	29－21	RD11　検出面	台付鉢	立体	沈線　すりけし	
41－17	29－22	RD11　埋土中	台付皿	完形	小突起２個２対　雲形文　赤色漆塗	晩期中葉
41－18	29－23	RD11　埋土上位	ミニチュア	完形	頸部くびれ　無文	
41－19	29－24	RD11　埋土中	土錘	完形	沈線	
42－ 1	29－25	RD13	鉢	口縁～胴部	突起　R1	晩期前葉
42－ 2	29－26	RD14　埋土下	鉢	底？	無文	
42－ 3	29－27	RD14　埋土下	鉢	口縁	突起　三角形状沈線区画	
42－ 4	29－28	RD14　埋土下	不明	片	沈線　刺突	後期前葉
42－ 5	29－29	RD14　埋土褐色土	鉢	口縁	外反波状口唇　内側みがき　LR　×字状施文	晩期前葉前半
42－ 6	29－30	RD16　埋土ベルト	深鉢	口縁	大波状口唇　すりけし　帯状文	後期前半
42－ 7	29－31	RD16　埋土ベルト	鉢	口縁	突起　LR　すりけし　沈線	後期中葉
42－ 8	29－32	RD20　埋土中	深鉢	口縁	羊歯状文	後期後葉
42－ 9	30－ 1	RD21　埋土中	鉢	口縁	裏側沈線　平行沈線　LR	
42－10	30－ 2	RD21　埋土中	鉢	口縁	みがき	晩期前葉後半
42－11	30－ 3	RD21　埋土中	注口	口	羽状縄文　沈線　すりけし	後期後葉
42－12	30－ 4	RD25　埋土中	深鉢	口縁	波状口唇　LR　横位沈線	後期後葉
42－13	30－ 5	RD26　埋土中～上	鉢	胴～底	LR	
42－14	30－ 6	RD26　埋土上	鉢	口縁	波状口唇　沈線　LR	晩期中葉
42－15	30－ 7	RD26　埋土	台付	胴～台	LR	
42－16	30－ 8	RD26　埋土中	深鉢	口縁	角状口唇　内側にも突起　LR	後期後葉
42－17	30－ 9	RD26　埋土中	注口	立体	沈線　浮彫文	晩期前葉
42－18	30－10	RD26　埋土黒褐色土	鉢	口縁	波状口唇　沈線　LR　帯状文	後期中葉
42－19	30－11	RD26　埋土上	深鉢	突起	後期	
42－20	30－12	RD26　埋土上～下	深鉢	立体	波状口唇　工字文	晩期後葉
42－21	30－13	RD26　埋土上	台付鉢	底	雲形文　刻目	晩期中葉
42－22	30－14	RD26　埋土上	台付鉢	底	LR	
42－23	30－15	RD26　埋土上	鉢	底		

遺物観察表（土器・土製品）－6

図　版	写真図版	出　土　地　点　・　層　位	器　　種	部　　位	文　様　・　そ　の　他	分　　類
43－ 1	30－16	RD27　埋土中	浅鉢	口縁～底	突起　裏はりつけ	晩期初頭
43－ 2	30－17	RD27　埋土中	鉢	口縁	突起　羽状縄文　横沈線	後期後葉
43－ 4	30－19	RD28　埋土中	鉢	口縁	波状口唇　突起　みがき　LR	晩期前葉前半
43－ 5	30－20	RD28　埋土中	注口	口	突起	
43－ 6	30－21	RD28　埋土中	鉢	口縁	RL　横沈線	後期中葉
43－ 7	30－22	RD29　埋土中	鉢	口縁	羽状縄文　LR	晩期中葉後半
43－ 8	30－23	RT01　埋土中	深鉢	口縁		
43－ 9	30－24	RT01　埋土中	深鉢	口縁	区画沈線　すりけし　LR	中期後～末葉
43－10	30－25	RT01　埋土中	深鉢	口縁	内削ぎ　区画沈線	中期後葉
43－11	30－26	RT01　埋土中	不明	口縁		晩期前葉
43－12	30－27	RT02　埋土中	深鉢	口縁	ひこう　沈線	後期
43－13	31－ 1	RT02またはRT04　埋土中	鉢	立体	LR	
43－14	31－ 2	RT02　埋土中	深鉢	口縁	帯状文　横位沈線	後期中葉
43－15	31－ 3	RT02　埋土中	鉢	胴片	突起　沈線	後期
43－16	31－ 4	RT03　埋土中	浅鉢	口縁～胴	羽状縄文　たすきがけ	後期
44－ 1	31－ 5	１号埋設土器	深鉢	立体	LR横回転と斜回転など	晩期
44－ 2	31－ 6	２号埋設土器	深鉢	立体	LR　横回転　斜縄文	
45－ 1	32－ 1	３号埋設土器	深鉢大	底部なし	やや内湾　RL単節横回転	後期(晩)？
45－ 3	32－ 3	４号埋設土器	深鉢大	完形	やや内湾　LR単節横回転　斜縄文	
45－ 4	32－ 4	４号埋設土器	深鉢	完形	突起　やや内湾　LR単節横回転　斜縄文	(後期)晩？
46－ 1	33－ 1	Ⅱ区北　褐色土	小深鉢	立体	波状口唇　LR　すりけし縄文	晩期
46－ 2	33－ 2	Ⅱ5e	深鉢	口縁	沈線　RL　すりけし	
46－ 3	33－ 3	Ⅱ5e	鉢	口縁	すりけし　帯状文　RL	後期中葉
46－ 4	33－ 4	Ⅱ5e	浅鉢	口縁～底	沈線　RL	
46－ 5	33－ 5	Ⅱ5e	鉢	口縁	RL　横沈線	後期中葉
46－ 6	33－ 6	Ⅱ5f　南	鉢	口縁	LR　横沈線	後期中葉
46－ 7	33－ 7	Ⅱ5f　南	深鉢	口縁	波状口唇　帯状文　RL　刺突	
46－ 8	33－ 8	Ⅱ3d　褐色土中	深鉢	口縁	角状突起　頸部突起	晩期前葉後半
46－ 9	33－ 9	Ⅱ5f　黒褐色	鉢	口縁	RL　すりけし	後期中葉
46－10	33－10	Ⅴ区北　黒褐色	台付浅鉢	胴	沈線　小穴　工字文	弥生
46－11	33－11	Ⅱ7c　褐色土検出面	深鉢	口縁	角状突起　帯状文	後期後葉
46－12	33－12	Ⅱ5e　褐色土	不明	不明		
46－13	33－13	Ⅱ3b　黒褐色土	ミニチュア	口縁	沈線	

遺物観察表（土器・土製品）－7

図版	写真図版	出土地点・層位	器種	部位	文様・その他	分類
46－14	33－14	Ⅱ7　黒色土	注口	口縁	無文	晩期
46－15	33－15	Ⅱ4d　褐色土中	浅鉢	立体	無文　すりけしによる沈線　LR	
46－16	33－16	Ⅲ区北　黒褐色	台付	底	無文	晩期前葉後半
46－17	33－17	Ⅱ区北　黒褐色土下	ミニチュア鉢	口縁	刺突文　RLR　三編み	
46－18	33－18	Ⅱ5c　褐色土	壺	口縁	波状口唇　沈線	晩期中期
46－19	33－19	Ⅱ5e　埋土	不明	口縁	刺突	
46－20	33－20	Ⅲ区　検出面	台付	台	波状文　台部末広	
46－21	33－21	Ⅱ5e　褐色土	深鉢	口縁	口唇大波状　みがき	後期後葉
46－22	33－22	Ⅲ区北　黒褐色	壺形注口	底	無文	
47－1	33－23	Ⅱ5e　検出面下黒色土下	深鉢	立体	すりけし　LR	
47－2	34－1	Ⅱ5f　黒褐色土	深鉢	胴～底	LR	
47－3	34－2	Ⅱ6e～Ⅱ6f　埋土	鉢	胴～底	LR	
47－4	34－3	Ⅱ3b　黒褐色土中	深鉢	口縁	横沈線　RL	後期前葉
47－5	34－4	不明	深鉢	胴～底	無文	
47－6	34－5	Ⅱ7d　埋土上褐色土	鉢	底	無文　底部に沈線	晩期後葉
47－7	34－6	Ⅱ5f　埋土	ミニチュア	完形	無文	
47－8	34－7	Ⅱ6e～Ⅱ6f　埋土	鉢	口縁	波状口唇　入組文	晩期前葉前半
47－9	34－8	PP38　埋土中	鉢	口縁	突起　C字御	弥生(晩期)？
47－10	34－9	不明	深鉢	口縁	波状口唇　刻目　沈線　RL	後期中葉後期中葉
47－11	34－10	Ⅱ5e　黒褐色	鉢	口	刻目	後期中葉
47－12	34－11	Ⅱ区北　黒褐色下(炭含)	深鉢	口縁	波状口唇	後期初頭
47－13	34－12	Ⅲ区北　黒褐色土	不明	口縁		
47－14	34－13	柱穴　黒褐色		口縁	刻目　横位沈線	
47－15	34－14	Ⅱ5f　褐色土	鉢		突起　RL	弥生(晩期)？
47－16	34－15	Ⅱ区北　黒土	不明	片	小穴　無文	
48－1	34－16	Ⅱ区北8　黒焼土	小型土器		すりけし　縄文	
48－2	34－17	Ⅱ6e～Ⅱ6f　褐色土	注口	口	無文	晩期初頭
48－3	34－18	Ⅲ区北　黒褐色土	深鉢	口縁	突起　沈線	後期後葉
48－4	34－19	Ⅱ5f　検出面	小型注口	立体	小突起4　断続した沈線　赤漆	
48－5	34－20	Ⅱ9　検出面	深鉢	胴～底	波状縄文	後期
48－6	34－21	Ⅱ25e	ミニチュア鉢	底	縄文	
48－7	35－1	Ⅱ5c　褐色土	鉢	胴～底	LR	
48－8	35－2	柱穴　黒褐色	鉢	口縁	みがき　LR	

遺物観察表（土器・土製品）－8

図　版	写真図版	出　土　地　点　・　層　位	器　　種	部　　位	文　様　・　そ　の　他	分　　類
48－ 9	35－ 3	Ⅲ区　黒褐色土	小深鉢	胴～底	無文	晩期？
48－10	35－ 4	不明	鉢	胴	無文	
48－11	35－ 6	Ⅱ6e～Ⅱ6f　東検出面	鉢	口縁	突起　縄文の上から沈線　羊歯状文	晩期前葉
48－12	35－ 6	不明	小鉢	立体	口唇やや内湾　縄文	
48－13	35－ 7	Ⅱ6e～Ⅱ6f　検出面	小鉢	立体	RL	
48－14	35－ 8	Ⅱ6c　褐色土	深鉢	完形	波状口唇　横沈線　押刻目LR	晩期後葉
48－15	35－ 9	Ⅱ6e～Ⅱ6f　埋土	鉢	立体	刻目による入組文　平行沈線RL	晩期中葉
49－ 1	35－10	Ⅱ5d　褐色土(炭含む)	鉢	口縁	刺突による刻目　平行沈線	後期中葉
49－ 2	35－11	不明	鉢	胴	工字文	晩期後葉
49－ 3	35－12	Ⅱ区北　黒色土	台付	台	沈線文　突起	
49－ 4	35－13	Ⅱ5e　埋土	鉢	口縁	羊歯状文	晩期前葉後半
49－ 5	35－14	Ⅱ6e～Ⅱ6f　黒褐色土上	不明	口縁	すかし技法	晩期前葉前半
49－ 6	35－15	Ⅱ6e～Ⅱ6f　埋土	鉢	口縁	突起　刻目　三叉文　赤塗り	晩期前葉
49－ 7	35－16	Ⅱ6e～Ⅱ6f　埋土上	注口	口縁	刻目　三叉文　赤塗り	
49－ 8	35－17	Ⅱ5f　褐色土	注口	胴	三叉文	晩期前葉前半
49－ 9	35－18	Ⅱ7c　褐色土検出面	注口	口唇～胴	突起　刻目　沈線にはるＣ字文	晩期前葉後半
49－10	35－19	Ⅲ区北　黒褐色土	鉢	口縁	平行沈線	晩期初頭
49－11	35－20	Ⅱ6e～Ⅱ6f	不明	片	すかし技法　縄文	
49－12	35－21	Ⅱ6e～Ⅱ6f　東検出面	鉢	口縁	雲形文　横沈線　すりけし	晩期中葉前半
49－13	35－22	Ⅱ5f	不明	口縁	波状口唇　LR　流線状多沈線	後期前葉
49－14	35－23	Ⅴ区南　黒色土中	鉢	口縁	工字文	弥生晩期紅葉
49－15	35－24	Ⅱ5d　褐色土	深鉢	口縁	みがき　沈線による工字文　内側沈線	晩期末葉(弥生)
49－16	35－25	Ⅱ6e～Ⅱ6f　東検出面	鉢	口縁	内側沈線　突起2　工字文	晩期末葉
49－17	36－ 1	Ⅱ5e　上左	土偶	上半身	刺突	
49－18	36－ 2	Ⅱ5f　左下	土偶	下半身	刺突	
49－19	36－ 3	Ⅱ7d　埋土上位	注口	口	突起　沈線	
49－20	36－ 4	Ⅱ7d　埋土上位	不明		沈線	
49－21	36－ 5	Ⅱ7d　褐色土	土錘		沈線	
49－22	36－ 6	Ⅱ区　黒色土	ミニチュア		無文	
49－23	35－ 7	Ⅱ8d　検出面	ミニチュア	立体	無文	
49－24	36－ 8	Ⅱ6c　検出面下褐色土	ミニチュア壺	口	無文　台部末広	
49－25	36－ 9	Ⅱ6d　褐色土	円盤		RL縄文	
49－26	36－10	Ⅱ7d　埋土上位	円盤		縄文	

遺物観察表（石器・石製品）－9

図　版	写真図版	出　土　地　点	層　　位	器　　種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重　量(g)	備　　考
32－ 7	22－ 7	RA01北	黒褐色土	石槍	3.1	5.8	1.2	15.9	珪質頁岩　北上山地
32－ 8	22－ 8	RA01北	黒褐色土	石槍	6.1	4.1	2.5	107.3	ハンレイ岩　北部北上山地
33－18	23－18	RA02	埋土2層	石鏃	2.1	1.0	0.5	0.9	めのう　北上山地
34－18	24－18	RA03北	埋土	円形掻器	2.9	2.7	1.2	8.8	珪質頁岩　北上山地
35－ 1	24－19	RA03	埋土下位	凹石	(11.0)	(5.9)	4.0	400.0	ヒン岩　北上山地
36－12	26－ 9	RA04	埋土中～下位	敲石	12.3	5.7	2.4	279.7	ヒン岩　北上山地
36－13	26－10	RA04	埋土中～下位	凹石	10.8	7.3	4.3	533.6	ヒン岩　北上山地
38－17	27－20	RA13下左	土坑	磨製石斧	(9.7)	(4.1)	2.2	129.5	角閃ヒン岩　北上山地
39－11	28－11	RD06	埋土上位	敲石	18.2	5.6	5.2	846.9	ヒン岩　北上山地
40－12	29－ 5	RD08	埋土上位	石錘	4.9	0.8	0.6	2.0	頁岩　北上山地
43－ 3	30－18	RD27	埋土	敲石	9.0	5.9	4.5	465.2	ハンレイ岩　北部北上山地
45－ 2	32－ 2	３号埋設土器	埋土	石鏃	2.0	1.3	0.3	0.5	珪質頁岩　北上山地
45－ 5	32－ 5	Ⅱ区溝状遺構	褐色土砂	石匙	3.3	5.1	0.5	9.2	頁岩　北上山地
45－ 6	32－ 6	Ⅱ区溝状遺構	褐色土砂	石剣	11.6	3.1	1.2	81.1	ホルンフェルス　北上山地
50－ 1	36－11	Ⅱ5d	褐色土	石錐	4.4	1.1	0.8	3.1	頁岩　北上山地
50－ 2	36－12	Ⅱ5e	埋土中位	石鏃	4.7	1.0	0.7	3.2	頁岩　北上山地
50－ 3	36－13	Ⅱ5f	褐色土中	石鏃	1.5	1.2	0.3	0.5	黒曜石　産地不明
50－ 4	36－14	Ⅱ7dグリッド	褐色土(検出面)	石匙	4.8	5.4	1.2	21.8	赤色珪質頁岩　北上山地
50－ 5	36－15	Ⅱ区北	褐色土	礫	4.5	5.0	1.1	33.5	珪質頁岩　北上山地
50－ 6	36－16	Ⅱ7dグリッド	検出面	石錘	6.6	8.3	2.2	193.3	安山岩　奥羽山脈
50－ 7	36－17	Ⅱ7d	埋土褐色土	磨製石斧	(5.0)	(3.6)	2.3	64.7	砂岩　北上山地
50－ 8	36－18	Ⅱ5e	埋土	石斧(ミニチュア)	(4.2)	(2.4)	0.9	15.7	緑色岩　北上山地
50－ 9	36－19	Ⅱ7d	埋土	磨製石斧	(11.4)	(4.8)	(2.8)	225.6	ヒン岩　北上山地
50－10	36－20	Ⅱ7d	埋土	磨製石斧	7.5	5.3	3.1	212.2	ハンレイ岩　北部北上山地
50－11	36－21	Ⅱ8dグリッド	検出面	磨製石斧	5.9	4.0	2.9	98.2	ハンレイ岩　北部北上山地
50－12	36－22	Ⅱ区	不明	磨製石斧	(7.4)	(6.1)	3.3	223.6	ヒン岩　北上山地
50－13	36－23	Ⅱ7d	埋土上～中位	磨製石斧	6.2	4.1	2.5	93.4	ハンレイ岩　北部北上山地
50－14	37－ 1	Ⅱ5e	埋土中位	磨製石斧	14.0	6.0	2.3	247.3	砂岩　北上山地
50－15	37－ 2	Ⅱ7dグリッド	黒褐色土中土坑	磨製石斧	7.9	4.1	2.5	121.5	ハンレイ岩　北部北上山地
50－16	37－ 3	Ⅱ7d	埋土上位褐色土	磨製石斧	6.0	4.5	2.5	112.7	頁岩　北上山地
51－ 1	37－ 4	Ⅱ7d	褐色土	石皿	(10.7)	(9.4)	3.5	369.9	安山岩　奥羽山脈
51－ 2	37－ 5	Ⅱ7d	暗褐色土	石皿	36.2	15.7	9.0	3402.5	安山岩溶岩　第4紀火山
51－ 3	37－ 6	不明	不明	石皿	(17.4)	(12.4)	7.1	1124.9	安山岩　奥羽山脈

〈参考・引用文献〉

岩手県の地名　平凡社

葛巻町の自然（平成９年３月30日）　葛巻町教育委員会

考古学ライブラリー18　亀ヶ岡式土器　村越　潔　著

日本原始美術１　縄文土器　山内清男　著

石器分類図録　石器の基礎知識Ⅲ　縄文　鈴木道之助　著

葛巻町文化財報告書　第３集　「泥這遺跡」　葛巻町教育委員会

新山権現社遺跡発掘報告書　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書　第188集
㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

是川中遺跡　八戸市埋蔵文化財調査報告書　第82集　青森市教育委員会

縄文の美　是川中遺跡出土図鑑　土器編　八戸市博物館

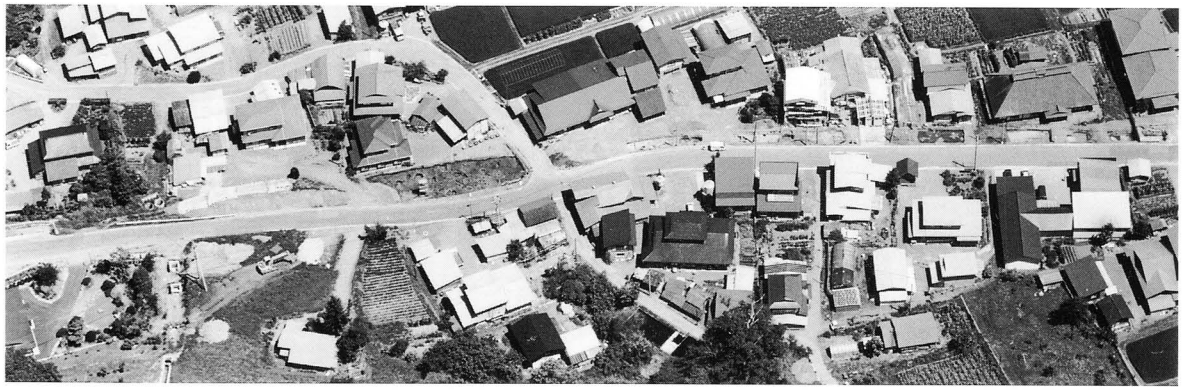
亀ヶ岡文化の研究　古代学研究所研究報告　第５集　平成９年度
財団法人古代学協会

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書　第108集
手代森遺跡発掘調査報告書　㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

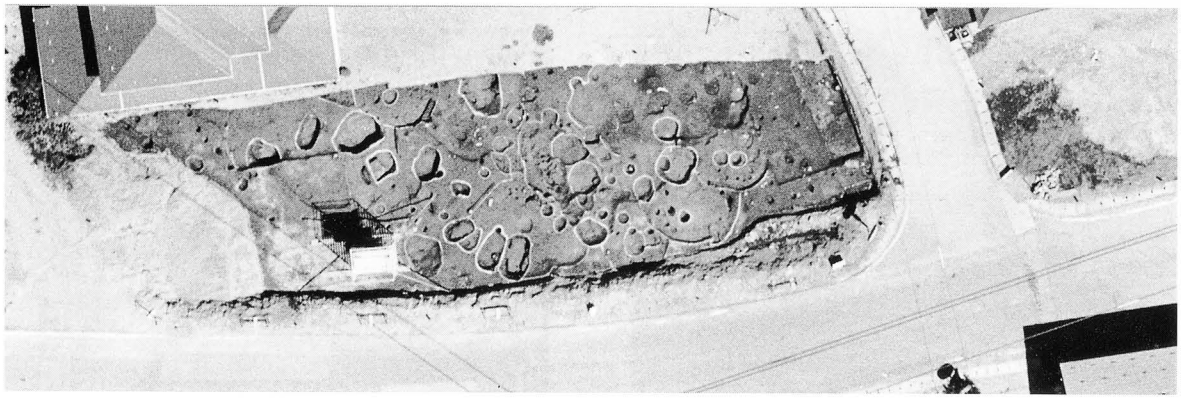
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書　第225集
「大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書　第２～第５次調査」　㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

写　真　図　版

遺跡全景



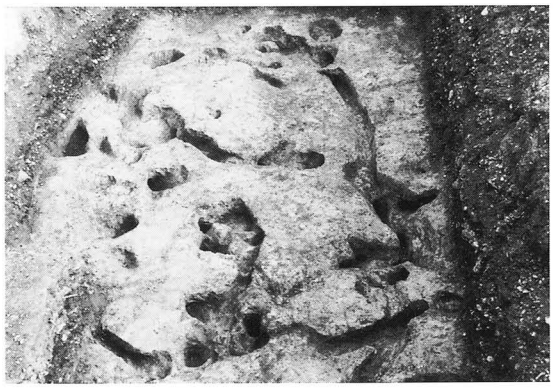
遺跡近景



Ⅱ区全景

写真図版１　遺跡遠景・近景・Ⅱ区全景

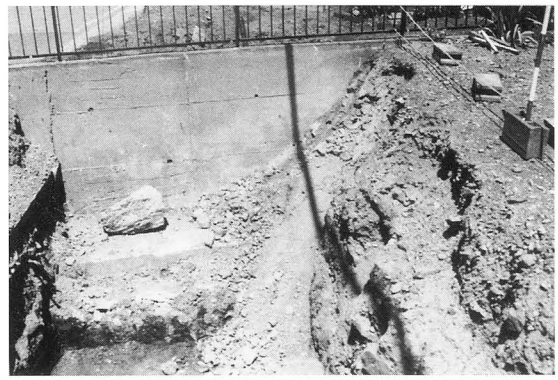
Ⅱ区　完堀



Ⅲ区　完堀

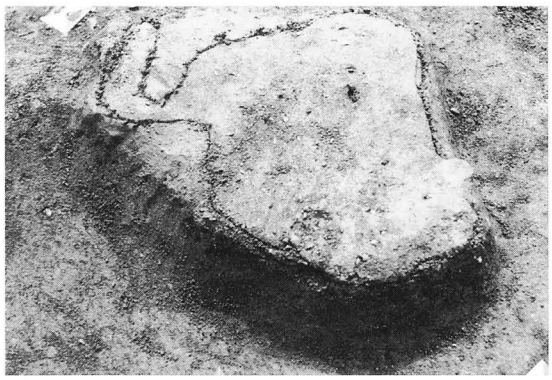
Ⅳ区　完堀

Ⅴ区北　完堀

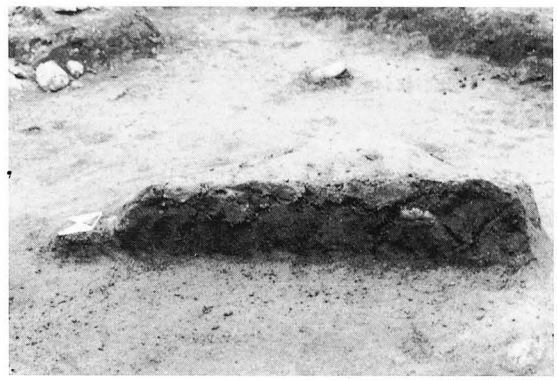


Ⅴ区南　完堀

写真図版２　各地域完堀



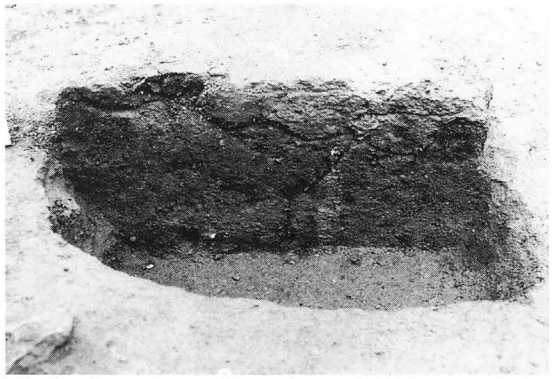
1号焼土　平面



1号焼土　断面

作業風景

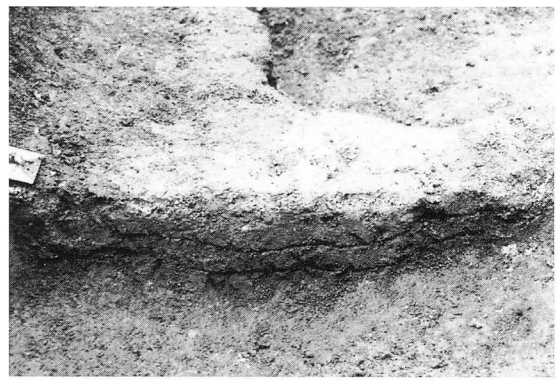
2号焼土　断面



3号焼土　断面

4号焼土　断面

5号焼土　平面



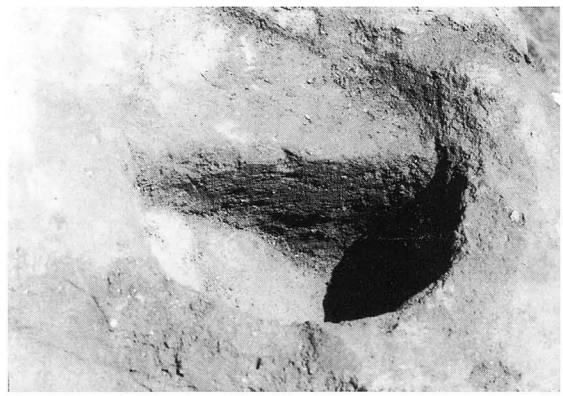
5号焼土　断面

写真図版3　1～5号焼土

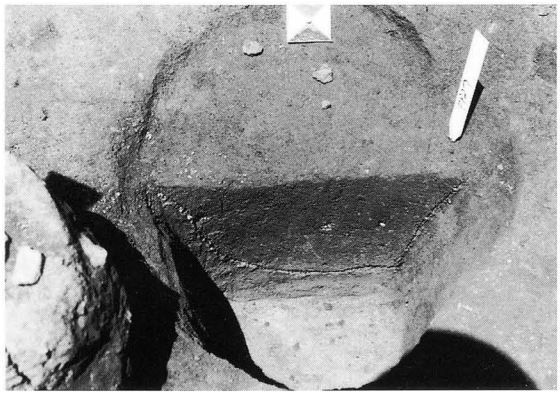
6号焼土

PP22・23

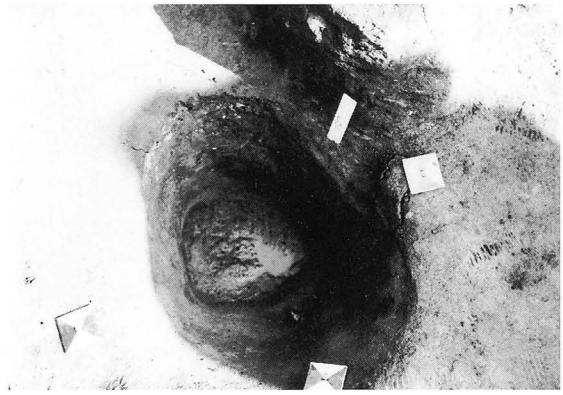
PP22・23



PP24

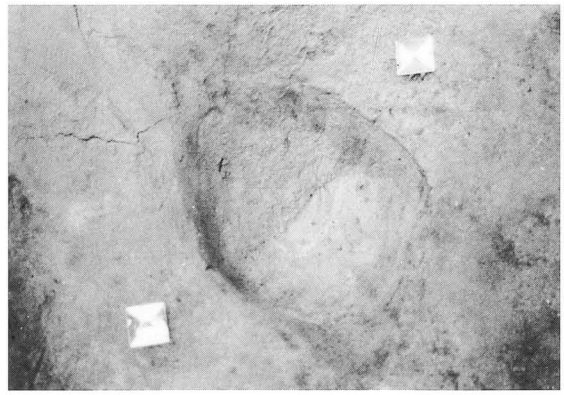


PP25



PP26

PP27

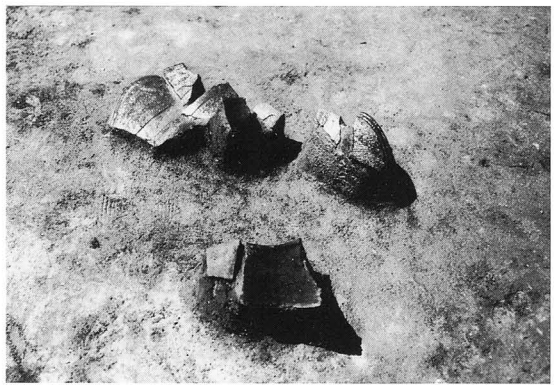


PP28

写真図版4　6号焼土・柱穴状小土坑

畝間状遺構　平面

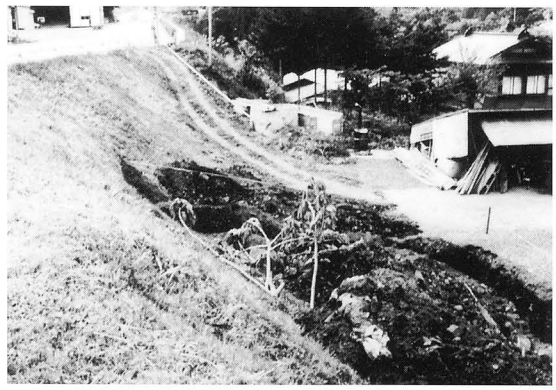
畝間状遺構　断面



遺物出土状況

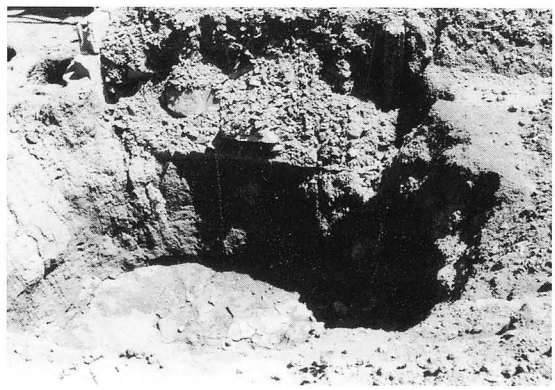
琥珀出土状況

炭化物



1区試堀

Ⅱ区作業風景



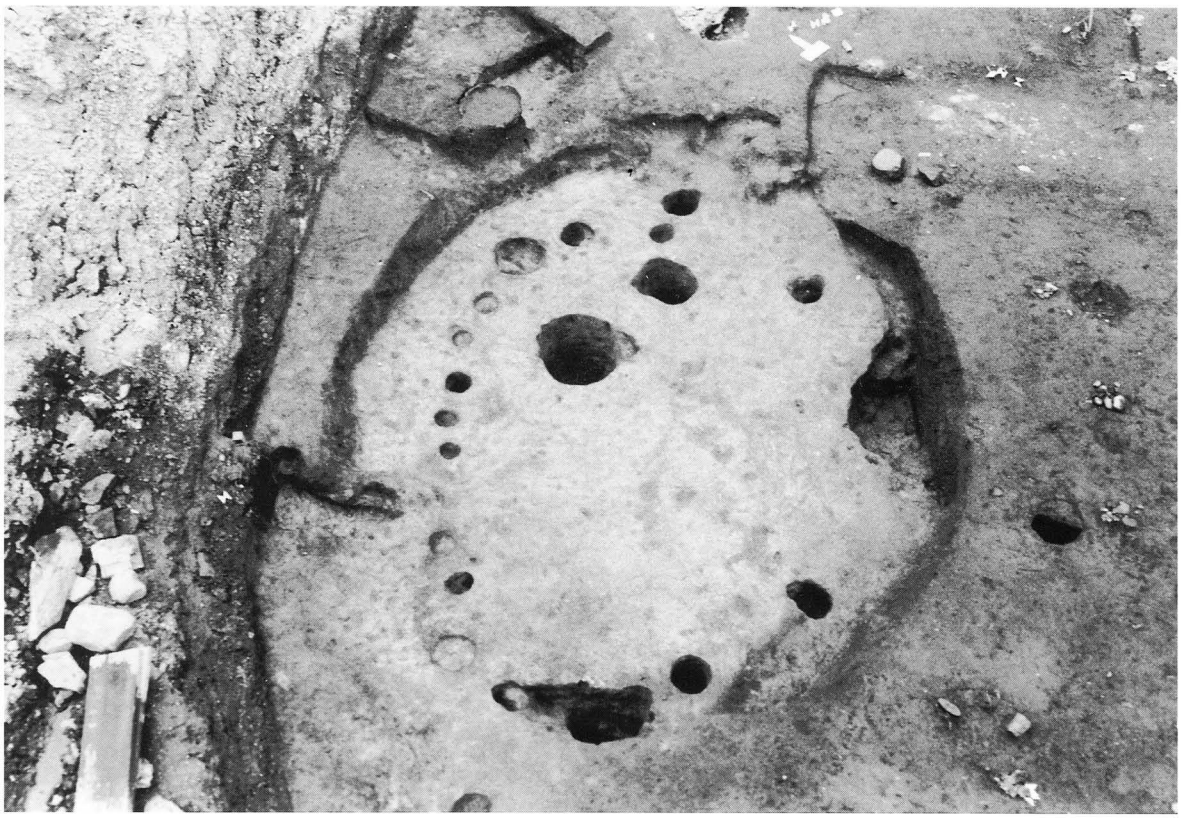
サイロ跡

写真図版5　畝間状遺構・遺物出土状況・他

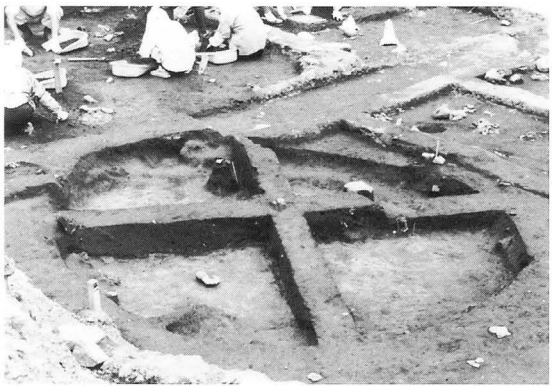
1号竪穴住居跡　平面

1号竪穴住居跡　断面

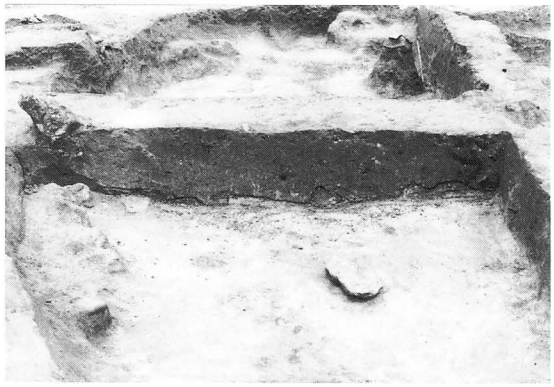
写真図版6　1号穴住居跡



2号竪穴住居跡　平面

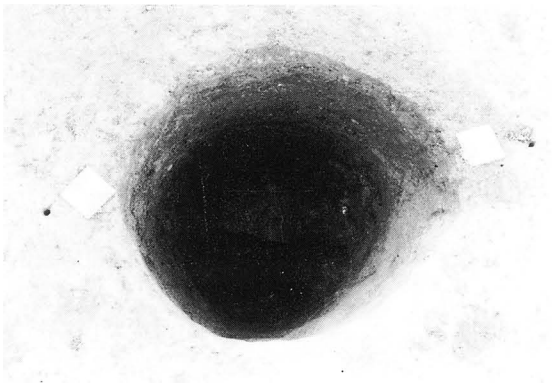


2号竪穴住居跡　断面



2号竪穴住居跡　断面

2号竪穴住居跡　焼土断面



2号竪穴住居跡　PP02平面

写真図版7　2号竪穴住居跡

3号竪穴住居跡　平面

3号竪穴住居跡　断面

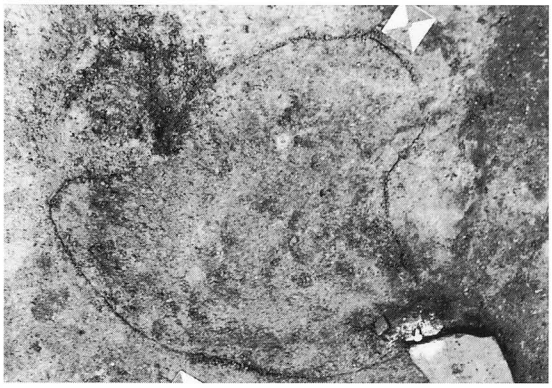
写真図版8　3号竪穴住居跡

4号竪穴住居跡　平面

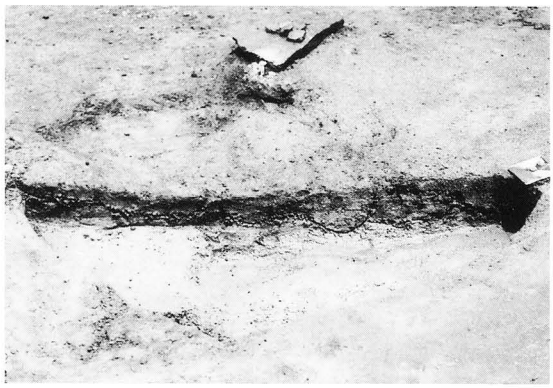
4号竪穴住居跡　断面

4号竪穴住居跡　断面

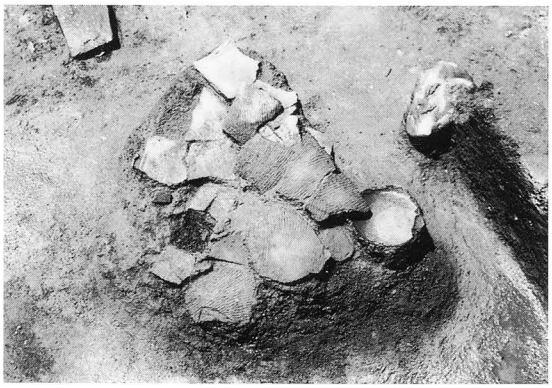
4号竪穴住居跡　P1・P2平面



4号竪穴住居跡　焼土平面



4号竪穴住居跡　焼土断面



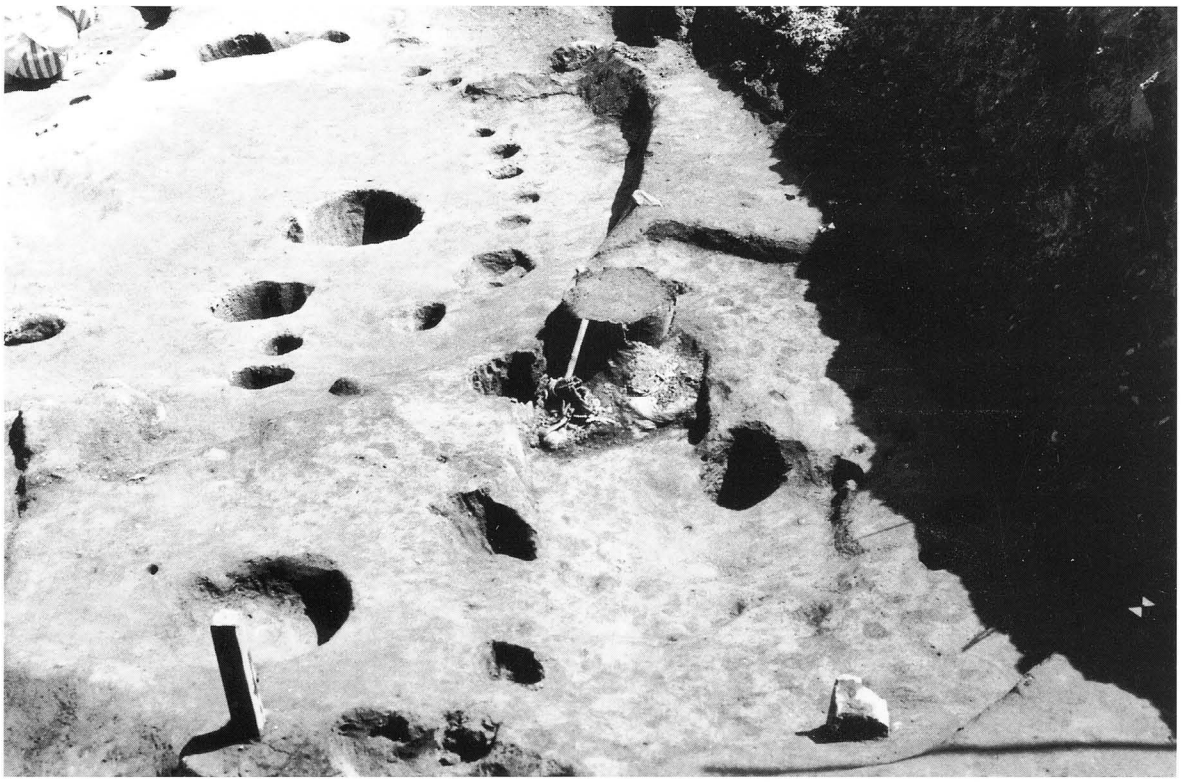
4号竪穴住居跡　土器出土状況

4号竪穴住居跡　土器出土状況

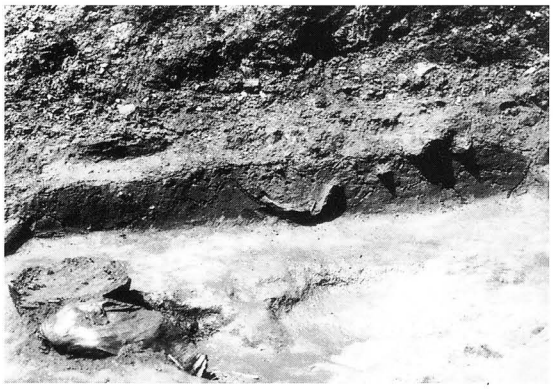
写真図版9　4号竪穴住居跡

5号竪穴住居跡　平面

5号竪穴住居跡　断面



6号竪穴住居跡　平面

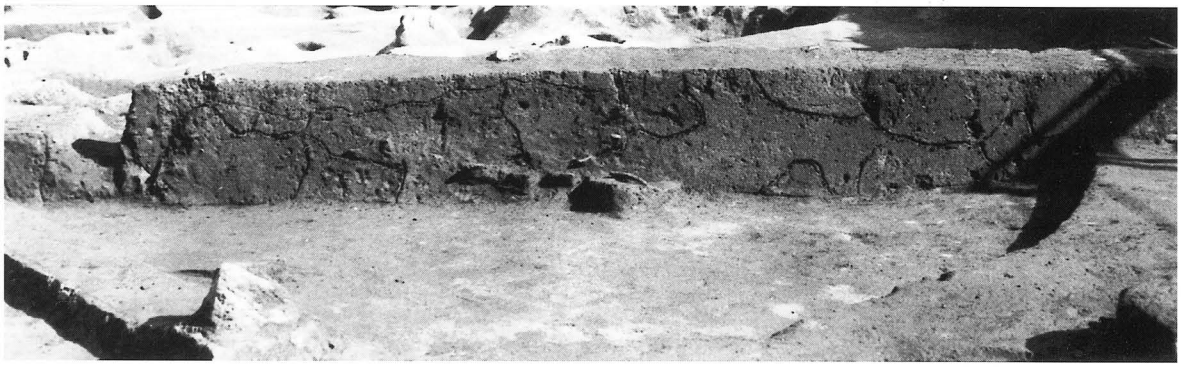


6号竪穴住居跡　断面

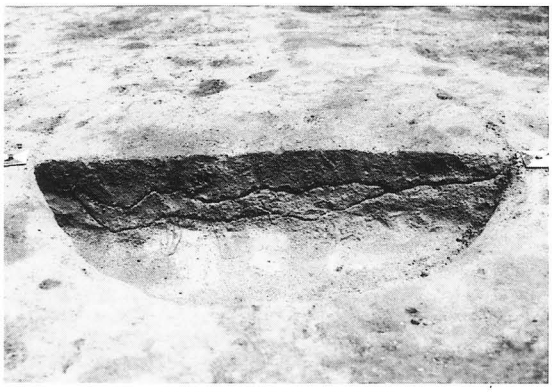
6号竪穴住居跡　埋設土器断面

写真図版10　5・6号竪穴住居跡

12号竪穴住居跡　平面



12号竪穴住居跡　断面

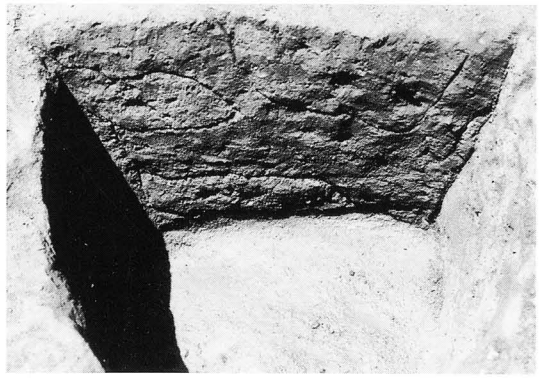


12号竪穴住居跡　焼土断面

13号竪穴住居跡　平面

写真図版11　12・13号竪穴住居跡

5号土坑　平面



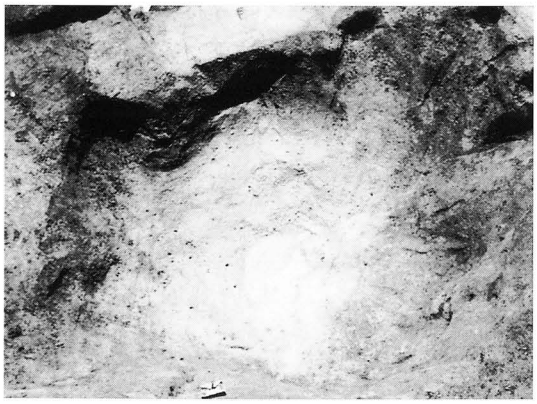
5号土坑　断面

6号土坑　土器出土状況

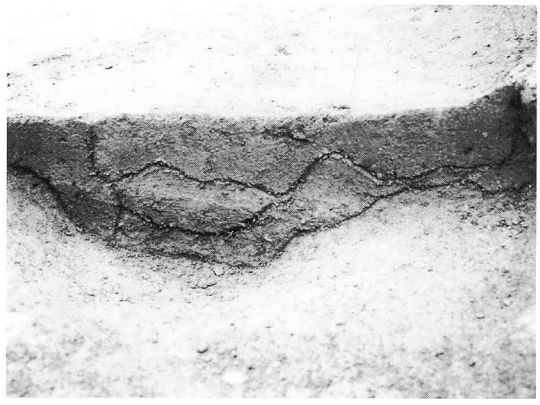
6号土坑　断面

7号土坑　平面

7号土坑　断面



8号土坑　平面



8号土坑　断面

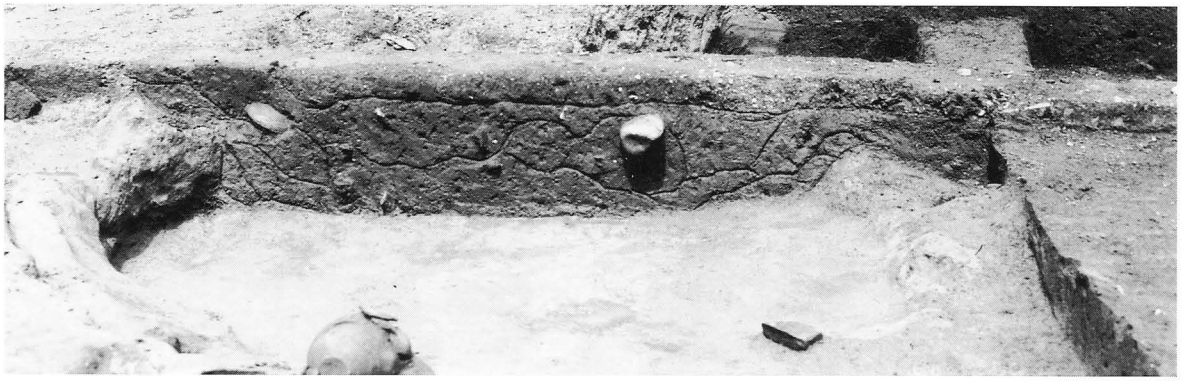
写真図版12　5～8号土坑

8号土坑　土器出土状況

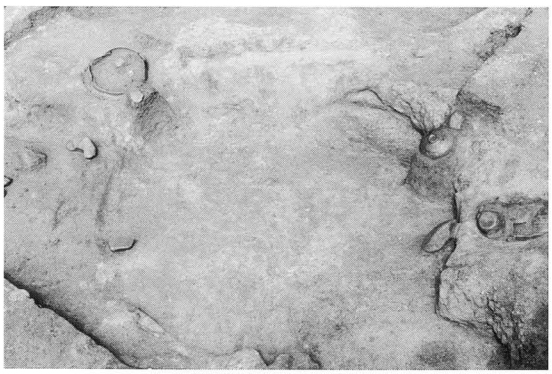
8号土坑　土器出土状況

10号土坑　平面

10号土坑　断面



11号土坑　断面



11号土坑　平面

11号土坑　土器出土状況

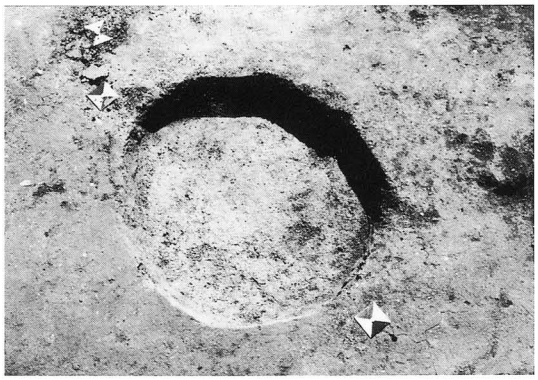
写真図版13　8・10・11号土坑

13号土坑　平面

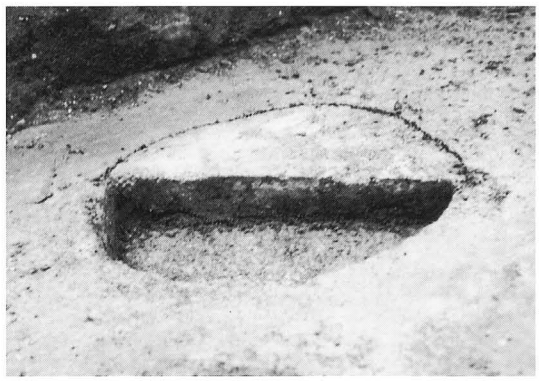
13号土坑　断面

14号土坑　平面

14号土坑　断面

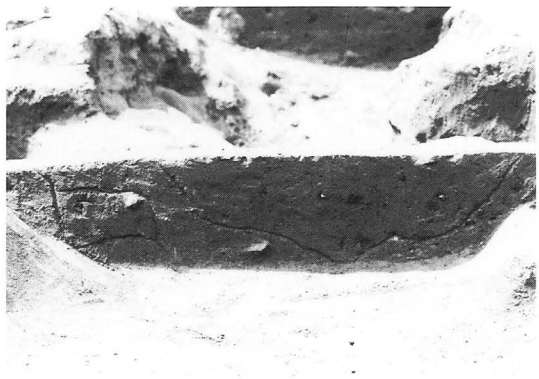


15号土坑　平面



15号土坑　断面

16号土坑　平面



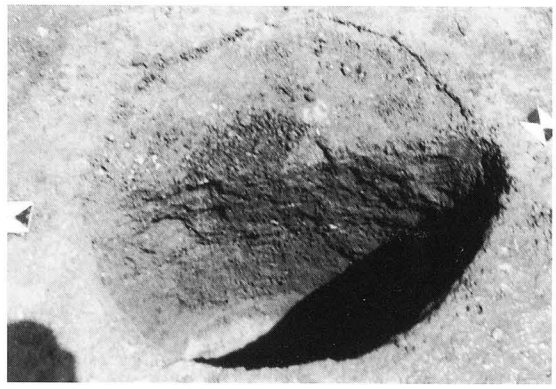
16号土坑　断面

写真図版14　13～16号土坑

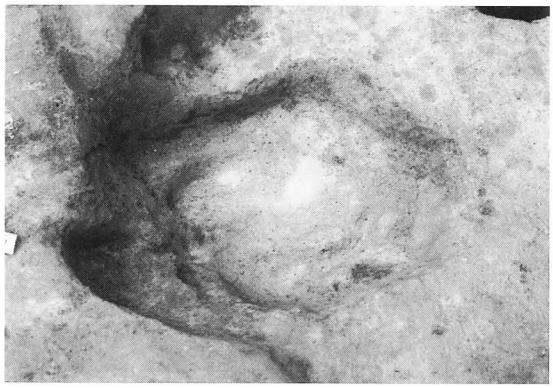
17号土坑　平面

17号土坑　断面

19号土坑　平面



19号土坑　断面



20号土坑　平面

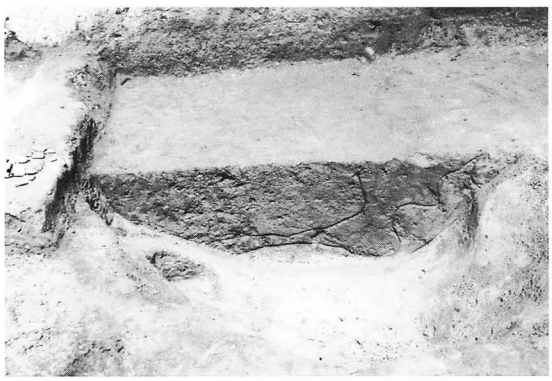
21号土坑　平面

20号土坑　断面

21号土坑　断面

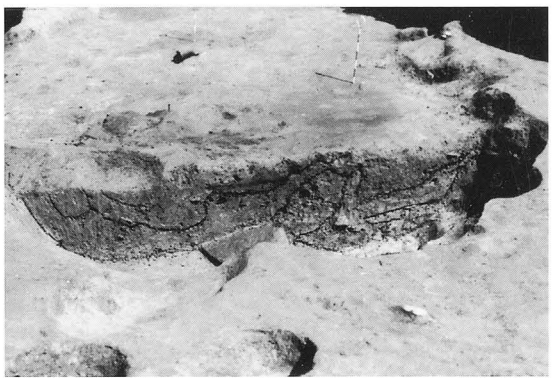
写真図版15　17・19・20・21号土坑

25号土坑　平面

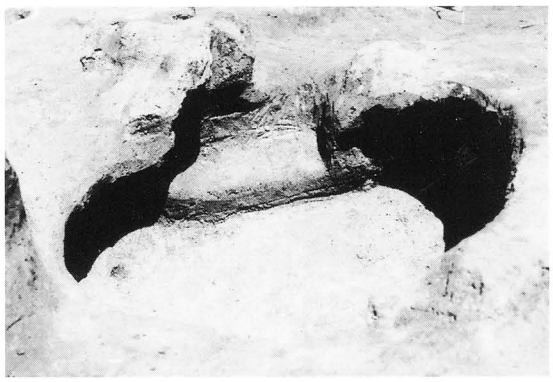


25号土坑　断面

26号土坑　平面

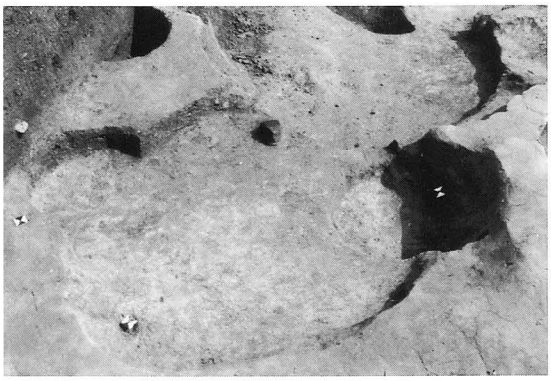


26号土坑　断面



27号土坑　平面

28号土坑　平面

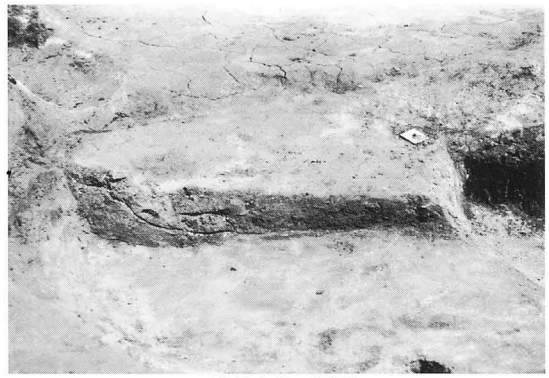


29号土坑　平面

29号土坑　断面

写真図版16　25～29号土坑

30号土坑　平面



30号土坑　断面

31号土坑　平面

31号土坑　断面

32号土坑　平面

32号土坑　断面

写真図版17　30～32号土坑

1号墓壙　平面

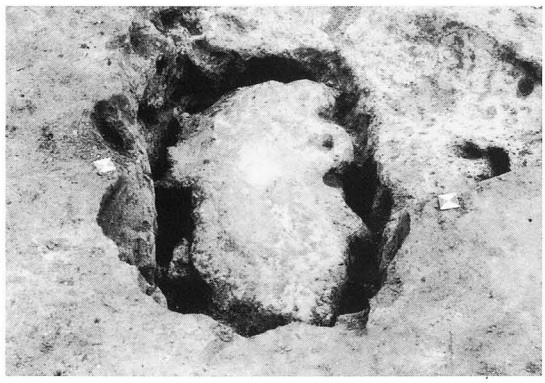
1号墓壙　断面

2号墓壙　平面

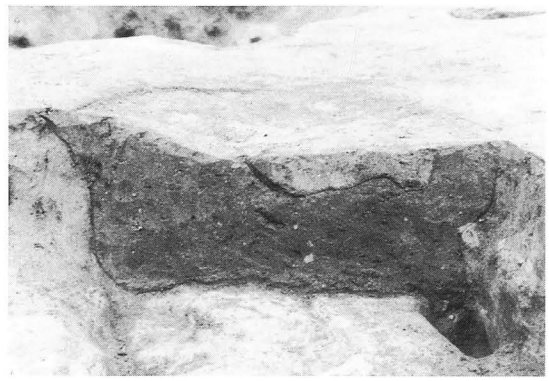
2号墓壙　断面

3号墓壙　平面

3号墓壙　断面



4号墓壙　平面



4号墓壙　断面

写真図版18　1～4号基壙

5号墓壙　平面

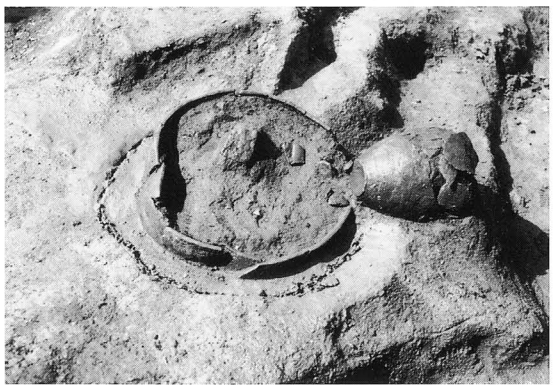
5号墓壙　断面

1号埋設土器　平面

1号埋設土器　断面

2号埋設土器　断面

2号埋設土器　半堀

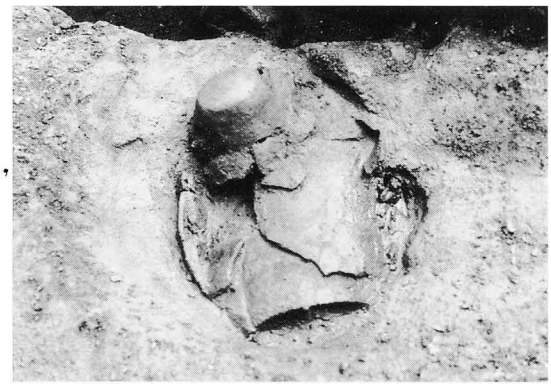


3号埋設土器　平面

3号埋設土器　断面

写真図版19　5号墓壙・1～3号埋設土器

4号埋設土器

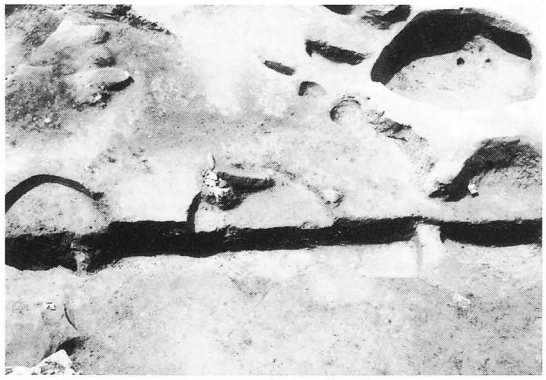


4号埋設土器

埋設土器例

写真図版20　4号埋設土器・埋設土器例

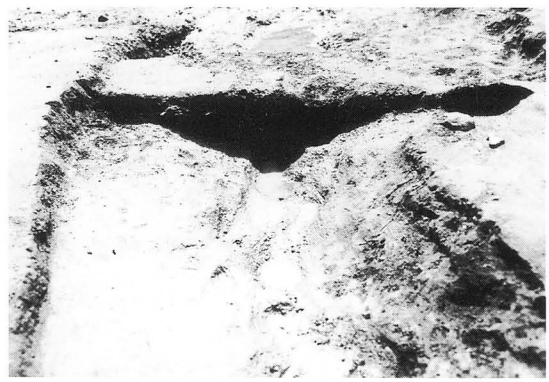
掘立柱建物跡



2・3柱穴　断面

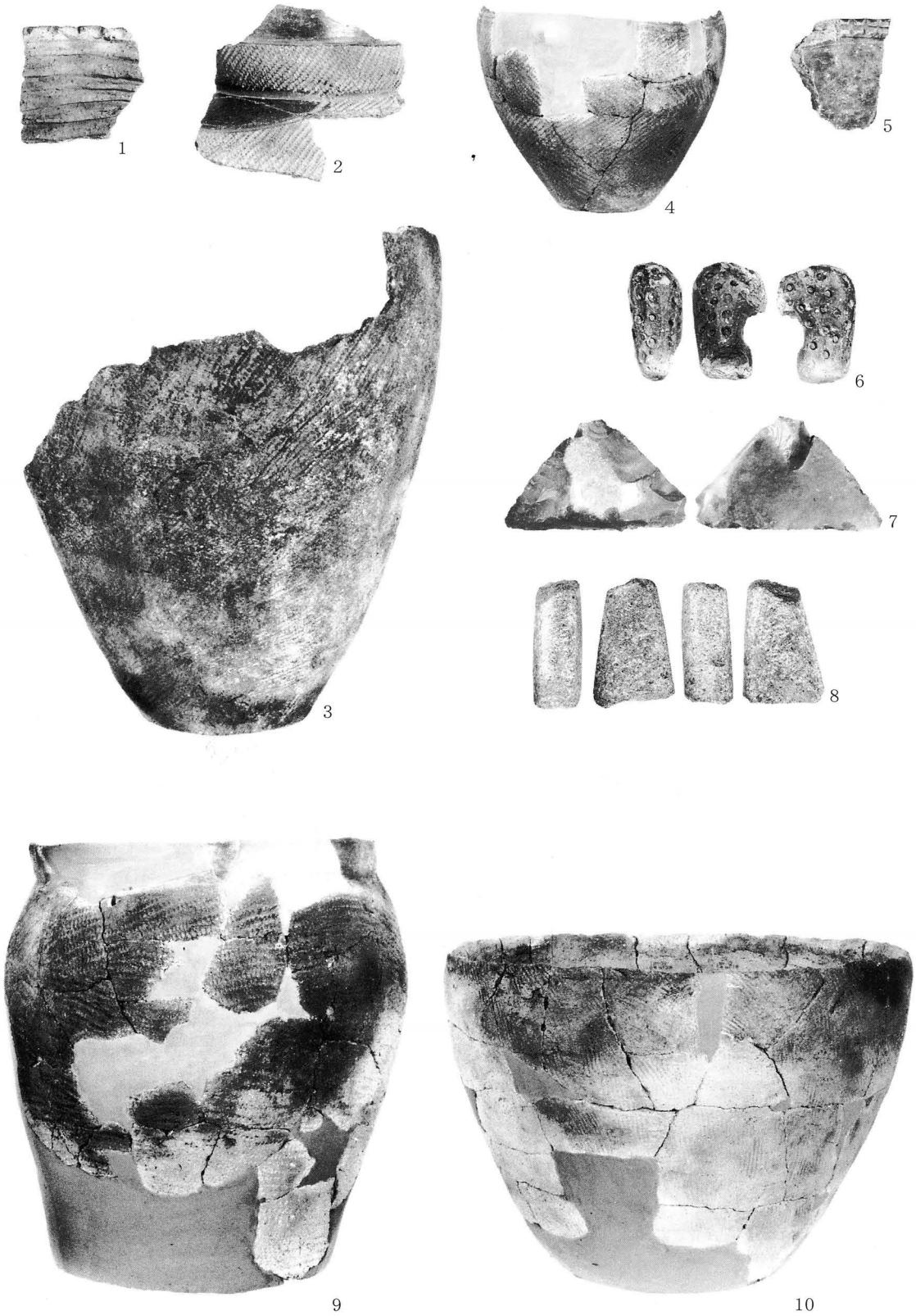
配石遺構

溝跡　平面



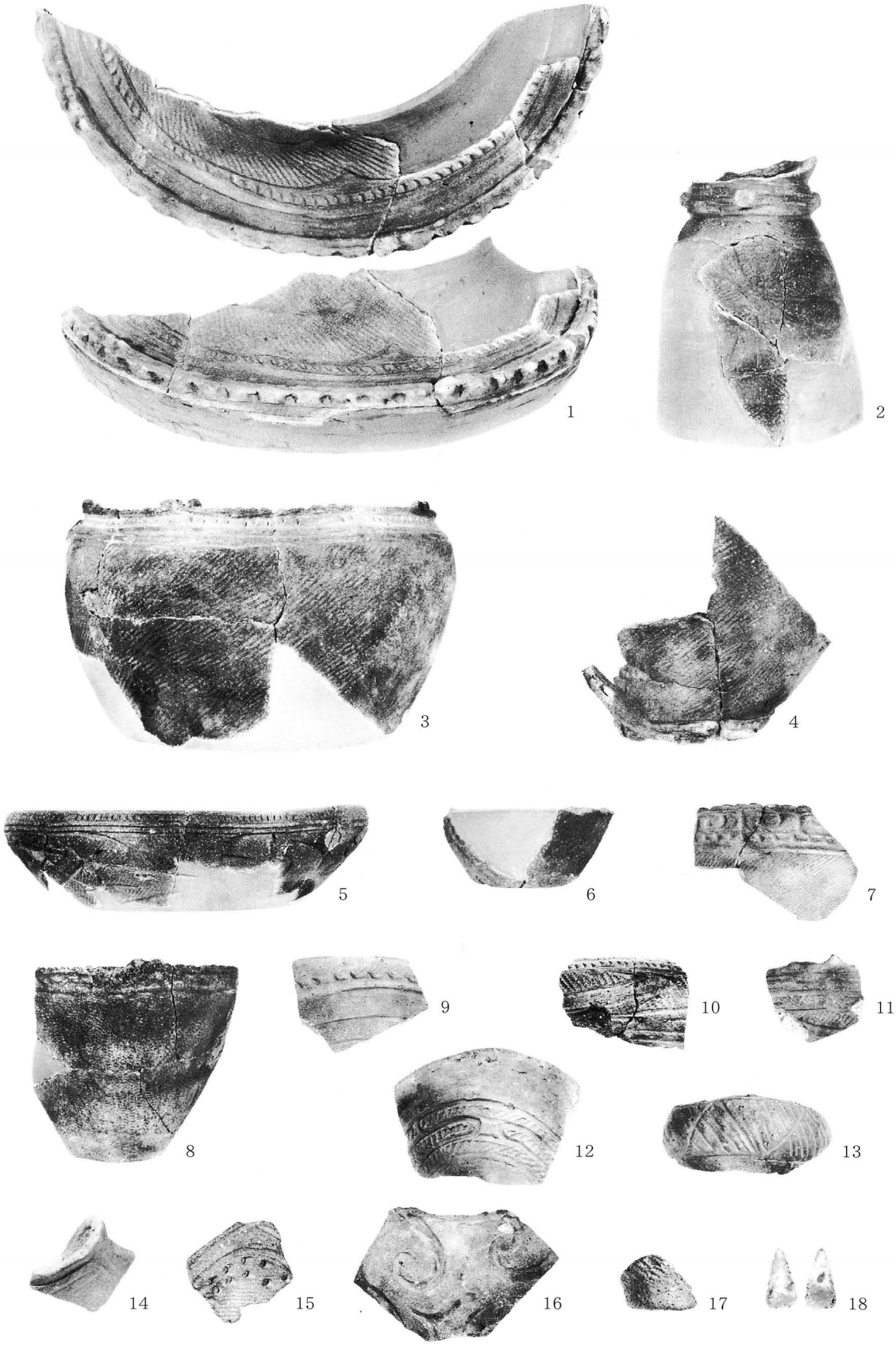
溝跡　断面

写真図版21　掘立柱建物跡・柱穴・配石遺構・溝跡



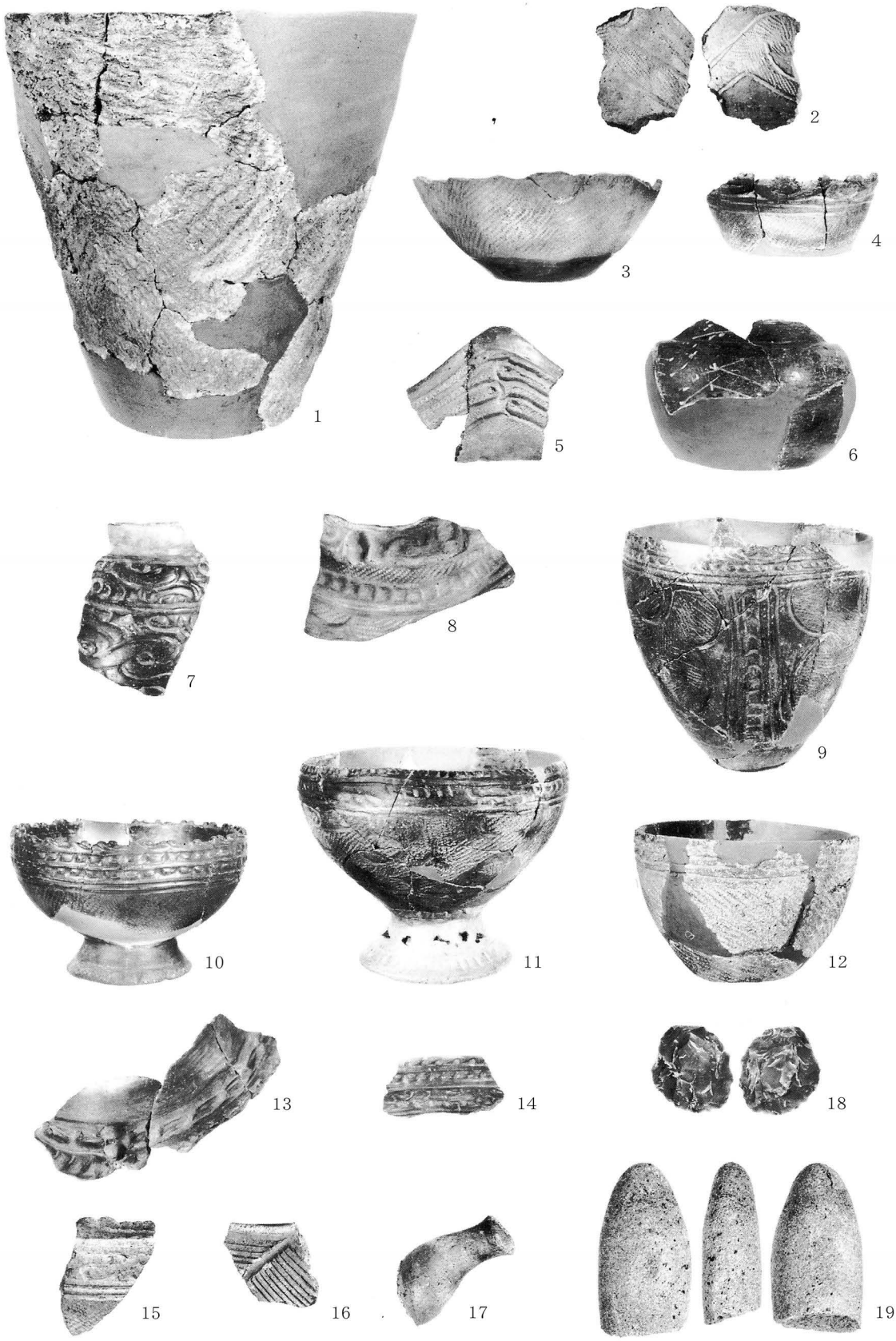
1：RF01
2~8：RA01
9・10：RA02

写真図版22　遺構内出土遺物(1)



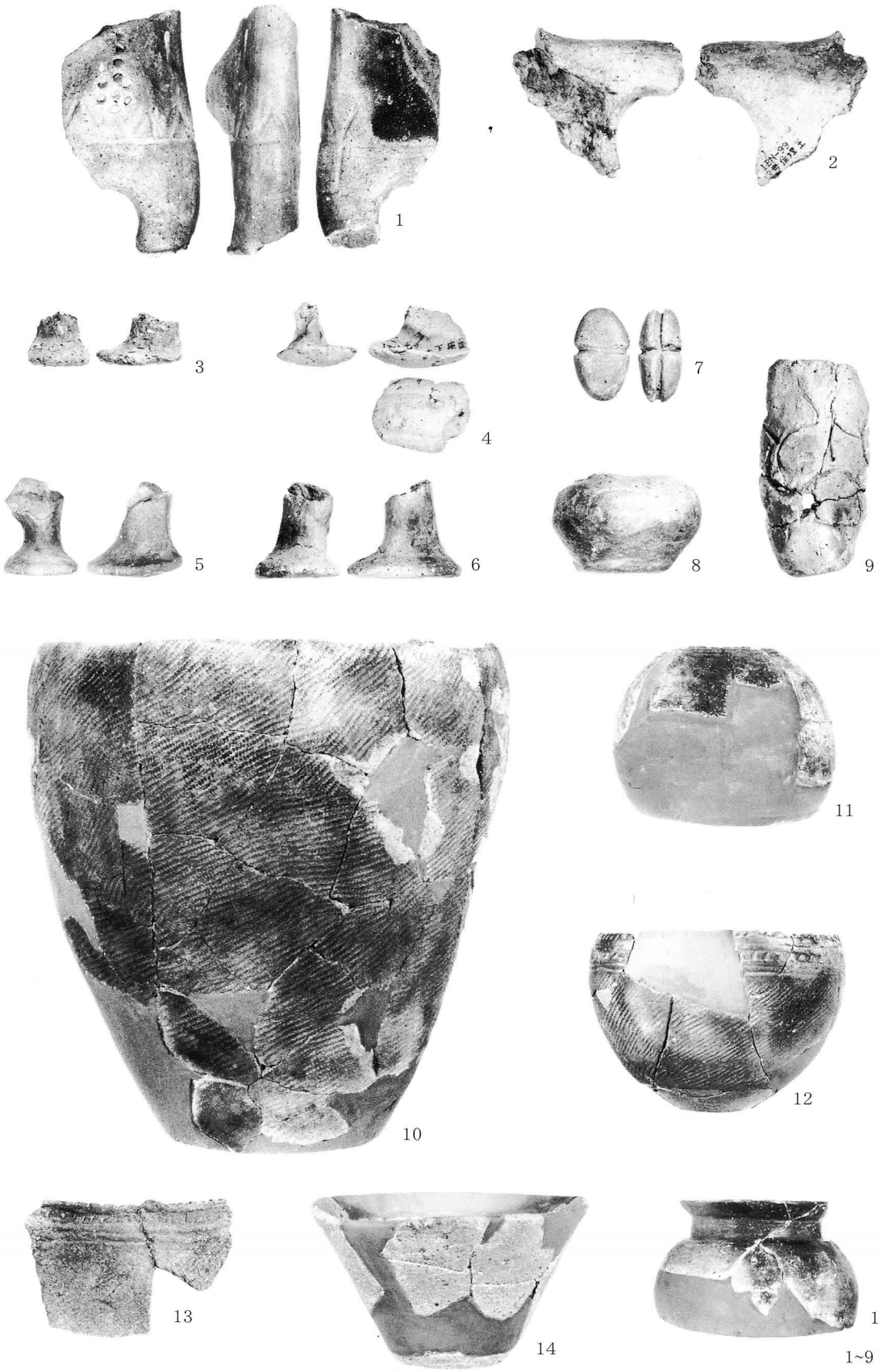
1~18：RA02

写真図版23　遺構内出土遺物(2)



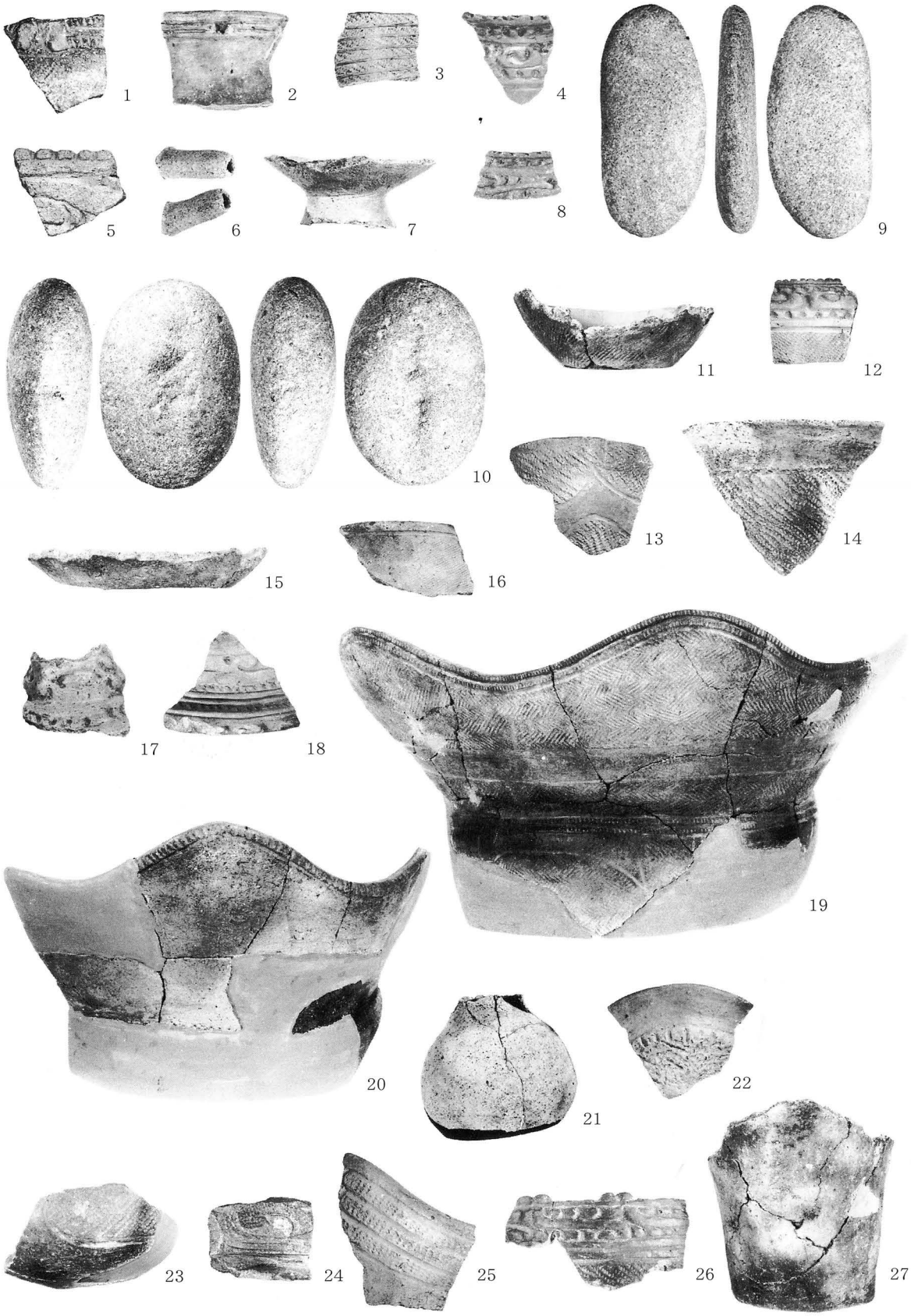
1～19：RA03

写真図版24　遺構内出土遺物(3)



1~9：RA03
10~15：RA04

写真図版25　遺構内出土遺物(4)

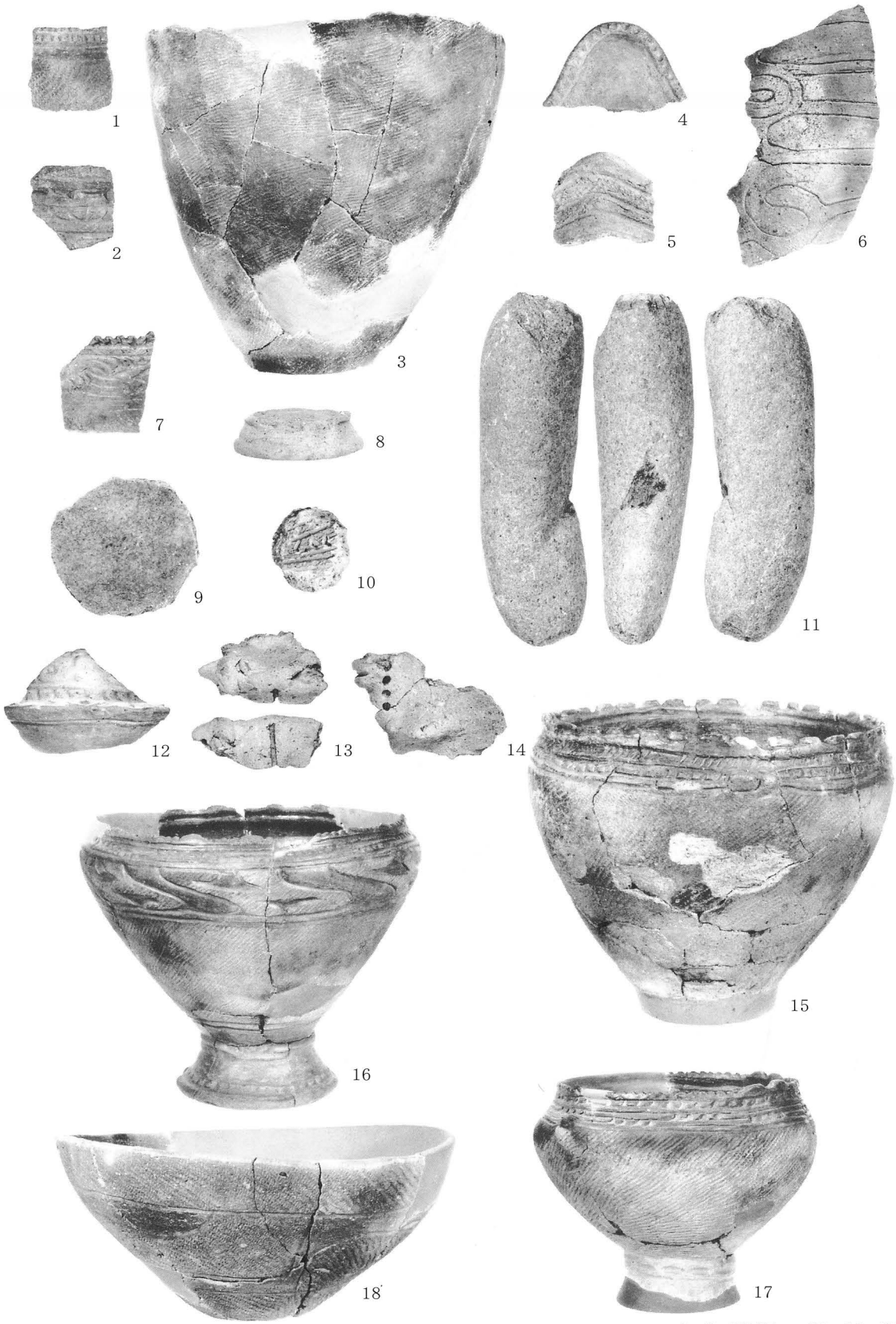


写真図版26　遺構内出土遺物(5)

1～10：RA04　17・18：RA06
11～16：RA05　19～27：RA12

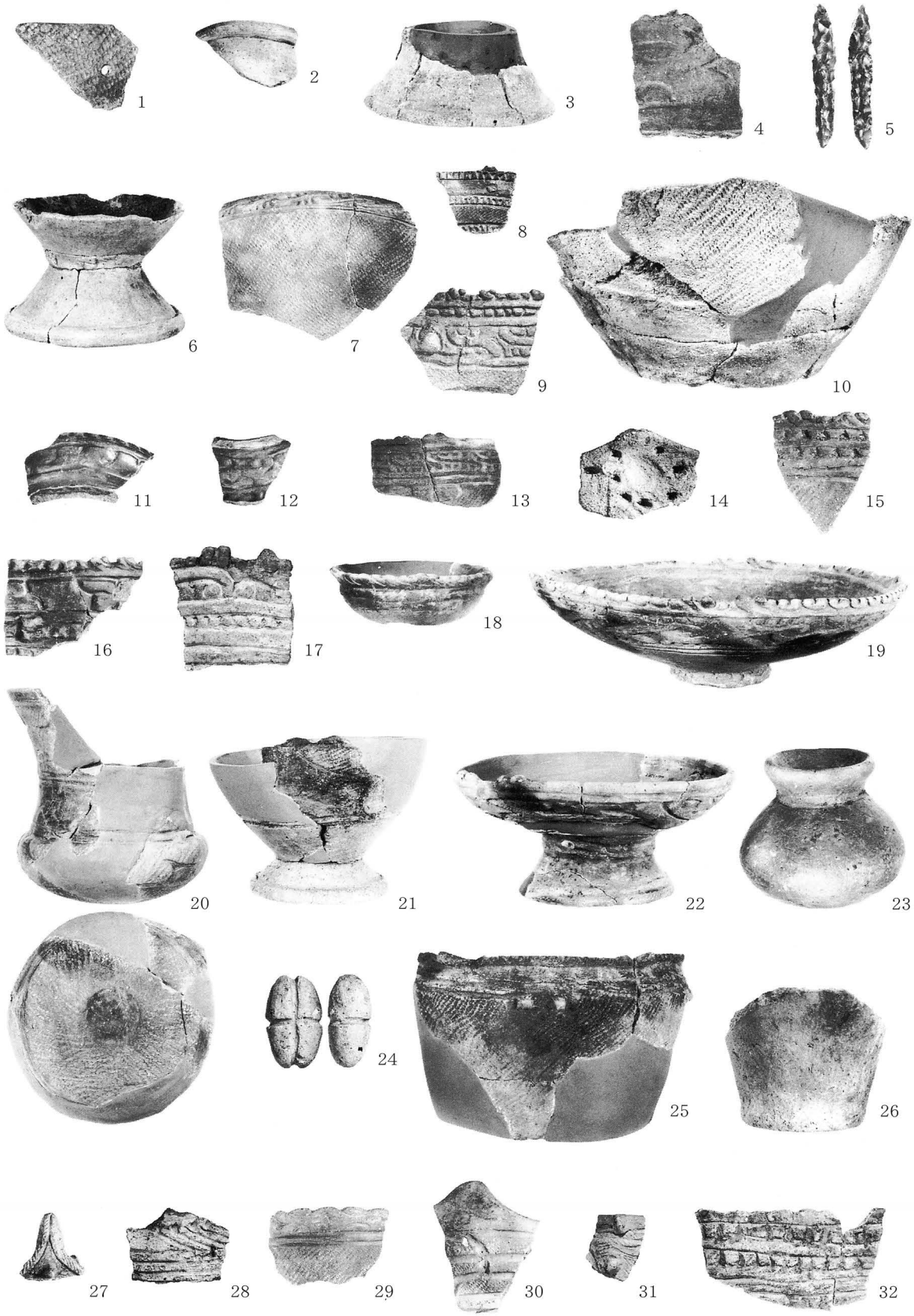
1～ 3：RA12
4～20：RA13

写真図版27　遺構内出土遺物(6)



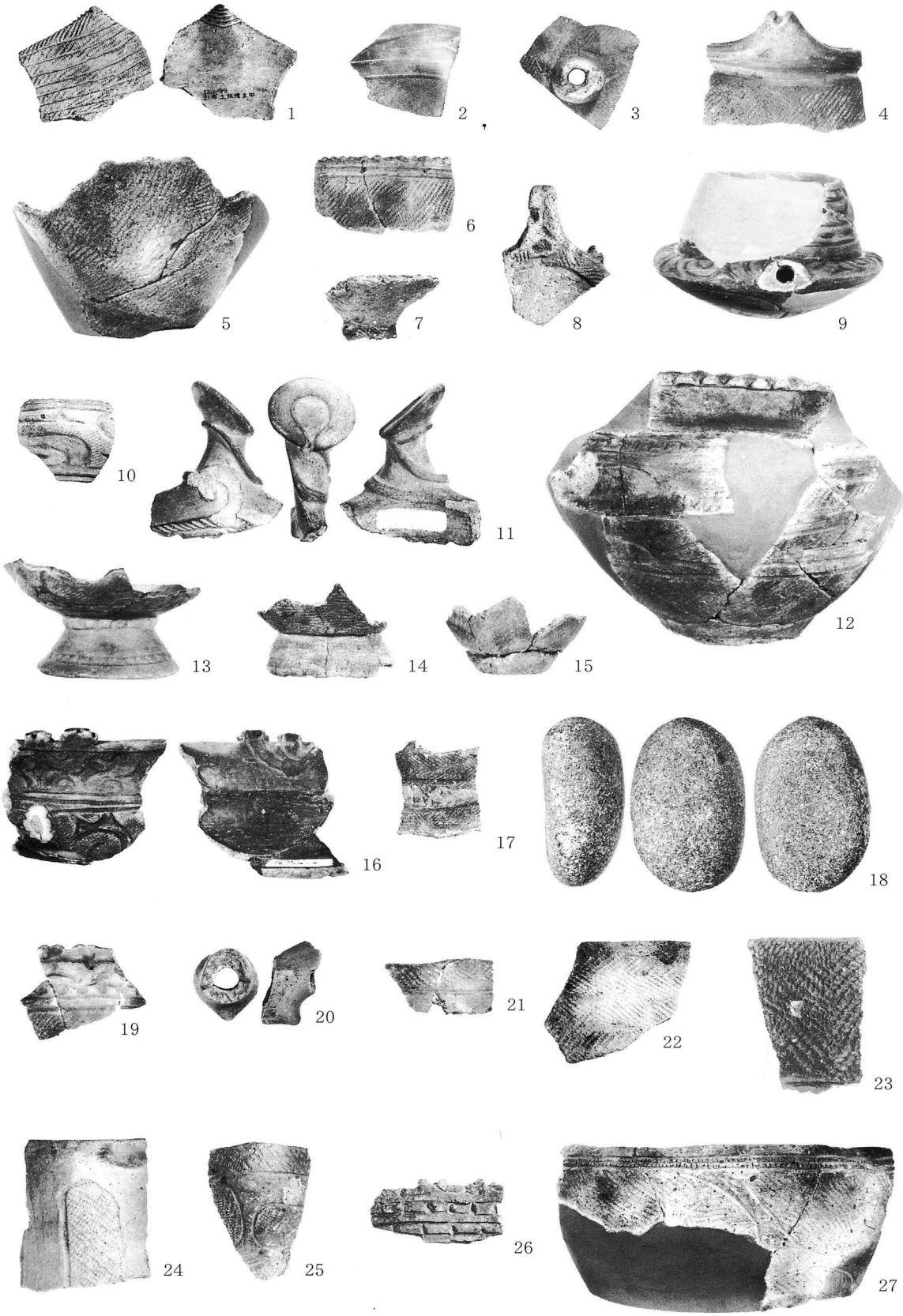
写真図版28　遺構内出土遺物(7)

1・2：RD05　12～14：RD07
3～11：RD06　15～18：RD08



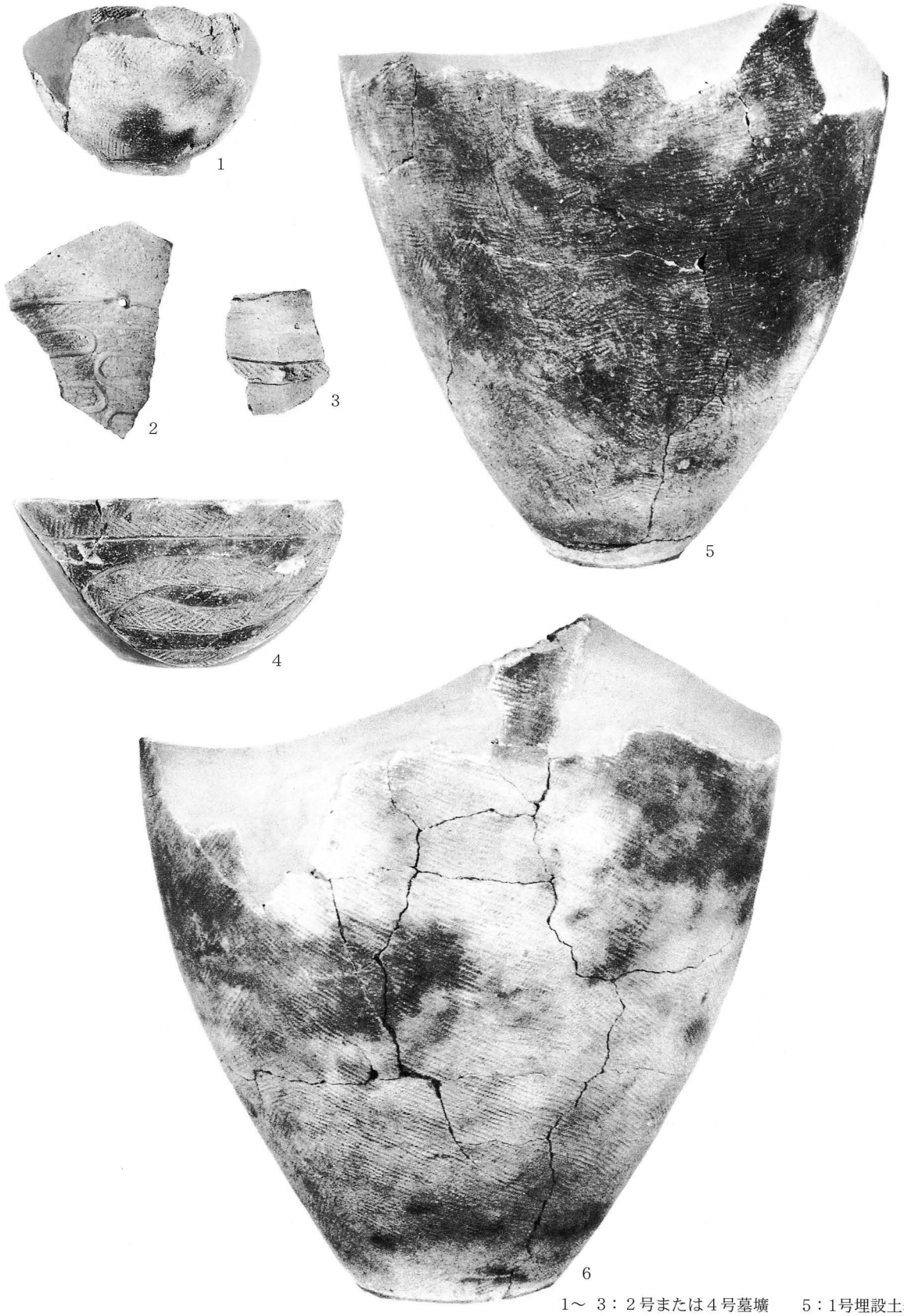
写真図版29　遺構内出土遺物(8)

1～ 5：RD08　26～29：RD14
6～24：RD11　30・31：RD16
25：RD13　32：RD20



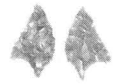
写真図版30　遺構内出土遺物(9)

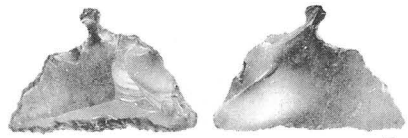
1～3：RD21
4：RD25
5～15：RD26
16～18：RD27
19～21：RD28
22：RD29
23～26：１号墓壙
27：２号または４号墓壙

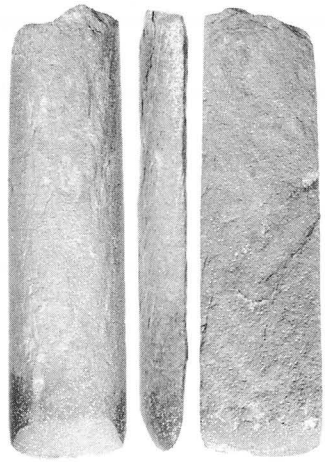


写真図版31　遺構内出土遺物(10)

1～ 3：2号または4号墓壙　　5：1号埋設土器
4：3号墓壙　　6：2号埋設土器

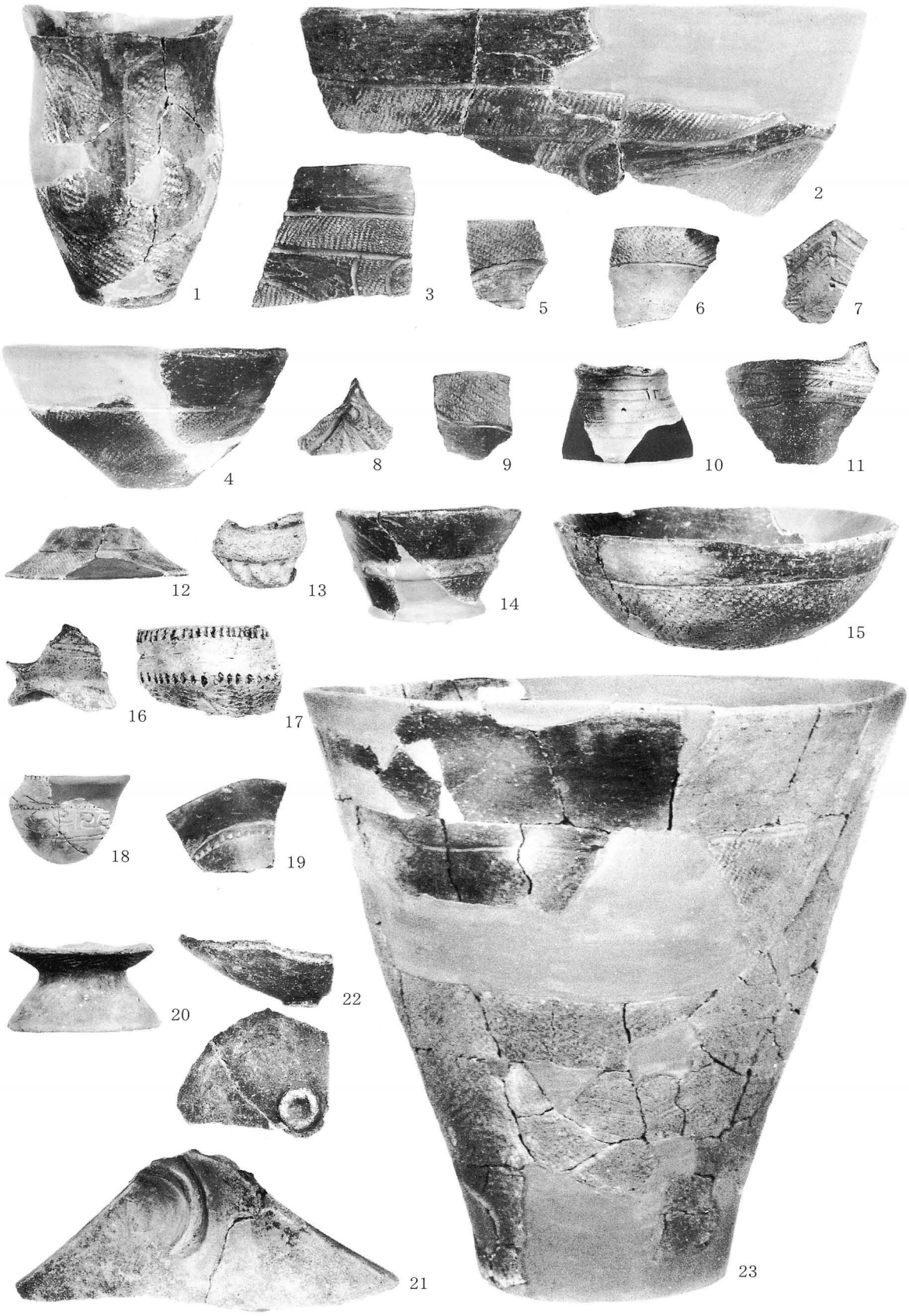




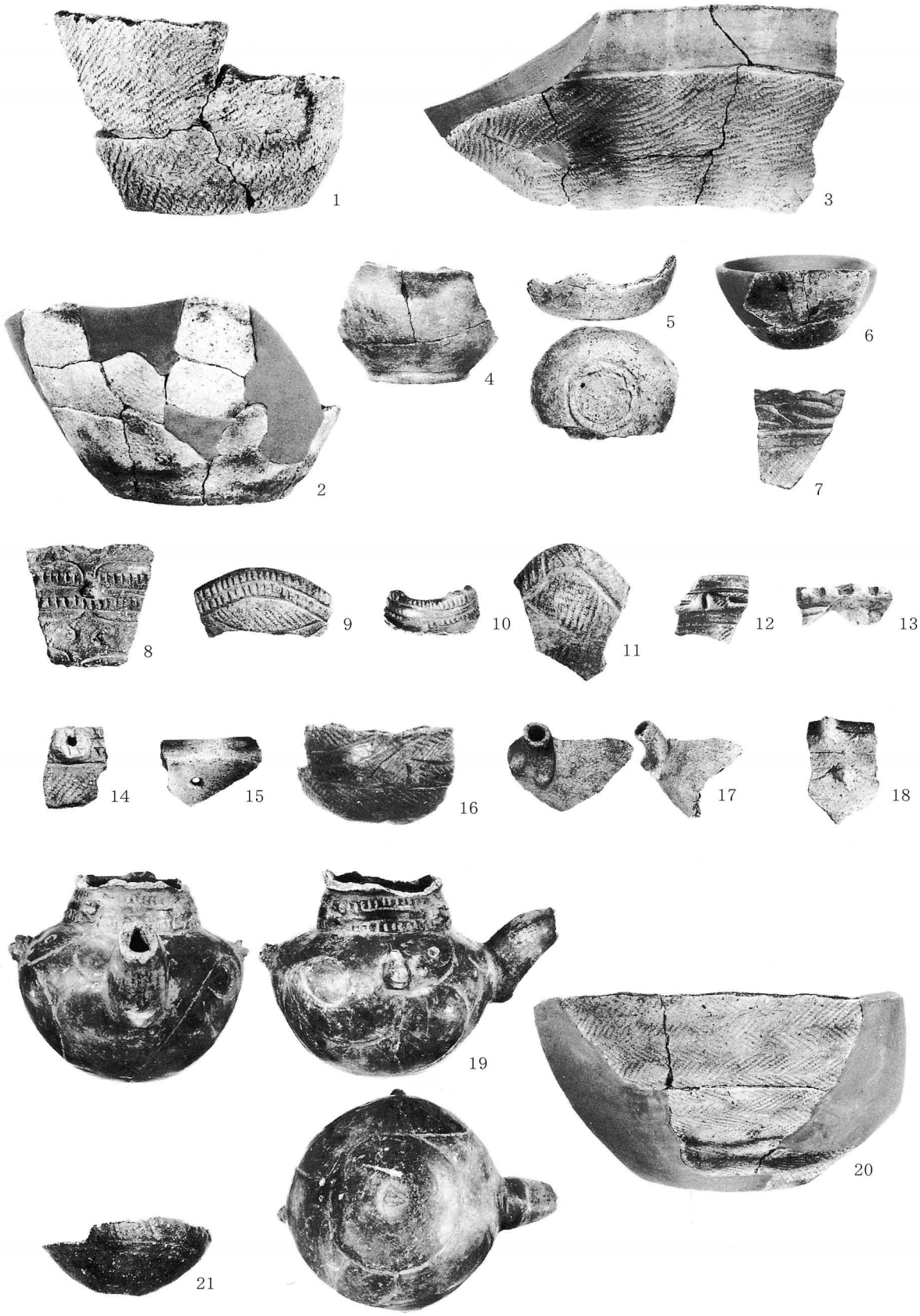


写真図版32　遺構内出土遺物(11)

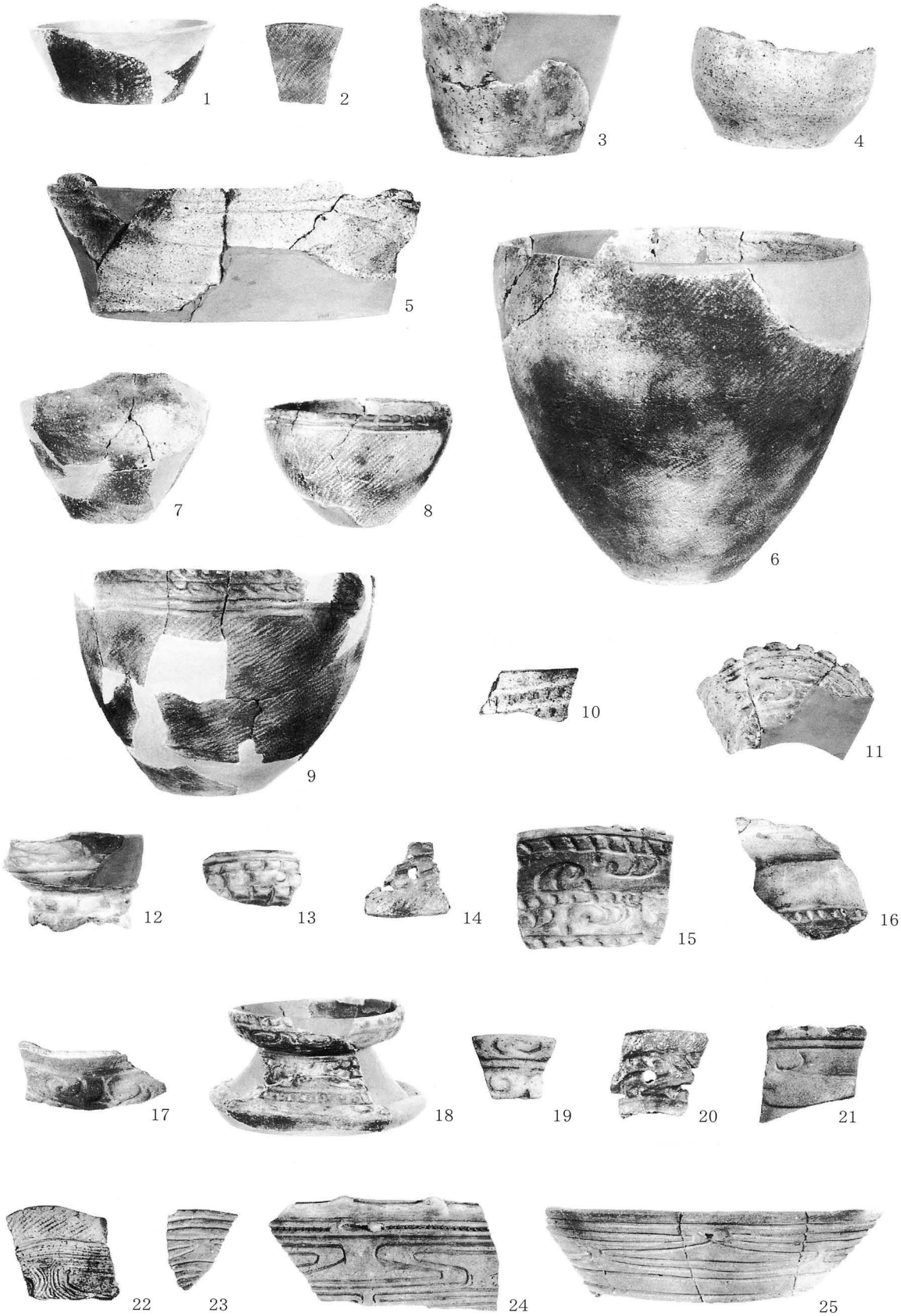
1・2：３号埋設土器
3・4：４号埋設土器
5・6：溝状遺構



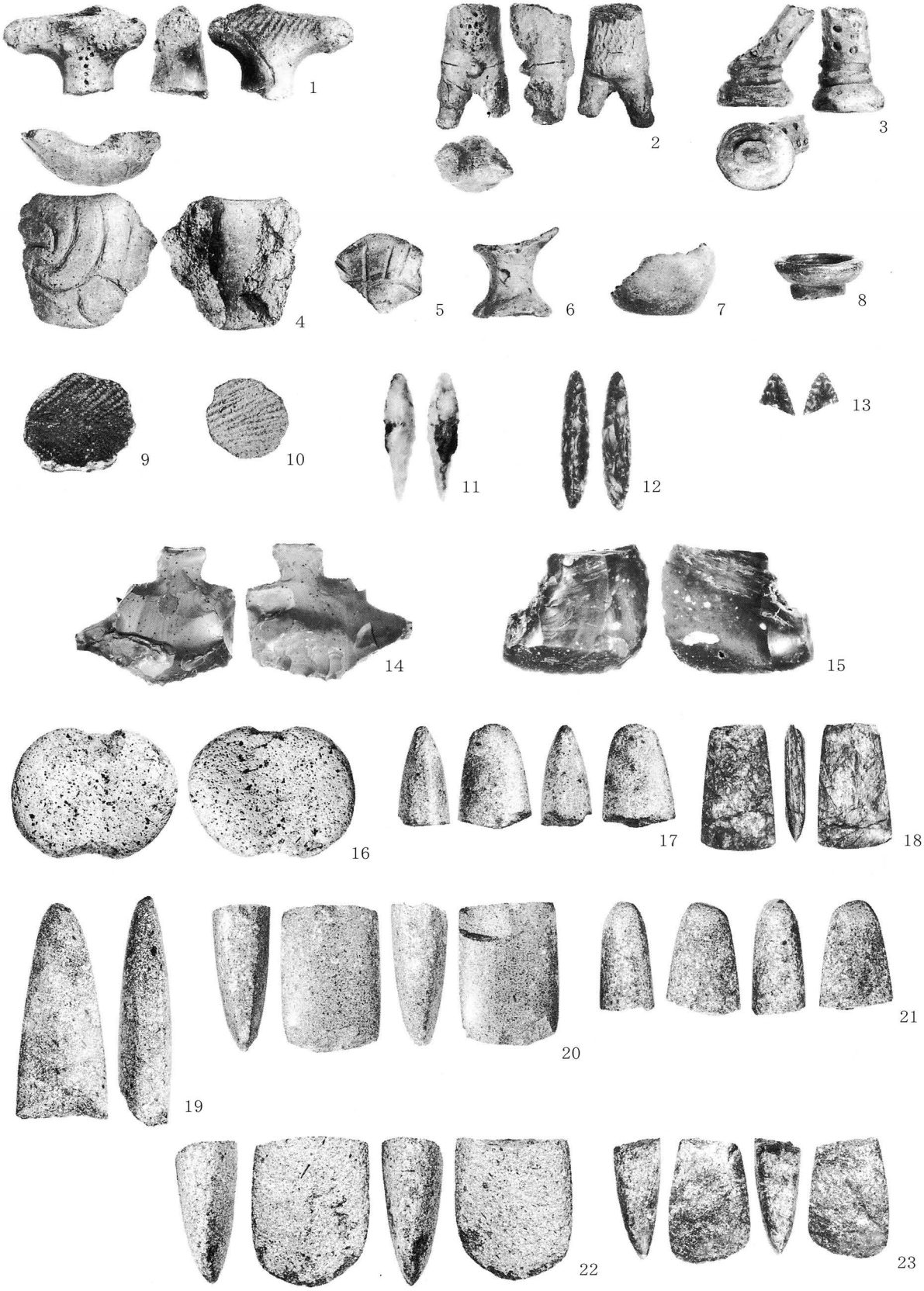
写真図版33　遺構外出土遺物(土器１)



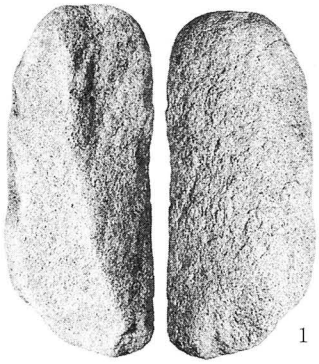
写真図版34　遺構外出土遺物(土器２)



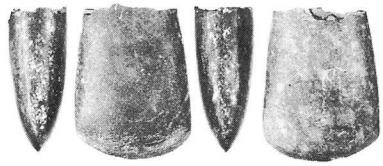
写真図版35　遺構外出土遺物(土器３)

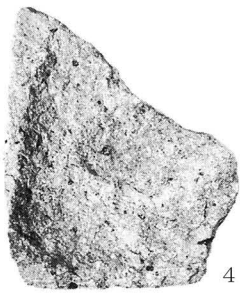


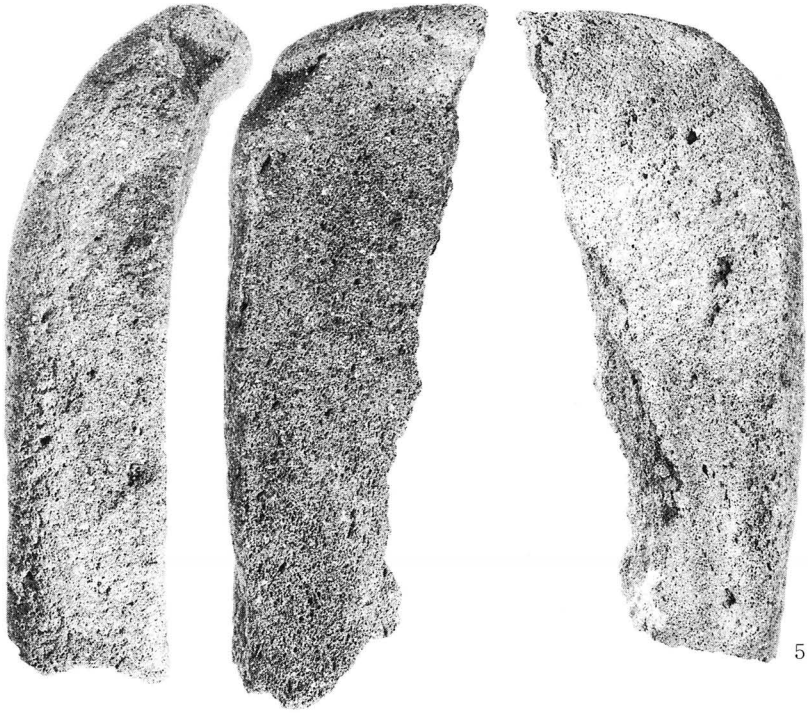
写真図版36　遺構外出土遺物(土製品・石器１)


1

2


3


4


5

6

写真図版37　遺構外出土遺物(石器２・石製品)

報告書抄録

ふりがな	いちべないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	市部内遺跡発掘調査報告書
副書名	主要地方道一戸葛巻線市部内地区県単道路改良事業遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第350集
編著者名	中田　迪
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853　盛岡市下飯岡11-185　TEL　０１９－６３８－９００１・９００２
発行年月日	西暦　2001　年　3　月　21　日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
市部内遺跡 (いちべないいせき)	岩手県岩手郡葛巻町 (いわてけんいわてぐんくずまきまち) 田部字市部内30-1 (たべあざいちべない) ほか	03302	JF52-1213	40度 7分 21秒	141度 22分 34秒	19990601 ～ 20000331	2500㎡	県道一戸葛巻線道路改良工事にともなう緊急発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
市部内遺跡	集落跡	縄文時代 後期 晩期	竪穴住居跡　8棟 土坑　22基 墓壙　5基 埋設土器　5基 溝跡　1条 焼土遺構　7基 その他	縄文土器 石器 土製品 石製品	土偶 琥珀

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

【職　　員】

所　　長　伊藤民也　　副所長　櫻田次男

〔管理係〕

課　　長　川浪清徳
課長補佐　山崎善光
主　　査　立花多加志
主　　事　日影睦夫
委　　託　千葉芳夫
〃　藤島恵子
〃　新田トヨ
〃　佐々木光重

〔調査第一課〕

課　　長　佐々木勝
課長補佐　佐々木清文
主任文化財専門調査員　小山内透
文化財専門調査員　赤石登
〃　吉田充
〃　小原眞一
〃　小笠原健一郎
〃　金野進
〃　鳥居達人
〃　金子昭彦
〃　東海林淳美
〃　阿部勝則
〃　羽柴直人
〃　小野寺正之
〃　菅原靖男
〃　長村克稔
〃　溜浩二郎
〃　菊池貴広
〃　村上拓
〃　本多準一郎
〃　北村忠昭
〃　丸山浩治
〃　村木敬
期限付専門職員　小林弘卓
〃　江藤敦
〃　藤原賢徳（6月退職）
〃　菊池賢
〃　井上信介
〃　川又晋
〃　吉田真由美
〃　北田博義（11月退職）

〔調査第二課〕

課　　長　高橋興右衛門
課長補佐　中川重紀
主任文化財専門調査員　高橋義介
〃　金子佐知子
文化財専門調査員　中田迪
〃　工藤道孝
〃　古舘貞身
〃　阿部眞澄
〃　松尾芳幸
〃　工藤徹
〃　前田稔
〃　岩渕計
〃　早坂悟
〃　濱田宏
〃　安藤由紀夫
〃　高木晃
〃　千葉正彦
〃　佐藤淳一
〃　半澤武彦
〃　杉沢昭太郎
〃　中村直美
〃　星雅之
期限付専門職員　鈴木聡（12月退職）
〃　吉川徹
〃　北田勲
〃　吉田里和
〃　原美津子
〃　齋藤麻紀子
〃　島原弘征

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書　第350集

市部内遺跡発掘調査報告書

主要地方道一戸葛巻線市部内地区県単道路改良事業遺跡発掘調査

印刷　平成13年３月15日
発行　平成13年３月21日

発行　㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11-185
TEL（019）638－9001

印刷　第一印刷有限会社
〒020-0122　岩手県盛岡市みたけ四丁目6-40
TEL（019）646－6001

㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2001